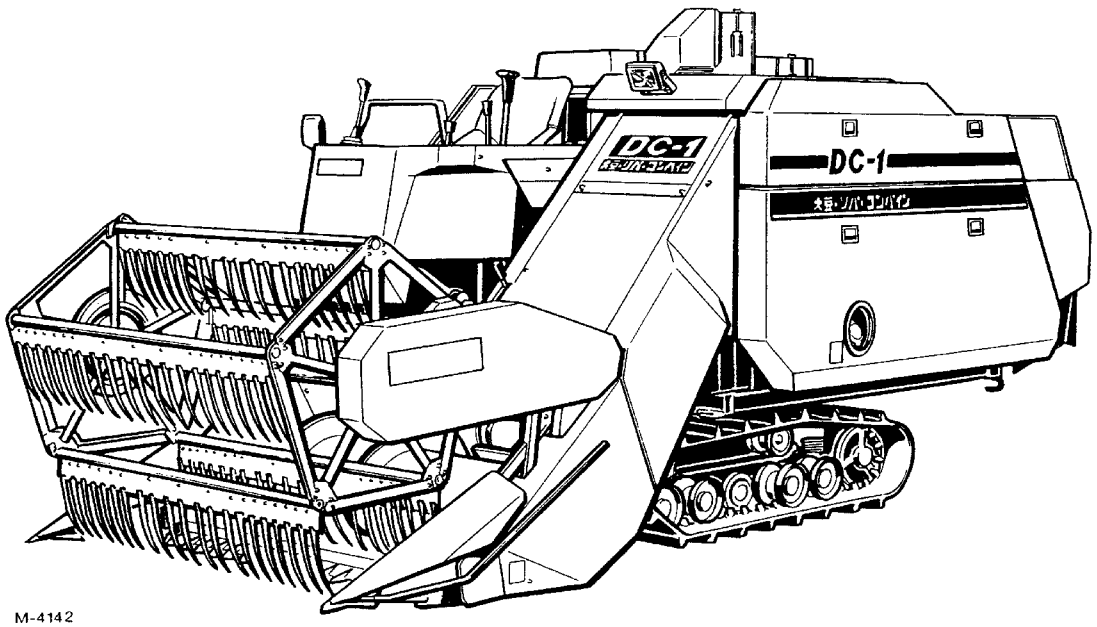
クボタ 大豆・そば用 コンバイン

取扱説明書

DC-1
デコイチ



M-4142

ご使用前に必ずお読みください

Kubota

コンバイン ✚ 安全五憲章

1．カッタの掃除は，必ずエンジンを止めてから行ないます。

2．枕脱こくのときは，刈刃を止めて行ないます。

3．脱こく内部の確認は，
必ずエンジンを止めてから行ないます。

4．チェーン・ベルト・その他回転部の点検調節は，
必ずエンジンを止めてから行ないます。

5．共同作業は，必ずホーンで合図し安全を確認します。

この機械をお使いになるときは復唱してください。

安全に作業していただくため，ぜひ守っていただきたい注意事項を，これ以外にも本文の中で **安全ポイント** としてその都度とり上げております。更に，安全ポイントを抜粋した安全注意ポスタ・納入品安全説明書を別冊にして添付しておりますので，よくお読みいただいて必ず守ってください。

安全に作業をするために

安全に収穫作業をしていただくために，次のことを守ってください。

1. はじめに

まず，お手もとの〔取扱説明書〕と〔納入品安全説明書〕，〔安全注意ポスタ〕を読むことからお始めください。これが，安全作業への一番の近道です。

2. エンジンの始動

(1)各クラッチが切ってあるか確認しましょう。
(2)室内では排気ガスが空気を汚してガス中毒を起こす危険があります。窓や戸を開けて換気は十分に。
(3)まわりをよく見わたして，「これから動きますよ！」とホーンで合図をしましょう。

3. 作業中

(1)理由のいかんにかかわらず，回転部分に手出しは無用です。絶対にいけません。ちびっこたちには，特に要注意です。
(2)二人以上で共同作業をするときは，互いに合図をし合いましょう。
(3)カッタにカラが詰まったときは，面倒でも，必ずエンジンを止めて，それからカラを除いてください。
(4)枕刈りした作物の脱こくは，コンバインの走行を止め，刈刃とリールの回転を止めて，刈取り部昇降ロックレバーを「ロック」にして行ないましょう。

4. トラックへの積み・降ろし

(1)場所は平たんで安全なところを選びましょう。
(2)すべり止めをした丈夫なアユミ板をしっかりと渡して，ゆっくり移動させましょう。移動途中でのパワーステアリングレバーの操作は厳禁。操作すると転倒します。
(3)積み・降ろし中，トラックが移動しないように，車のサイドブレーキをしっかりかけてください。
(4)ホッパに穀粒が入ったままでの積み・降ろしはバランス上危険です。必ずホッパを空にして行なってください。
(5)機体は必ず一番下げた状態で行なってください。

5. 走行

(1)公道走行はできません。トラックなどに乗せて移動してください。
(2)ほ場への出入り，農道移動時は補助デッキを折りたたんでください。
(3)運転者以外は乗車できません。

6. その他

(1)運転者の服装
（ヘルメット，キチンとした作業服，すべらない靴）
(2)運転者の資格
（飲酒，いねむり，病気，妊娠中，16才未満，喫煙しながらの作業は厳禁です。）
(3)運転が未熟な間はベテランによく習って早く腕前を上げましょう。
(4)掃除，点検，整備をするときは，まず，平たんで広い場所に止め，エンジンを止めてから，次に各クラッチも切ってあるか確認して，それから作業開始です。
(5)刈取り部を上げて整備するときは，刈取り部が落ちないように，刈取り部の下にかまし台を入れておきます。
刈取り部は上げたまま長時間経過すると下降することがありますので注意してください。
(6)コンバインを止めておくときは，刈取り部を下げておきます。
(7)機械を他人に貸す場合は，取扱い方法をよく説明し，あらかじめ「取扱説明書」と「納入品安全説明書」，「安全注意ポスタ」を読むように指導してください。

★以上コンバインの取扱いで起こりがちなあやまちを未然に防いでいただくために，主だった注意事項を挙げました。
これ以外にも本文の中で安全ポイント▶をそのつどとり上げております。
必ず守ってください。

51161-9111-2(折2頁有)

はじめに

このたびは本製品をお買いあげいただきましてありがとうございました。

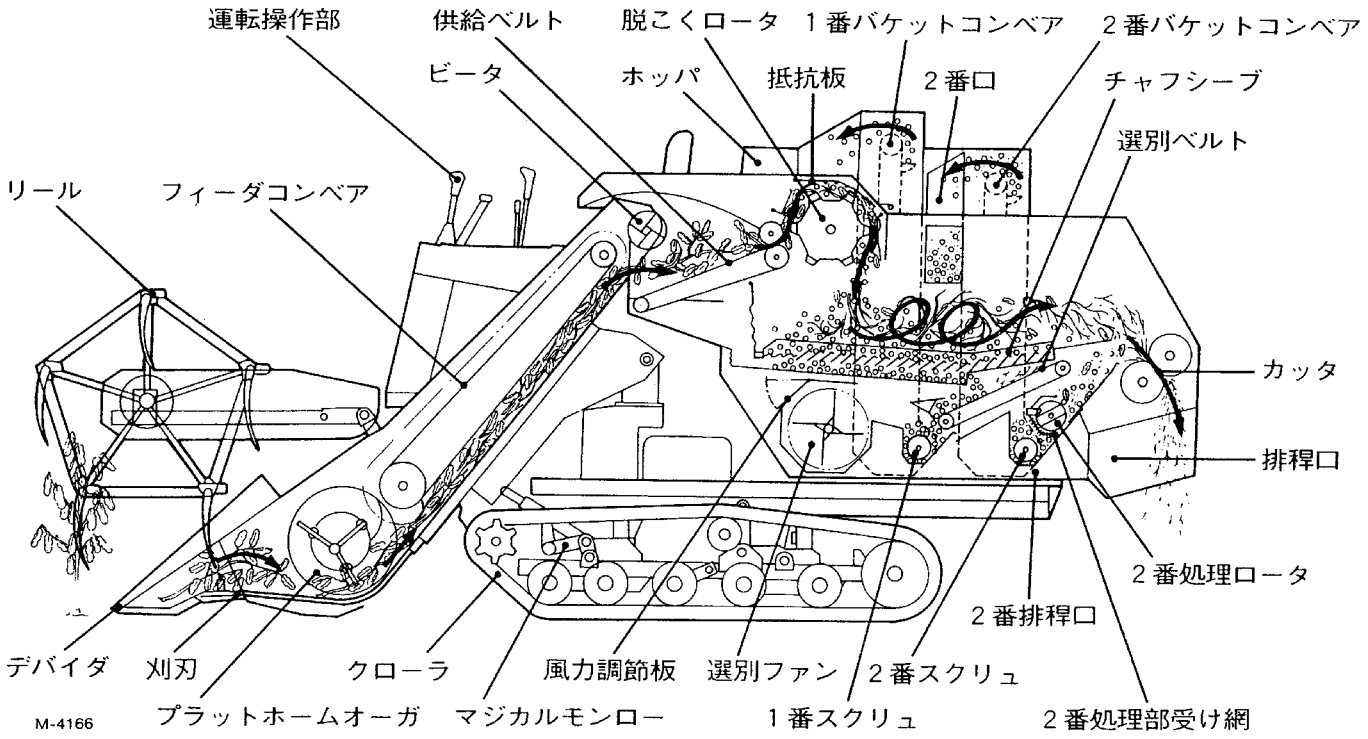
この取扱説明書は，製品の正しい取扱い方法，簡単な点検及び手入れについて説明してあります。

よくお読みいただいたうえ，いつまでもすぐれた性能を発揮できるよう本書を十分にいかして，末長くご活用ください。

なお，本製品については不断の研究成果を新しい技術として，直ちに製品に取入れておりますので，お手元の製品と本書の内容が一致しない場合もありますので，あらかじめご了承ください。

また，安全に作業していただくため，ぜひ守っていただきたい安全のポイントを抜粋した納入品安全説明書を別冊にして添付しておりますので，合せてご活用ください。

構造と主要部名称



目次

サービスと保証について……1

装置の知識について……2

スイッチとメータの取扱い……2
運転装置の取扱い……4
自動装置の取扱い……6

コンバイン使用前の点検について……8

上手な運転のしかた……10

エンジンの始動と停止について……10
路上走行について……12
停車について……14
自動車への積み・降ろし……14

上手な収穫作業のしかた……16

コンバイン作業に適した栽培と作業……16
作業前の準備……18
　ほ場の枕刈り……18
　作業前の各部の準備……18
コンバイン作業について……19
　作業中の注意事項……19
　オーバヒート時の注意事項……19
　刈取り部の操作のしかた……20
　脱こく部の操作のしかた……21
　走行部の操作のしかた……24
　刈取り部の条合せのしかた……24
　ほ場内での回行のしかた……24
　刈取り作業中の注意事項……25
　穀粒の排出方法……25
　枕刈りの脱こくのしかた……25
カッタ刃の交換……26

コンバインの簡単な手入れと処置……27

各部の点検と交換……27
　点検・給油(水)一覧表……27
　冷却水の点検と交換……28
　エンジンオイルの点検と交換……29
　トランスミッションケースのオイル……30
　刈取一方クラッチのグリース……30
　油圧オイルタンクのオイル……30
　バッテリの取扱いと保守……31
　車体水平制御アーム軸受部のグリース……32
　刈刃の駆動部のグリース……32
　刈取り部各チェーンの注油……32
　脱こく部チェーンの注油と
　　ギヤーのグリース塗布……33
定期点検と処置……34
　定期点検一覧表……34
　エアークリーナの清掃……35
　パイプ・ホース類の点検……35
　エンジンオイルフィルタカートリッジの交換……36
　燃料フィルタの清掃……36
　HSTオイルフィルタ及び
　　油圧オイルフィルタカートリッジの交換……37
　ラジエータ吸気部の清掃……37
　各部ワイヤの調整……38
　ワイヤハーネス,バッテリ⊕コードの点検・交換……39
　電気配線の点検，ヒューズの交換……39
　各部ベルトの張り調整……40
　特殊ベルトの張り調整……41
　クローラの張り調整……42
　足回りシールの定期交換……42
　刈刃の調整・交換……42
　各部チェーンの張り調整……43

各部開閉のしかた……44
刈取り部の脱着……44
エンジンルームのフルオープン……45
脱こく部上部カバーの開閉……45
フィーダ上部カバー……45
1番スクリュ底板……45
2番スクリュ部カバー……46
2番処理アミの開閉……46
機外2番処理部カバー……46
1番・2番バケットコンベア点検口……46
1番・2番バケットコンベア底カバーの開閉…46
チャフシーブの脱着……46
抵抗板1の脱着……47
機内の掃除のしかた……47
長期格納のしかた……48

コンバインの不調と処置…… 49

付表…… 56

主要諸元表……56
付属部品……57
特別付属品(別売)……57
クボタ純オイル……58
ラットガード(ネズミよけスプレー塗料)……59
配線図

サービスと保証について

この製品には，サービスブックが添付してありますのでご使用前によくご覧ください。
なお，ご使用中の故障やご不審な点及びサービスに関するご用命は，お買い上げいただいた販売店・農協・弊社支店又は㈱クボタアグリにそれぞれ「ご相談窓口」を設けておりますのでお気軽にご相談ください。
その際 (1)商品名と車台番号
(2)搭載機関の型式名と機関番号
(3)部品ご注文の際は部品番号を併せてご連絡ください。(純正部品表参照)

注意

●改造した場合や，使用目的が異なる場合は，保証の対象外になるのでご注意ください。
(詳細はサービスブックをご覧ください。)

◆認定番号

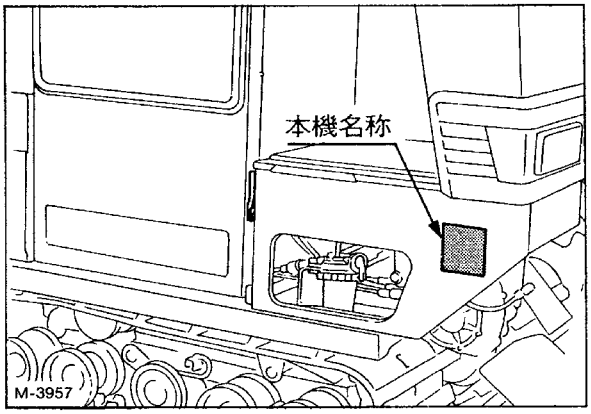
認定番号が必要な場合は下記の番号をご使用ください。

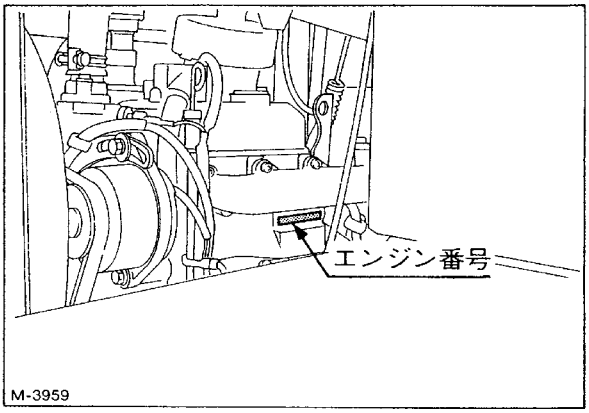
● 任意鑑定

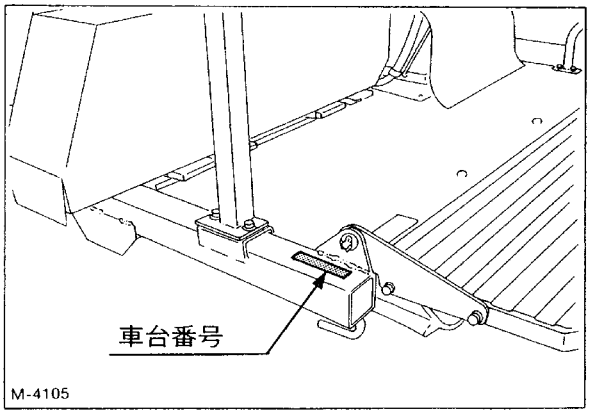
型式名	大豆	そば
クボタ DC－1	63任鑑14号	平元任鑑５号

●安全鑑定

型式名	番号
クボタ DC－1	15123

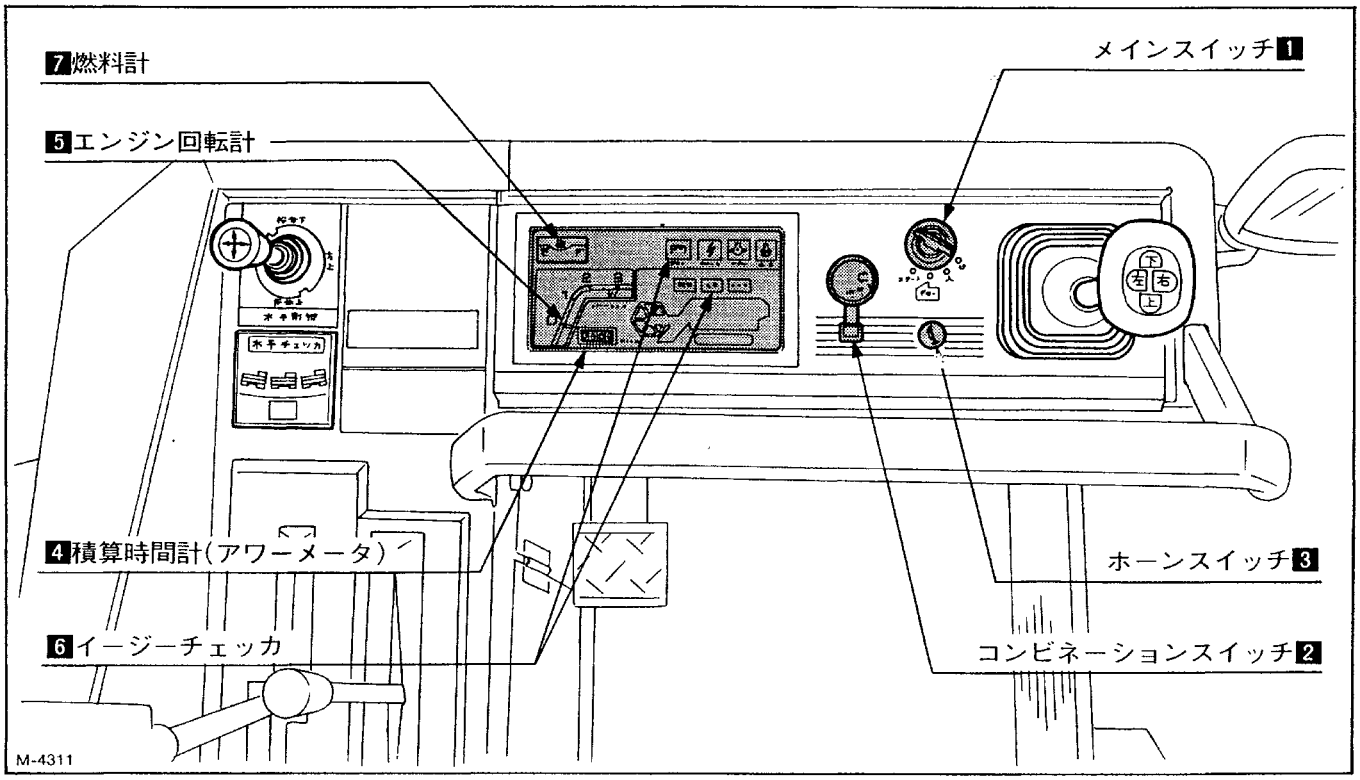






装置の知識について

スイッチとメータの取扱い



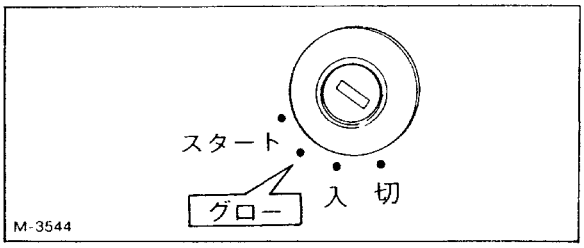
1メインスイッチ

切……キーが抜差しできる位置。

入……エンジン回転中の位置。

グロー……燃焼室内が予熱される位置。

スタート……主変速レバーを「停止」位置にして，エンジンを始動する位置。



2コンビネーションスイッチ

◆ライティングスイッチ

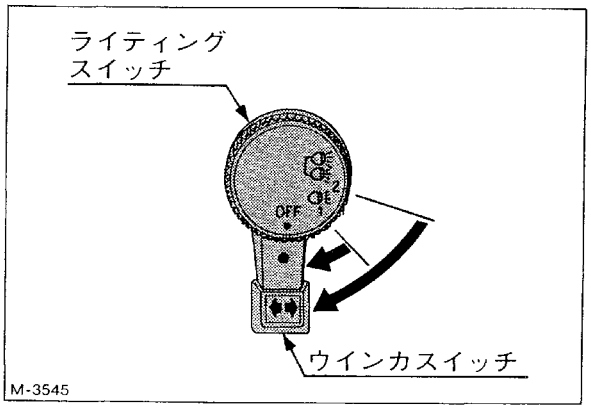
ＯＦＦ……ヘッドランプ・作業灯消灯位置。

⊂⊃ 1……ヘッドランプのみ点灯。

⊂⊃
⊂⊃ 2 ……ヘッドランプ・作業灯点灯。

◆ウインカスイッチ

ウインカスイッチは作用しません。



3 ホーンスイッチ

メインスイッチを「入」の位置にし，ホーンスイッチを押すとホーンが鳴ります。

4 積算時間計(アワーメータ)

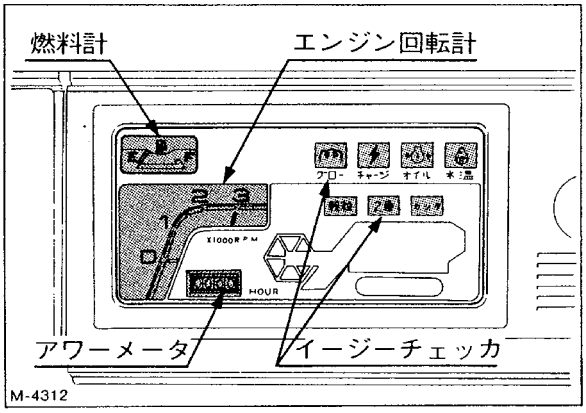
エンジンを定格回転で使用した場合の積算時間を示します。

白わく内の数字を6倍すると「分」単位の時間となります。〔例〕0012 4 ……12時間24分

5 エンジン回転計

1分間のエンジン回転数を示します。

6 イージーチェッカ



オイルランプ

エンジン回転中，潤滑系統が異常のとき点滅する油圧警告灯です。

エンジン停止中にメインスイッチを「入」にすると点滅し，始動すると消灯します。

点滅したままのときは，エンジンオイル量を点検してください。

チャージランプ

エンジン回転中，充電系統が異常のとき点滅する充電警告灯です。

エンジン停止中にメインスイッチを「入」にすると点滅し，始動すると消灯します。

グローランプ

始動時，メインスイッチを「グロー」(予熱)にすると，グローランプが点滅します。約4秒たつと消灯しますので，メインスイッチを「スタート」にして始動してください。

水温ランプ

エンジン冷却水が高温になったとき点滅します。

穀粒 穀粒警報ランプ

ホッパが満杯になったとき，ランプが点滅し警報ブザーが鳴ります。

2番 2番警報ランプ(自動停止)

2番が詰まったとき，ランプが点滅し，警報ブザーが鳴りエンジンが停止します。

カッタ カッタ警報ランプ(自動停止)

カッタ部後カバーを開くと，エンジンは自動停止し，ランプが点滅し警報ブザーが鳴ります。

◆使用方法

(1)エンジン停止中にメインスイッチを「入」にすると，オイルランプ、チャージランプが点滅します。エンジンを始動すると消灯します。

(2)エンジン回転中に検知箇所に異常があればランプが点滅し異常を知らせます。

注意

- イージーチェッカのみで日常点検を済ませないで，点検は確実に行なってください。

7 燃量計

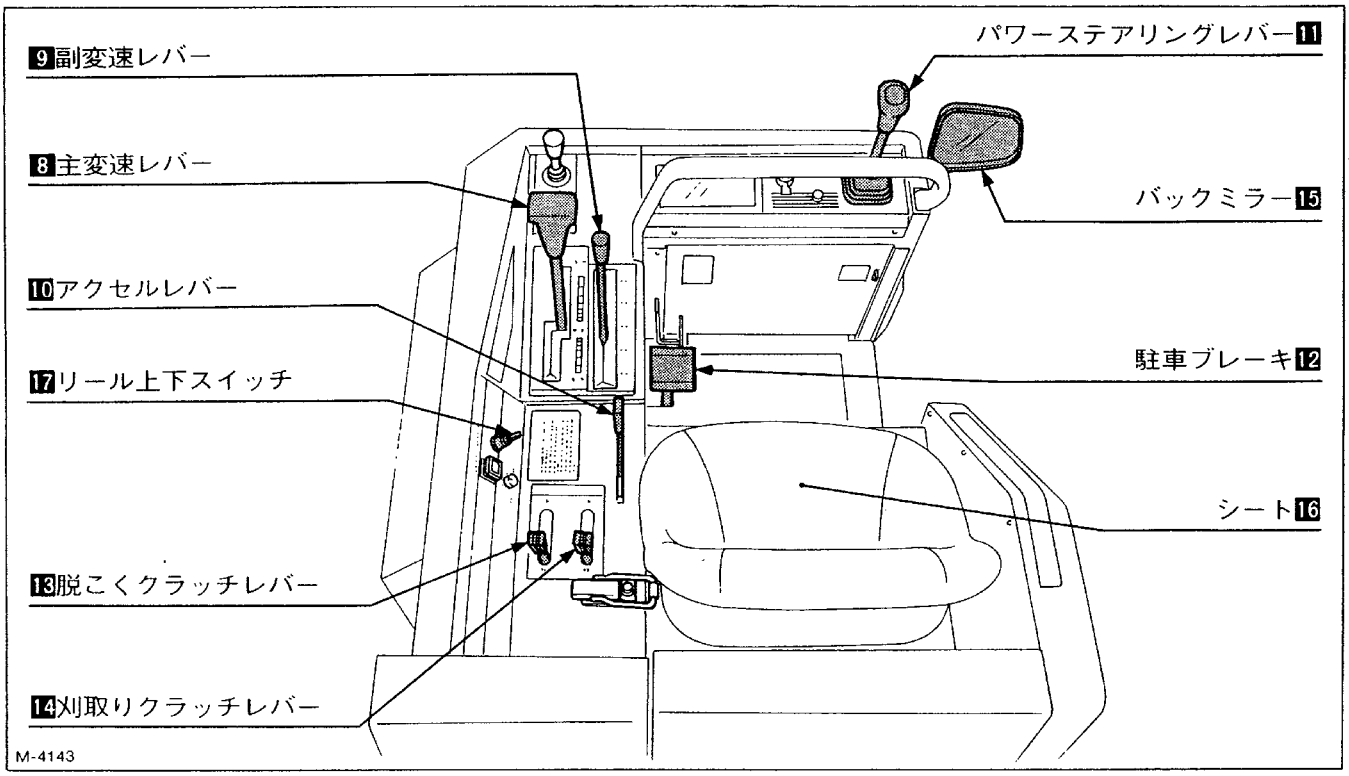
メインスイッチを「入」にしたときに燃料タンク内の残量を示します。

メインスイッチが「入」以外では，指針は「E」より下にあります。

注意

- 「E」に近づいたら早めに燃料を補給してください。

運転装置の取扱い

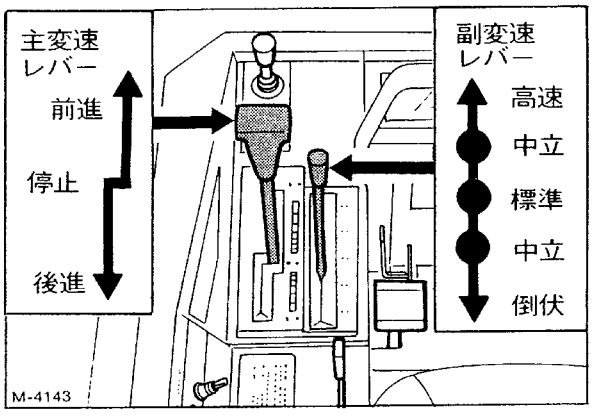


8主変速レバー

レバーを前方に倒すと「前進」し，後方に倒すと「後進」します。

9副変速レバー

２本のレバー操作を組合せることにより，「標準」位置で前進０～0.86(m/秒)・後進０～0.86(m/秒)の車速が得られますので，作物の状況により適切な車速を選択してください。



注意

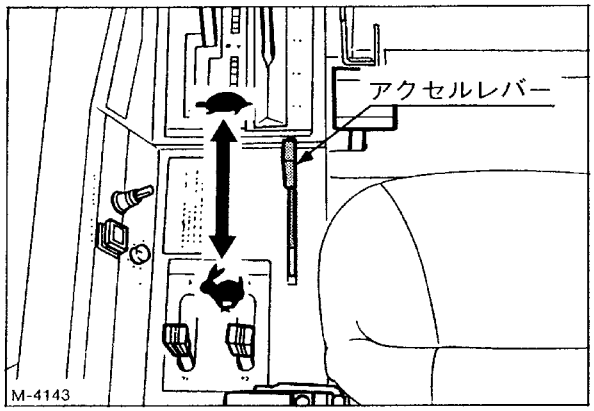
- 副変速レバーの切換えは，必ず主変速レバーを「停止」位置にし，走行をいったん止めてから行なってください。

10アクセルレバー

エンジンの回転数を変えるレバーです。

……エンジンアイドリング時の位置。

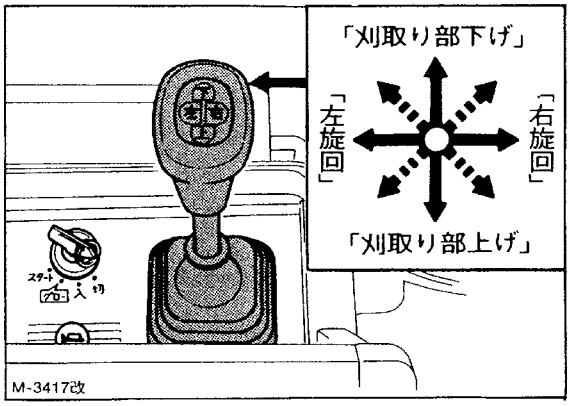
……作業中の位置。



11パワーステアリングレバー

レバー１本で刈取り部の上げ下げと方向修正・旋回ができます。また，各々の同時併用操作も可能です。

(1)レバーを前・後に操作すると，刈取り部の上げ下げができます。

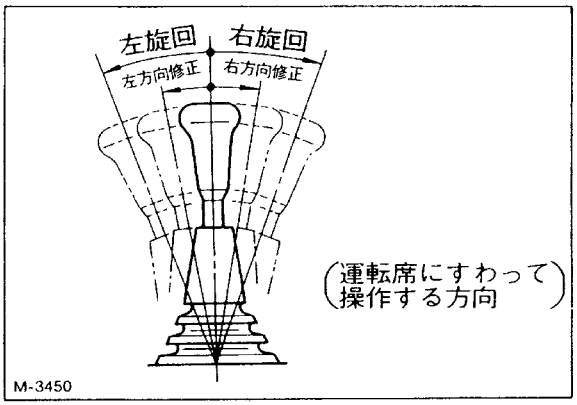


(2)レバーを左・右に操作すると，方向修正から旋回までできます。

レバーの倒し量に応じて，ブレーキ力が変りますので，ゆるやかな方向修正からコーナ旋回まで，条件に合せて操作してください。

●ゆるやかな方向修正……左・右に軽く倒します。

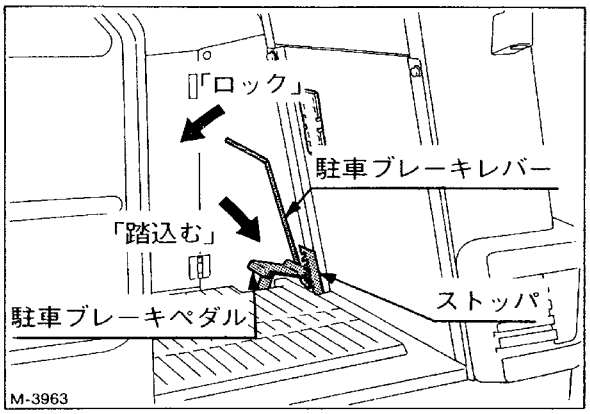
●コーナ旋回……左・右に一杯倒します。



(3)レバーを斜方向に操作すると，刈取り部の上げ下げと方向修正・旋回が同時に行なえます。

12駐車ブレーキ

駐車ブレーキペダルをいっぱい強く踏込んで駐車ブレーキレバーで駐車ブレーキペダルにストッパをかけると，駐車ブレーキがかかります。外すときは，駐車ブレーキペダルを強く踏めば外れます。



13脱こくクラッチレバー

脱こく部駆動切換えレバーです。

「入」……脱こく部が駆動します。

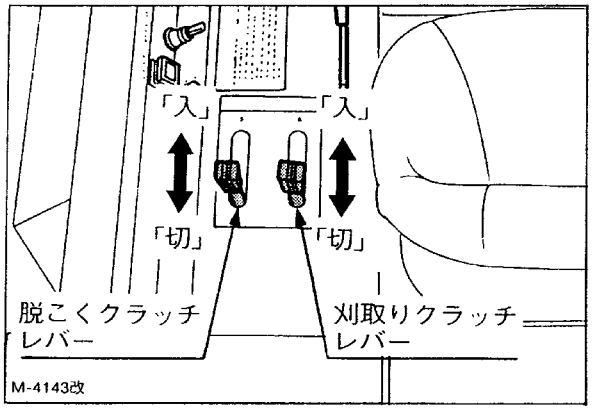
「切」……脱こく部が停止します。

14刈取りクラッチレバー

刈取り部駆動切換えレバーです。

「入」……刈取り部が駆動します。

「切」……刈取り部が停止します。

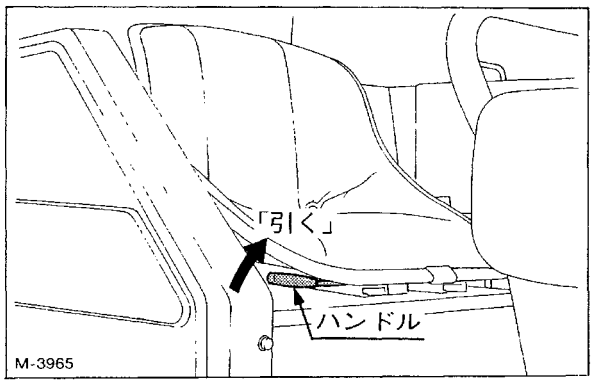


15バックミラー

後方視野が十分に確認できる位置に調整してください。

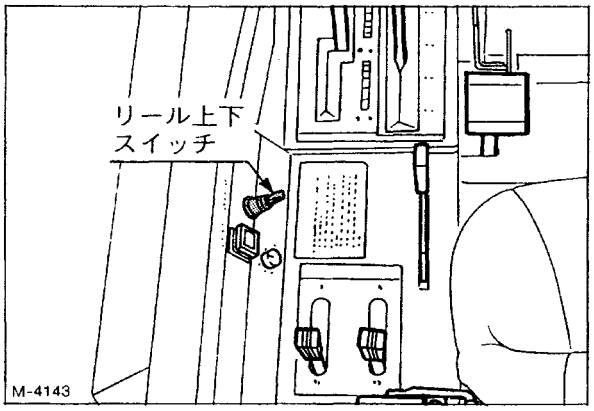
16シート

前後調節はシート右下のハンドルを矢印方向に引きながらずらしてください。



17リール上下スイッチ

刈取り部リール装置が上下します。



自動装置の取扱い

18自動車体水平制御装置(モンロー)

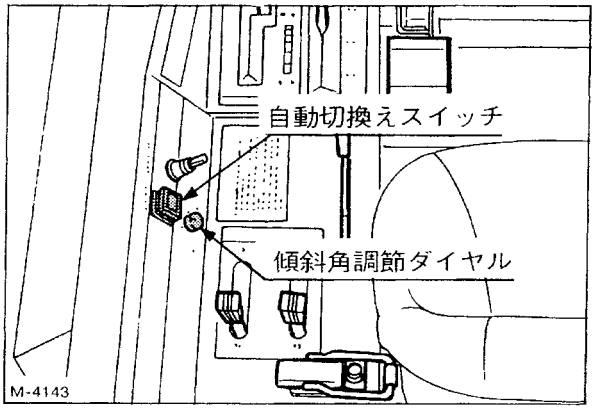
● 自動車体水平制御の特長

(1)うね巾が合わず機体が傾斜した場合，自動的に機体を水平に修正し，手動の場合は機体全体を持上げることもできます。
(2)傾斜角調節ダイヤルにより，機体の傾斜角を調節できますので，あぜぎわやうねでも適正な制御をします。
(3)機体が常に水平に保たれますので，運転がしやすく刈取り部の突込みや脱こく精度の低下がありません。

◆自動切換えスイッチ

「自動」……スイッチが押込まれた位置でロックされますと自動位置となり，自動ランプが点灯します。

「手動」……スイッチを再び押してロックが解除されますと手動位置となり，自動ランプが消灯します。



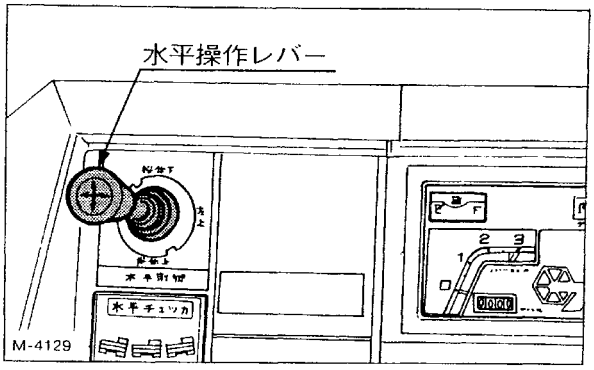
◆操作のしかた

❶脱こくクラッチレバーを「入」にします。
❷自動切換えスイッチを押して「自動」にし，自動ランプの点灯を確認します。
❸この状態で水平制御が作動します。

◆傾斜角調節ダイヤル

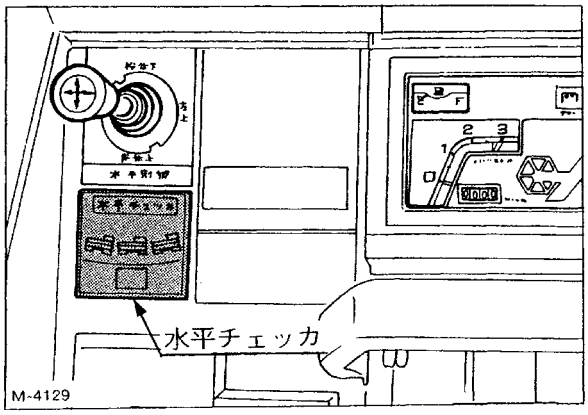
(1)通常は中央に合せてください。
(2)ダイヤルを「右上」の方向に回すと，右上り気味に制御します。
(3)ダイヤルを「左上」の方向に回すと，左上り気味に制御します。

◆水平操作レバー



(1)レバーを「機体上」の方向に倒すと，機体の左右とも上がります。
(2)レバーを「機体下」の方向に倒すと，機体の左右とも下がります。
(3)レバーを「左上」の方向に倒すと，機体の左が上がり，右が下がります。
(4)レバーを「右上」の方向に倒すと，機体の右が上がり，左が下がります。
(5)自動制御で作業中でも水平操作レバーが優先されます。

◆水平チェッカ



機体の傾斜状態を液晶表示します。

◆使用上の注意事項

(1)自動で作業した後，脱こくクラッチレバーを「切」にするか，又は自動切換えスイッチを「手動」にすると，機体はその状態を保ちますので，手動操作で必ず一番下側に戻すことを忘れないようにしてください。

(2)刈取り作業以外(特に道路走行時，運搬時，格納時)の場合は，機体を一番下まで下げてください。

(3)傾斜地では使用しないでください。

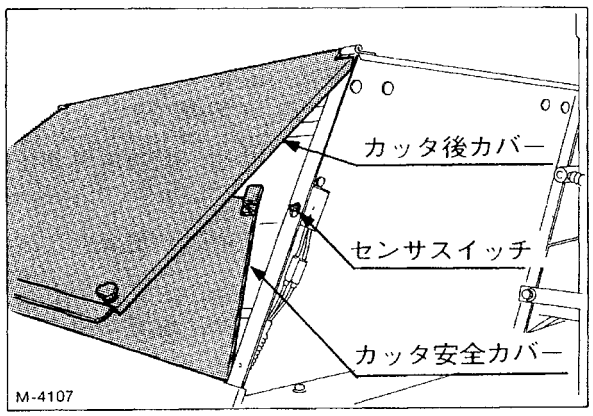
■自動エンジン停止・警報

◆自動エンジン停止

●カッタ後カバー

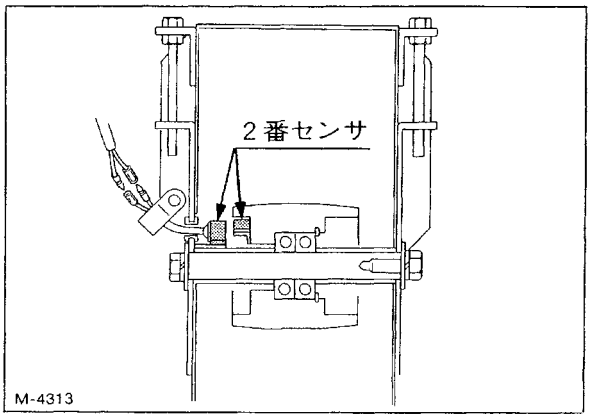
カッタ後カバーを開くとエンジンは自動的に停止します。

又，カッタ安全カバーを正しくセットして，カッタ後カバーを締め付けないと，エンジンは始動しません。



●２番詰まり

２番が詰まるとエンジンは自動的に停止します。



◆警報

点滅するランプ	ホーン	エンジン停止	異常の内容	処置
カッタランプ	断続	作動	カッタ部カバーが正しくセットされていません。	• カッタ安全カバーを正しくセットしてカッタ後カバーを取付けてください。
穀粒ランプ	断続	——	ホッパが満杯です。	• 刈取りを中止して穀粒を排出してください。
２番ランプ	断続	作動	２番が詰まっています。	• ２番バケットコンベアの詰まりを取除いてください。

コンバイン使用前の点検について

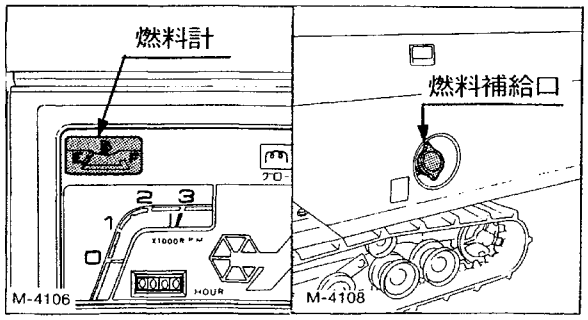
点検は，作業前欠かさず行なってください。

安全ポイント

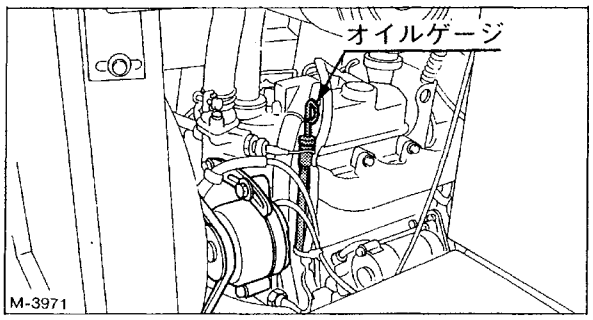
(1)火気厳禁。
(2)点検をするときは，必ずエンジンを停止してから行なってください。
(3)燃料・オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。
(4)運転中及び停止直後は，ラジエータの圧力キャップを絶対に開けないでください。熱湯が吹出してヤケドをすることがあります。
(5)エンジン・マフラ・脱こく機及びカッタのベルトカバー内，バッテリにくずがたまっていると火災の原因になることがあります。時々点検をして取除いてください。

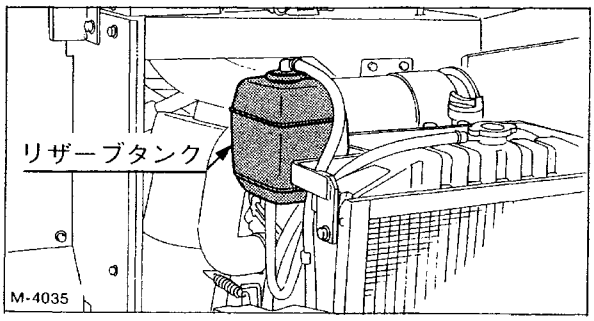
〈ここを〉		●●	〈こうする〉
エンジンオイル		●オイルゲージの上下刻線の間に油量があれば良い。	●補給する。(上限：5.1ℓ，下限：3.5ℓ) クボタ純オイル(ディーゼルエンジン用) 15℃未満：D10W30(オールシーズン用) 15℃以上：D30又はD10W30
冷却水		●リザーブタンクに適量あるか。(必ずFULLとLOWの間にあること)	●不足していれば清水を適量補給する。(FULL以上には入れないこと)
エアークリーナ		●エレメントにほこりが詰まっていないか。	●清掃する。
メインスイッチを入れて	燃料計	●作業に必要な燃料があるか。	●ディーゼル軽油，又はクボタディーゼル重油を補給する。(容量28ℓ)
	イージーチェッカ	●メインスイッチを入れた瞬間(約1.5秒間)，ランプが全て点滅するか。	●球切れ，ヒューズ切れ，配線の外れを調べ処置する。 ●その他の場合は，販売店へ相談してください。
	ホーン	●ホーンスイッチを押せば鳴るか。	
	ランプ類	●正常に作動するか。	●球切れ，ヒューズ切れ，配線の外れを調べ，処置する。
	バックブザー	●主変速レバーを「後進」位置にしたとき，バックブザーが鳴るか。	●ヒューズ切れ，配線の外れを調べ，処置する。 ●その他の場合は，販売店へ相談してください。
エンジンを始動して	イージーチェッカ	●オイルランプ，チャージランプは消灯するか。 ●回転計は正常に作動するか。	●エンジンオイルを補給する。 ●充電する。 ●異常箇所を調べ，処置する。
防じん網，ラジエータフィン，オイルクーラフィン		●防じん網の目詰まりはないか。 ●ラジエータフィン，オイルクーラフィンの目詰まりはないか。	●付属のブラシで，清掃してください。 ●ラジエータフィン，オイルクーラフィンは，水道水，又は圧縮空気で清掃してください。
チェーン，ワイヤ，クローラ		●たるみ，損傷はないか。	●正常に調整する。

■燃料の点検

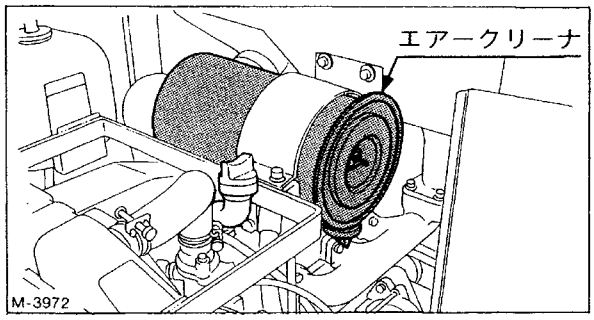


■エンジンオイル，冷却水の点検

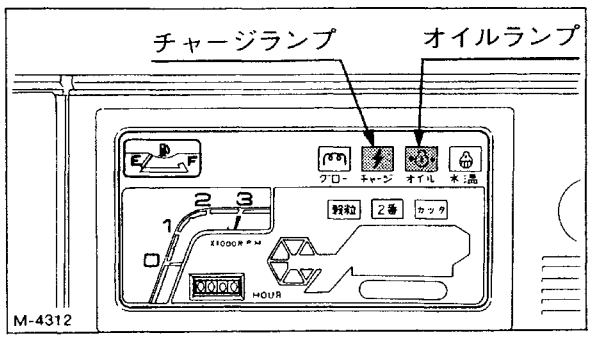




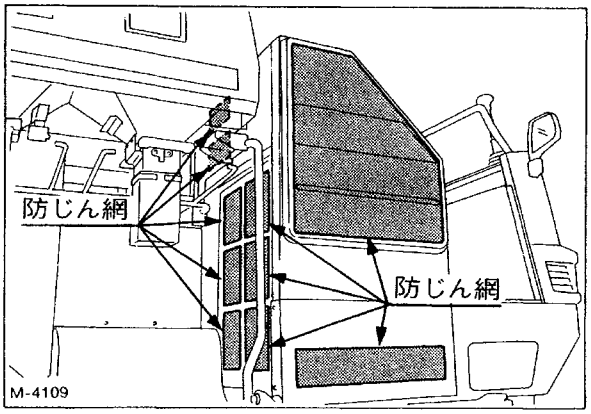
■エアークリーナの清掃

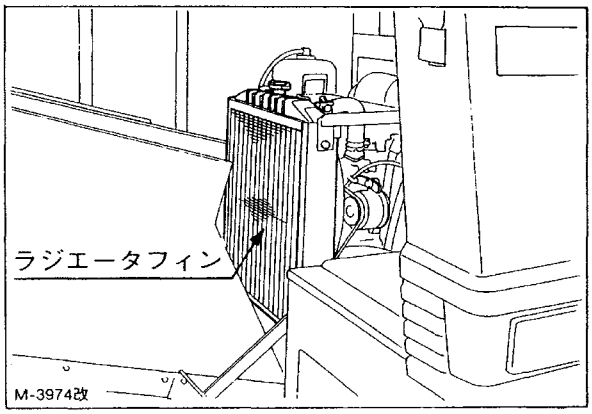


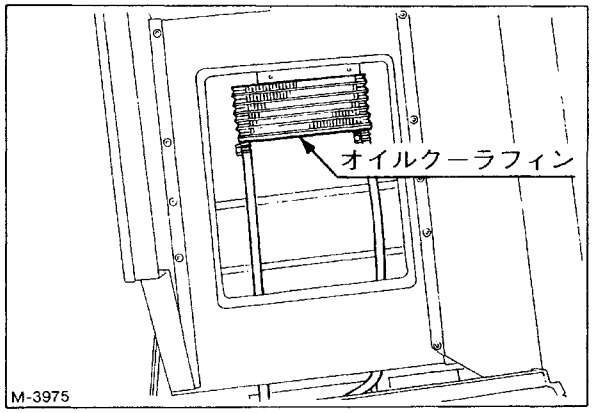
■イージーチェッカの点検



■防じん網，ラジエータフィン，オイルクーラフィンの点検







上手な運転のしかた

エンジンの始動と停止について

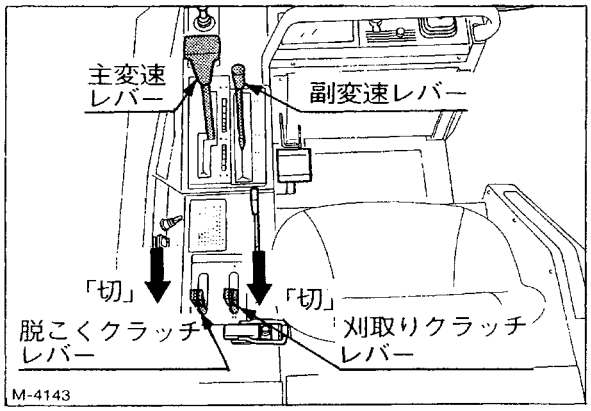
安全ポイント

(1)始動操作は，運転席で行なってください。
(2)周囲の人に合図をしてから始動してください。
(3)各クラッチレバーを「切」にして始動してください。

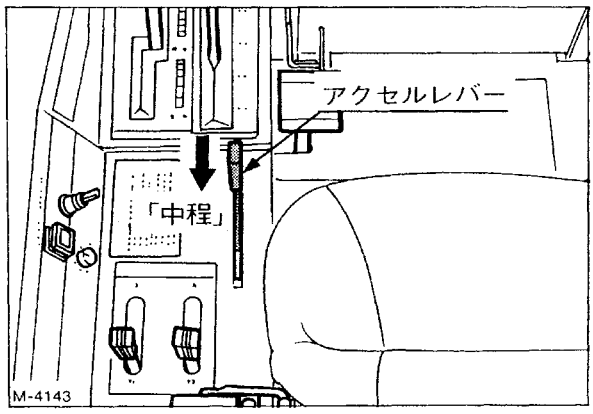
■始動のしかた

❶副変速レバーを「中立」，主変速レバーを「停止」にします。

❷刈取りクラッチレバー，脱こくクラッチレバーを「切」の位置にします。



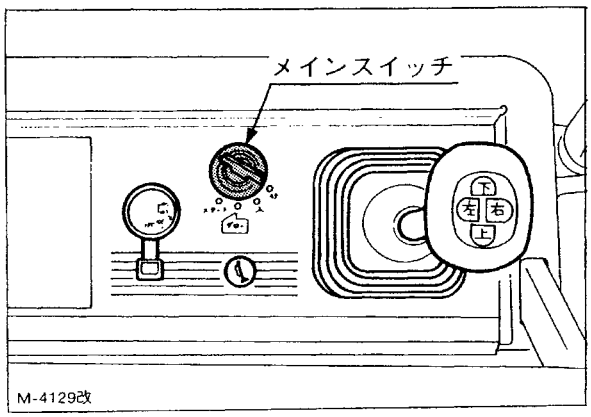
❸アクセルレバーを「中程」まで引きます。



❹周囲の人に始動の合図を送り，安全を確認してください。

❺メインスイッチを「グロー」まで回し，イージーチェッカのグローランプが消えるまで約４秒待ちます。
ただし，外気温が－５℃以下のときは，消灯後も約５秒間予熱してください。

❻グローランプが消えれば「スタート」までメインスイッチを回します。
エンジンが始動すれば，キーから手を放してください。



注意

(1)主変速レバーが「停止」の位置にないと，安全スイッチが作動してエンジンは始動しません。
(2)メインスイッチを「スタート」にし，セルモータを回して10秒たっても始動しないときは，いったんメインスイッチを切って，30秒ほど休止してから，エンジンを再始動してください。10秒以上の使用は故障の原因になります。
(3)エンジンが始動すれば，５～10分間暖機運転し，その後作業に入ってください。
（特に０℃以下の場合は，オイルの循環が不十分ですので必ず行なってください。）

■暖機運転のしかた

始動後，約15分間は負荷をかけずに暖機運転をしてください。オイルを各部に十分ゆきわたらせるためで，始動してからすぐ負荷をかけると，運転部分の焼付きや破損など故障の原因になりますのでご注意ください。

注意

●暖機運転中は必ず平地で駐車ブレーキをかけて，主変速レバーを「停止」・副変速レバーを「中立」位置にして行なってください。

◆寒冷時の暖機運転とミッションオイルについて

このコンバインは油圧操向クラッチ・油圧ブレーキが採用されております。

特に寒冷地では，気温が下って冷えると粘度が高くなって，始動時に吸込みが悪く油圧の立上がりが遅かったり，正常な圧力が得られなかったりすることがあります。

このようなことをなくすため，下表のとおり暖機運転してください。

これを怠ると油圧系統の故障を引起し，方向変換不能の状態になります。

(1)暖機運転時間。

気　　温	暖機運転時間
−10℃	約10分
−10℃～−15℃	10～15分
−15℃～−20℃	15～20分
−20℃以下	20分以上

(2)寒冷地域(−15℃以下)では下記のミッションオイルを使用していただくことをおすすめします。
暖機運転は10分程度で済みます。
このオイルはそのまま夏期にも使用できます。

メーカ名	オ　イ　ル　名
コスモ石油 日本石油	クボタ純オイルUDT

(3)上記のミッションオイルを使用しても，気温が−20℃以下の場合は15～20分の暖機運転を行なってください。

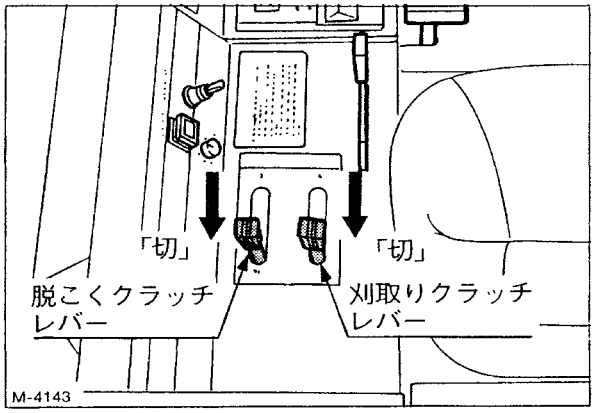
注意

(1)エンジン回転を約1500rpmに保ってください。

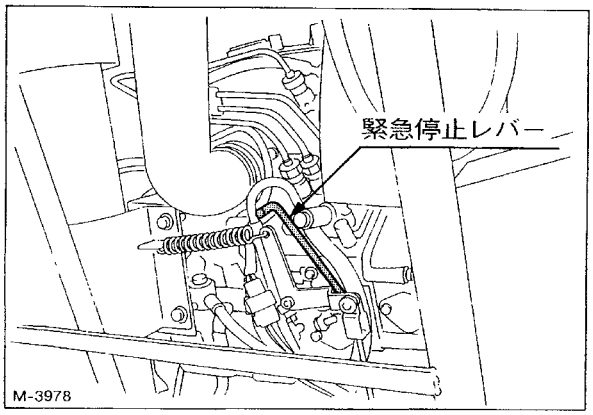
(2)もし，エンジン，HST，トランスミッションのオイルを暖める前にコンバインを操作すると，コンバインの寿命が短くなります。

■停止のしかた

❶脱こく，刈取りクラッチレバーを「切」にし，メインスイッチを「切」に戻してからキーを抜取ります。(メインスイッチを「切」にするだけでエンジンは停止します。)



❷電気系統が故障して，メインスイッチを「切」にしてもエンジンが止まらないときは，エンジンルームをオープンして緊急停止レバーを操作してください。



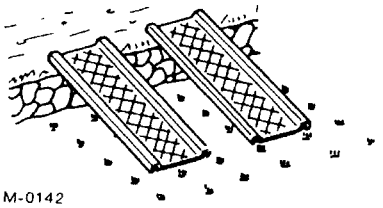
注意

●停止後，メインスイッチを「入」で放置すると，電流が流れたままですので，「バッテリ上がり」の原因となります。

路上走行について

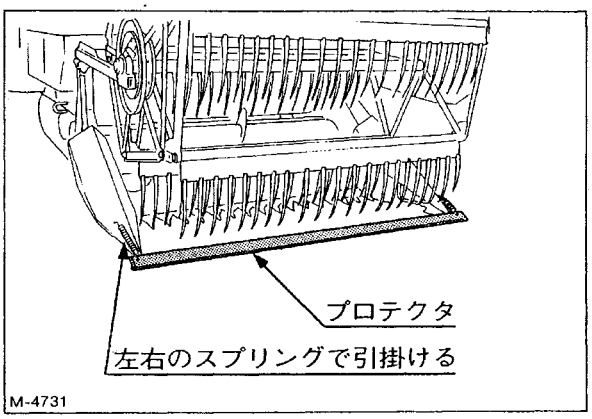
安全ポイント

(1)公道走行はできません。トラックなどに乗せて移動してください。
(2)高速走行時の急旋回は危険ですので，旋回前には必ず減速してから，パワーステアリングレバーを徐々に左又は右に倒して旋回してください。
(3)あぜの乗り越えは，空の状態(ホッパの穀粒を取出した状態)で低速であぜに直角に進入してください。10cm以上のあぜ，又はコンクリートの畦畔は必ずアユミ板を使用してください。機体は必ず一番下げた状態で行なってください。


M-0142

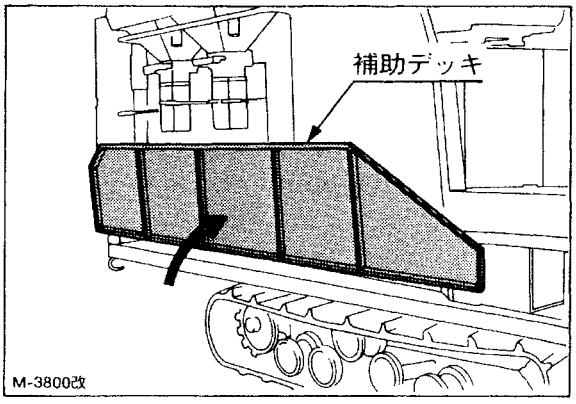
■走行のしかた

❶路上走行，格納時には，必ずプロテクタを取付けてください。



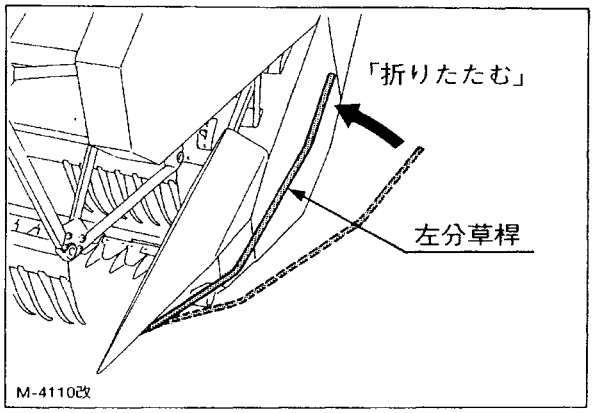
M-4731

❷補助デッキを折りたたみます。



M-3800改

❸左分草桿を折りたたみます。

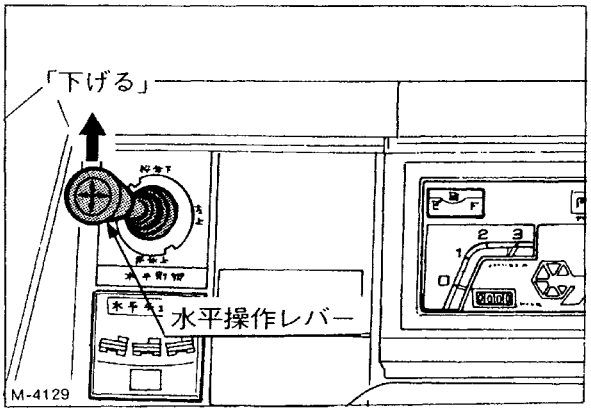


M-4110改

❹バックミラー・ホーン・ヘッドランプなどが確実に「作用する」か点検します。

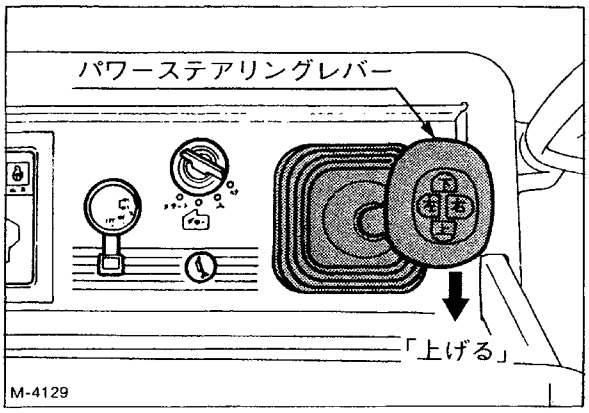
❺刈取り・脱こくクラッチレバーを「切」にし，主変速レバーを「停止」にしてエンジンを「始動」します。エンジン回転数は2000回転/分以上にセットしてください。
(主変速レバーを「停止」の位置にしないと，エンジンは始動しません。)

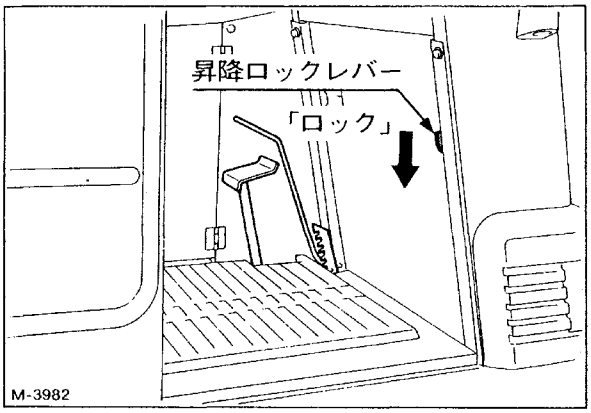
❻自動車体水平制御(モンロー)は，水平操作レバーで最も低い位置まで下げてください。



M-4129

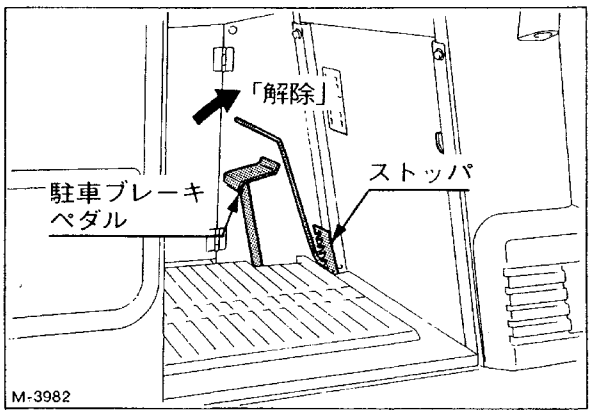
❼パワーステアリングレバーで刈取り部を「上げ」，昇降ロックにします。



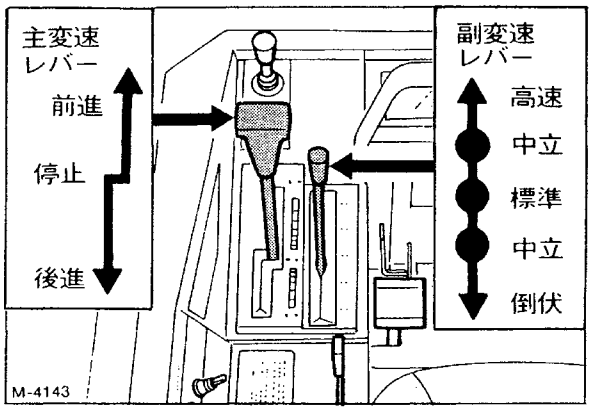


❽方向変換のときは，パワーステアリングレバーを軽く左又は右に倒します。
強く倒すと急旋回しますので注意してください。

❾駐車ブレーキペダルを踏込んでロックを外します。



❿副変速レバーで速度の選定をします。



⓫主変速レバーを徐々に前進側に倒すと「前進」しますので適当な速度で走行してください。

注意

(1)砂利道での急旋回は，クローラに石がかみこみ故障する恐れがありますので避けてください。

(2)副変速レバーの切換えは主変速レバーを「停止」位置にし，走行をいったん止めてから行なってください。

(3)走行時は，エンジン回転数2000回転/分以上で使用してください。

(4)刈取り部は上げたまま長時間経過すると下降することがありますので注意してください。

停車について

安全ポイント

(1)コンバインを離れるときは，平たんで安全な場所に置き，刈取り部を降ろしてエンジンを止め，駐車ブレーキをロックしてください。
(2)駐車ブレーキペダルは走行中には使用しないでください。
緊急停止を要するときは，主変速レバーを「停止」の位置にしてください。
(3)坂道で駐車するときは，木片などで車止めをし，暴走を防いでください。

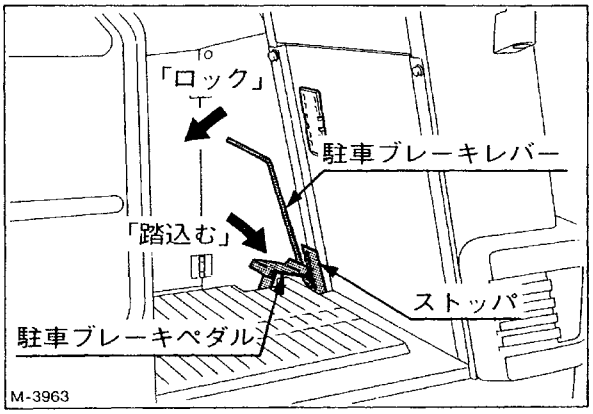
■停車のしかた

❶主変速レバーを「停止」の位置にします。
❷副変速レバーを「中立」の位置にします。
❸駐車ブレーキを「ロック」します。
❹エンジンを停止してキーを抜いてください。

◆駐車ブレーキ操作のしかた

▶ロック
・駐車ブレーキペダルを強くいっぱい踏んで，駐車ブレーキレバーで駐車ブレーキペダルにストッパをかけます。

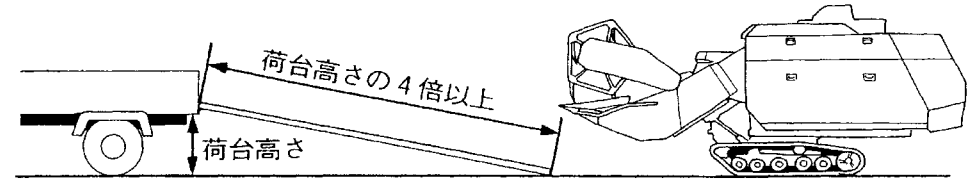
▶解除
・駐車ブレーキペダルを強く踏むとストッパが外れます。



自動車への積み・降ろし

安全ポイント

(1)アユミ板は，十分な強度，幅(クローラの1.2倍以上)，長さ(高さの４倍以上)のあるすべり止め付きのものを使用し，コンバインの重量でアユミ板が傾いたりしない場所を選んでください。



(2)アユミ板のフックは，荷台に段差のないように，また，ずれないように確実に掛けてください。
(3)パワーステアリングレバーの左右操作は，アユミ板の上では行なわないでください。もし操作すると，急に方向転換し落下する恐れがあります。
(4)万一にそなえて，コンバインの周辺には，人を近づけないでください。

■積み・降ろしのしかた

❶左分草桿を折りたたみます。

❷補助デッキを折りたたみます。

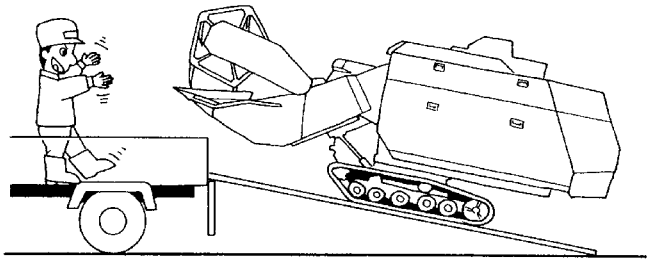
❸刈取り部を上限まで上げます。

❹エンジンは2000回転/分以上で使い，副変速レバーを「倒伏」位置にし，主変速レバーをゆっくり操作して，低速で使用してください。

❺アユミ板の上でパワーステアリングレバーを操作する必要のないように，アユミ板の中央に左右のクローラを合せてから積降ろしをしてください。

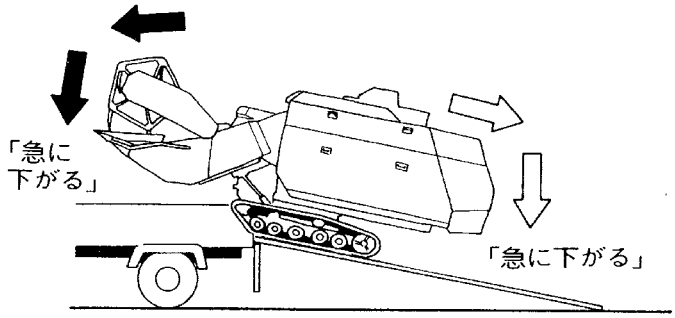
注意

(1)平たん地を選び，できるだけ助手の立合い誘導のもとに行なってください。また，コンバインの周辺に人を近づけないでください。



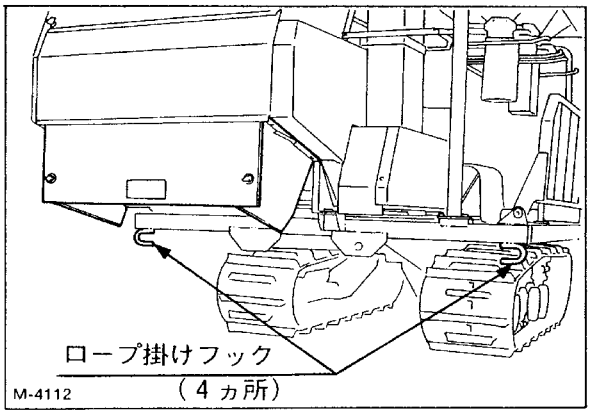
M-4130改

(2)機体が凸部を越えるときは，急に姿勢が変わりますので十分注意してください。



M-4130改

(3)自動車やトレーラに積んで走るときは，ロープをフレームの所定の「ロープ掛けフック」(４ヵ所)に掛けてください。また，駐車ブレーキをかけペダルを「ロック」してください。



M-4112

上手な収穫作業のしかた

コンバイン作業に適した栽培と作業

■ほ場

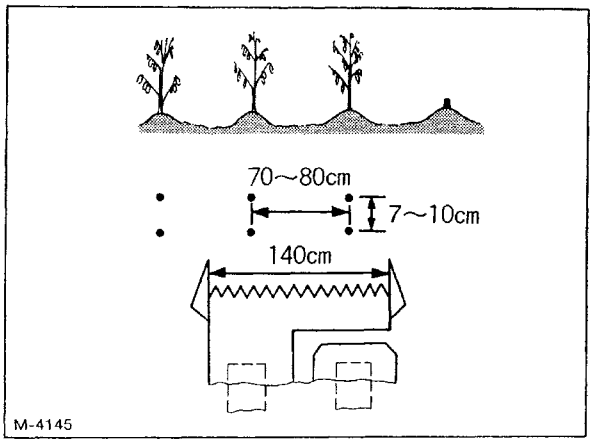
水ハケを良くして土を乾かしましょう。

転作大豆の栽培では，まず水田の排水性を改良して水ハケの良いほ場にすることが大切です。

■作付け

コンバインにあった播種をしましょう。

収穫機械にあわせた作付けをすると，作業能率が大幅にアップします。機械の刈り幅にあった条間(70～80cm)で播種し，排水溝やうね幅も機械の足まわりにあわせてください。

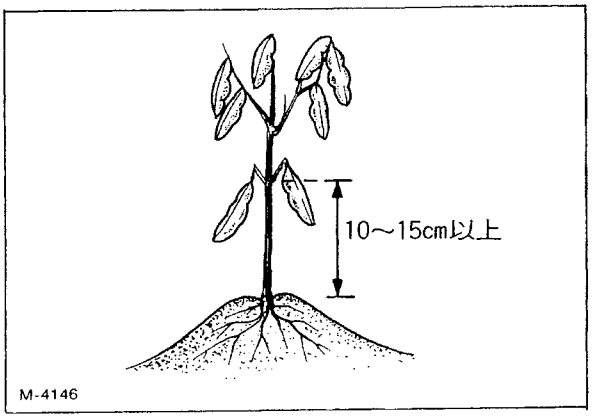


■栽培管理

雑草のない，倒伏しない大豆にしましょう。

着莢位置は10～15cm以上にしましょう。

収穫のとき，雑草は大豆を汚す大敵，倒伏は作業の能率低下を招きます。雑草防除・倒伏防止は，手を抜かず念入りに行ないましょう。着莢位置が低いと刈取りロスが出やすいので，着莢位置が高くなるよう密植しましょう。



■収穫

成熟期後の１週間に行ないましょう。

葉が完全に落ちて，莢をふるとカラカラと乾いた音がするとき(成熟期)から１週間以内が，収穫適期。この時期を逃がすと脱粒ロスが増えたり，早すぎると汚粒問題が発生しやすくなります。

●成熟期とは――

80～90％の株の大部分の莢が変色し，子実も大部分が品種特有の色になり，ふるとカラカラと乾いた音がするとき。

■作業

莢20%前後・子実18%以下の水分で行ないましょう。

大豆の収穫では，莢および子実の水分がロスや品質を左右するカギになります。作業は，莢の水分が20%前後，子実の水分が18%以下になってから行ないましょう。

午前10時以後，夕方までに行ないましょう。

大豆の莢や子実が乾いて収穫に適した水分になるのは，だいたい午前10時以降です。収穫作業は10時を過ぎてから夕方までの間に行ないましょう。

■そば

そばは黒化率(こっかりつ)90%以上がコンバイン刈の適期です。葉や茎に水分が多いと選別部の目詰まりやトラブルの原因になります。

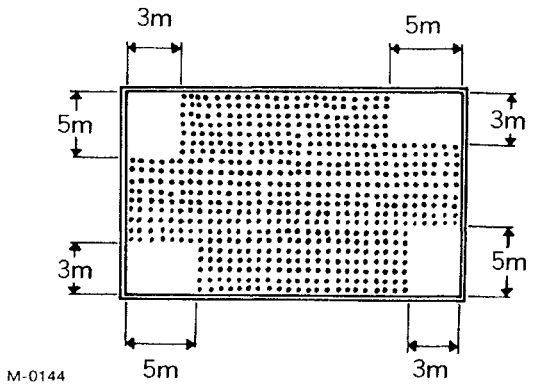
注意

- 脱こく部に土が入ると，汚粒発生の原因になります。脱こく部は小マメに掃除してください。

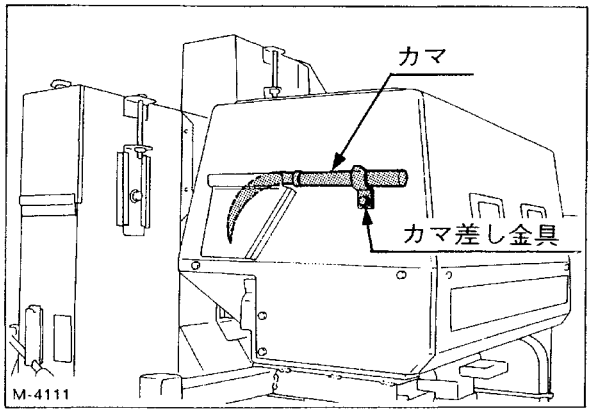
作業前の準備

■ほ場の枕刈り

能率よく作業を進めるには，コンバインをほ場に入れる前に，図のように四すみ(旋回できる範囲)を枕刈りします。



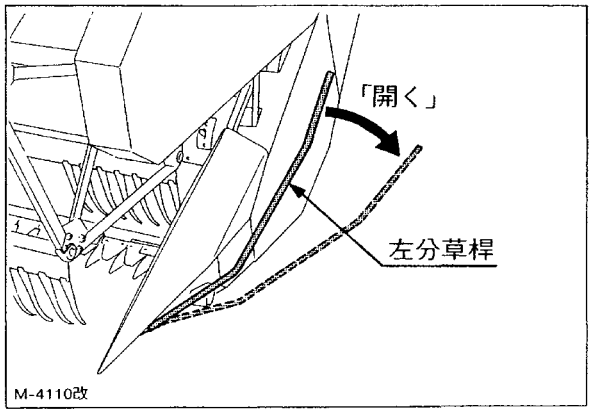
●カマは下図の所に取付けできます。



■作業前の各部の準備

◆左分草桿

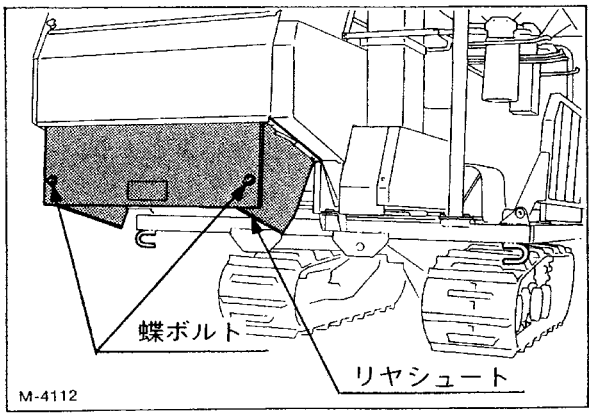
左分草桿を開きます。



◆リヤシュート

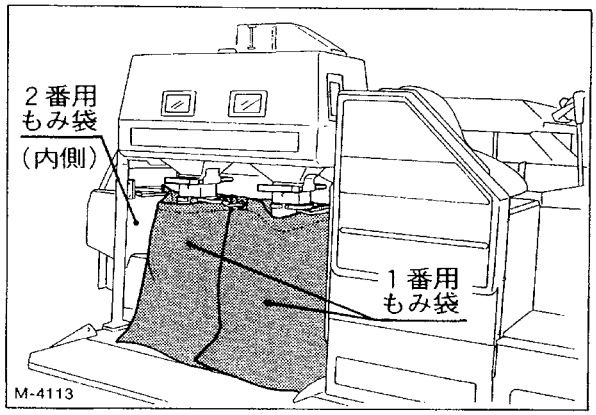
シュート止め金具を回動し，シュートを下に降ろします。

次に蝶ボルトで両サイドのシュートを締付けます。



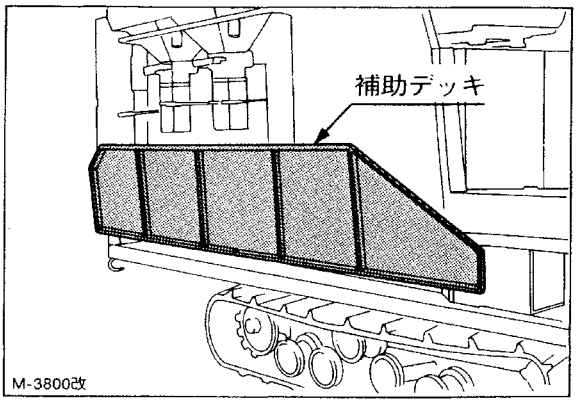
◆もみ袋の取付け

❶もみ袋のファスナを開き，図のように各袋を掛け金具に取付け，シャッタを開きます。2番用もみ袋は内側に取付けてください。



◆補助デッキ

補助デッキを開きます。中割作業，あぜぎわ刈りのときは折りたたんでください。



コンバイン作業について

安全ポイント

(1)コンバインの周りに人を近づけないでください。
(2)エンジンを始動したり，各クラッチを入れるときは，ホーン，その他の方法で補助者や周りにいる人に合図して，周りの安全を確認してください。
(3)エンジン回転中は，コンバインの回転部に手や身体を近づけないでください。
(4)異常が発生したときは，必ずエンジンを停止してから点検してください。
(5)外装部品(安全カバーなど)を取外しての作業は絶対にしないでください。
(6)バックする場合は後方の人の安全確認，また後方に川(用水路)やがけのある場合は転落しないよう後方をよく注意してください。
(7)あぜぎわがコンクリート畦畔の場合は，クローラをあぜに乗り上げたり，急旋回などは絶対にしないでください。脱輪及びクローラ切損の原因となります。
(8)機体が凸部を越えるときは，重心の位置が変わって機体が上向きから下向きに姿勢が急に変わるので十分注意してください。(15ページ参照)
(9)コンバインを停止するときは，くずの上に止めないでください。マフラ排気口にくずが触れると，火災の恐れがあります。
(10)エンジン・マフラ・脱こく機及びカッタのベルトカバー内，バッテリにくずがたまっていると火災の原因になることがあります。時々点検をして取除いてください。なお，点検時は必ずエンジンを停止してください。
(11)コンバイン作業を終えて，シートをコンバインにかけるときは，火災の原因になることがありますので，マフラ・エンジンが冷えてからにしてください。

■作業中の注意事項

(1)脱こくクラッチは，エンジン回転が低速のときは絶対に入れないでください。脱こく機の詰まり，故障の原因になります。
(2)小さなほ場や，ほ場の隅では作業がしにくいので，安全のため低速で注意しながら作業を行なってください。
(3)作業中エンジン回りの防じんカバーにゴミの付着が多くなれば，その都度清掃してください。
防じん網全面にゴミが付着したまま作業を続けますと，エンジンオーバヒートの原因になりますので注意してください。

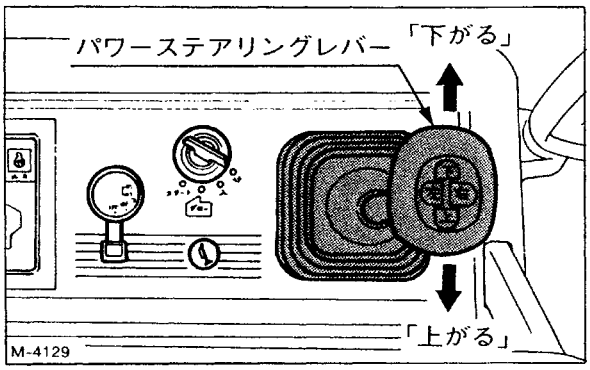
■オーバヒート時の注意事項

冷却水温が沸点近く又はそれ以上になったとき(いわゆるオーバヒート)には次の様に行動してください。
(1)安全な位置で機械の運転を止めてください。(エンジンの負荷を抜く。)
(2)エンジンは急には止めず，無負荷アイドリングで約5分間運転した後止めてください。
(3)更に，10分間又は蒸気が噴出している間は機械から十分離れて待機してください。
(4)火傷等の危険性がなくなってから，オーバヒートの原因を「コンバインの不調と処置」の項に従って除去してください。その後，エンジンを再始動させてください。

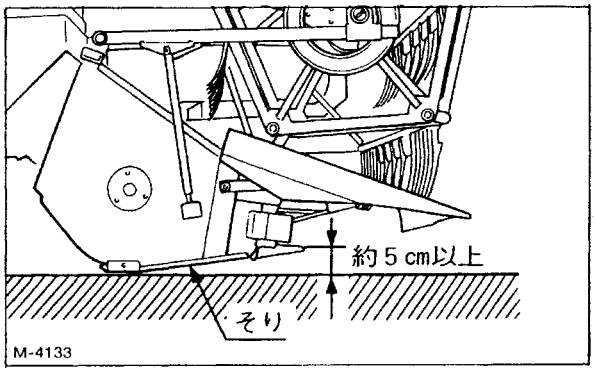
■刈取り部の操作のしかた

◆刈取り高さの調節

(1)パワーステアリングレバーで調節します。



(2)通常はそり部が軽く接する位置から少し上げてください。

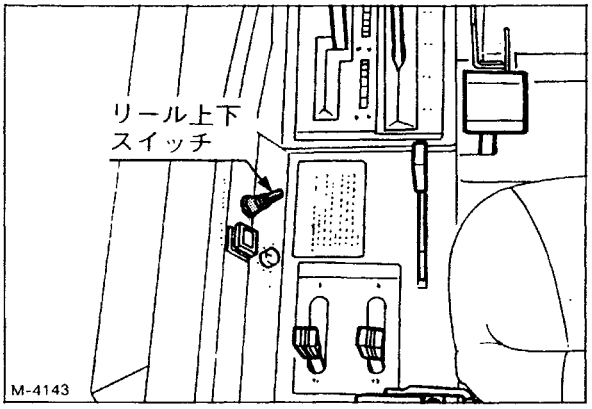


注意

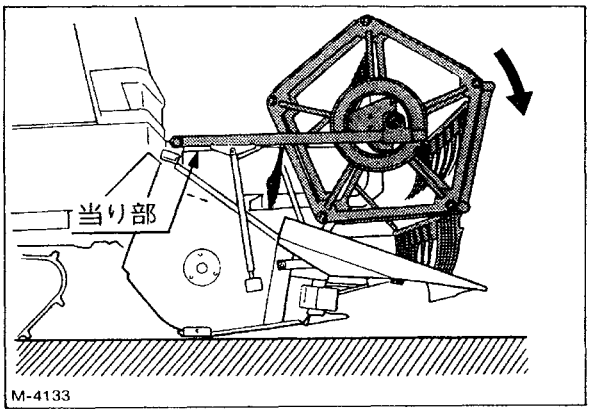
●刈り残しより土の混入防止を重視してください。

◆リールの高さ調節

スイッチで上下します。

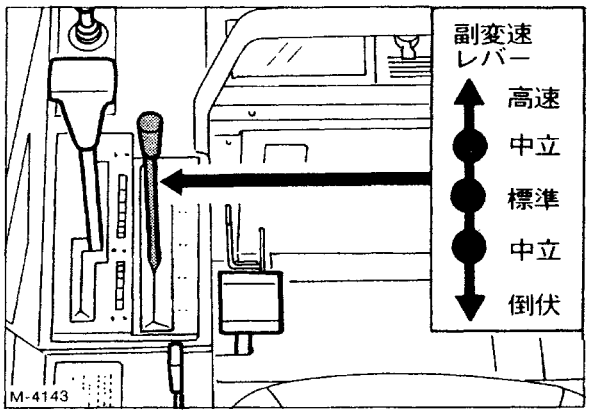


特殊な場合を除き，最も下げた(当りまで)状態で使ってください。



◆リールの回転速度

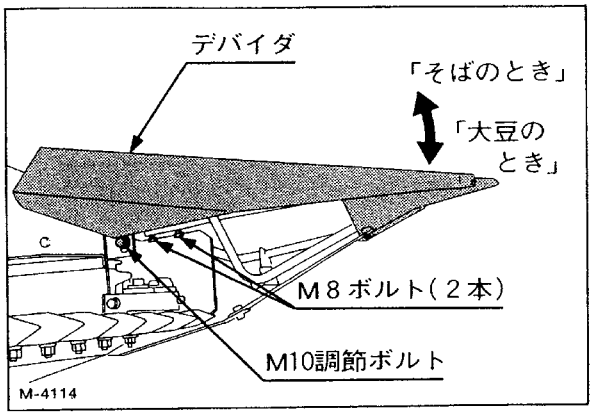
リールの回転は車速同調式になっています。作物の状況によって副変速レバーを下表のようにしてください。



作　物　状　態	副変速レバー位置
直立から20°ぐらいまでの倒伏	標　準
20°以上の倒伏	倒　伏

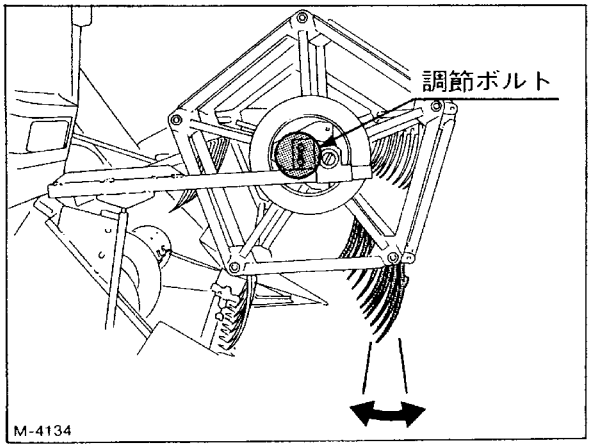
◆デバイダの調節方法

大豆とそばでは，デバイダ高さを変えてください。大豆のときは低く，そばのときは高くしてください。M８ボルト(２本)とM10調節ボルトをゆるめて調節してください。



◆リールタインの角度調節

ほとんど調節の必要はありませんが，タイン角度が変えられます。

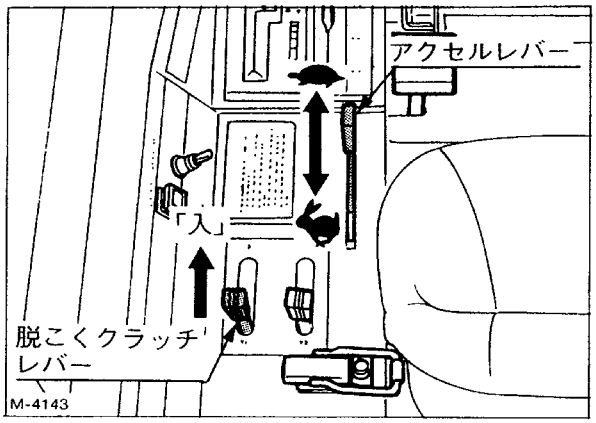


■脱こく部の操作のしかた

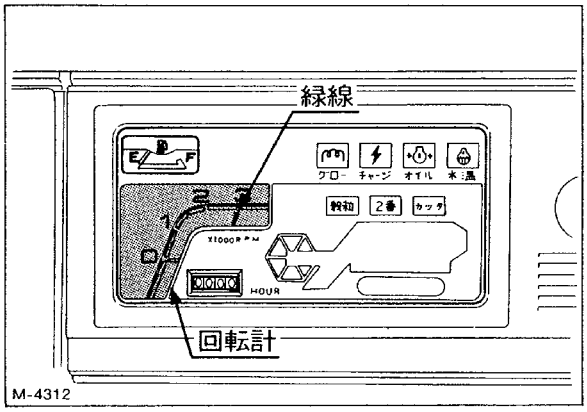
◆脱こく部の回転数

❶アクセルレバーでエンジンの回転数を合せます。

❷脱こくクラッチを入れ，脱こく部を回転させます。



❸回転数の調節は，回転計を見ながら緑線の上限まで徐々にアクセルレバーで調節してください。

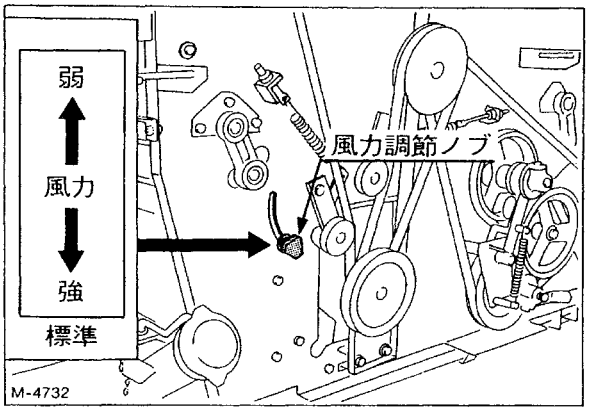


注意

●脱こく部の回転は無負荷の状態で合せてください。

◆トウミ風力調節の使い方

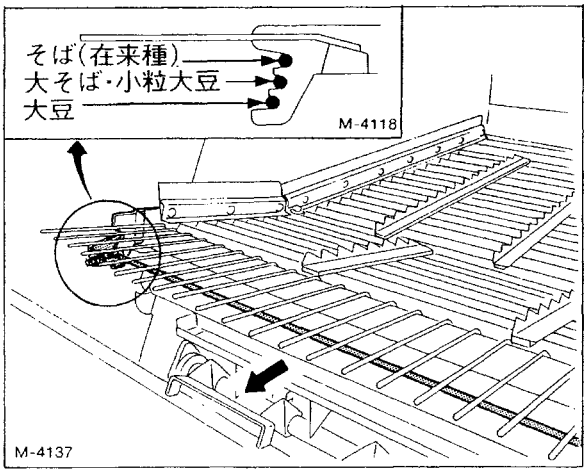
1番穀粒の選別状態と3番飛散粒の状態により，風力を調節します。



	風　力
通　　常	標　準
3番飛散粒が多いとき	弱める

◆チャフシーブの切換え

刈取り作物により，チャフシーブの目合いを調節します。



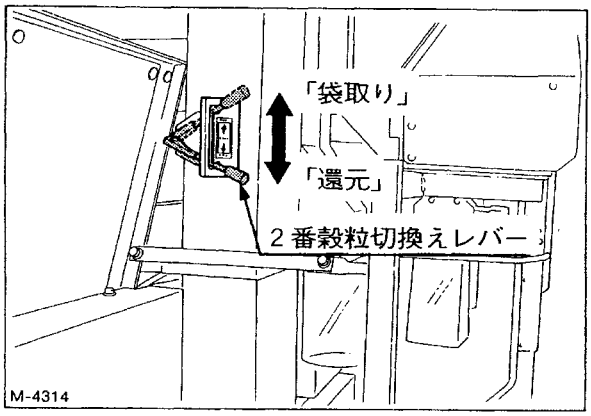
注意

(1)カッタ刃に注意してください。

(2)カッタ安全カバーは必ず元通りにセットしてください。(エンジンがかかりません。)

◆2番穀粒の切換え

2番穀粒は，「袋取り」と選別部に「還元」の切換え式になっています。次のように使ってください。



	切換え
標　準 きれいな大豆で1番に混入しても等級低下の心配がないとき	還　元
1番に混入して等級が下がる心配があるとき	袋取り

◆脱こく性能と各部調節との関連

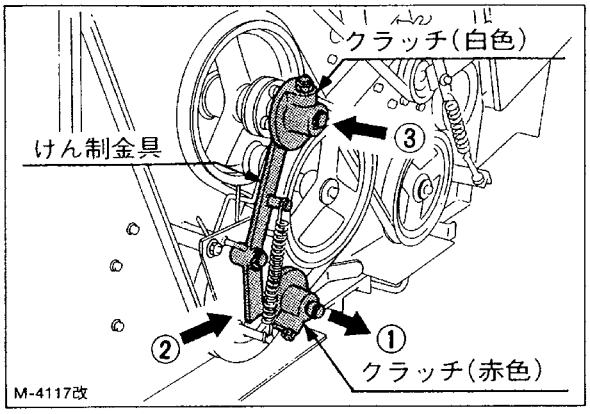
	エンジン回転数	トウミ風力調節	チャフシーブ
こぎ残しが多い	○		
1番穀粒の選別が悪い (ごみ混入が多い)	○	○	○
3番飛粒が多い	○	○	
損傷粒が多い	○		

◆大豆⟷そばの切換え

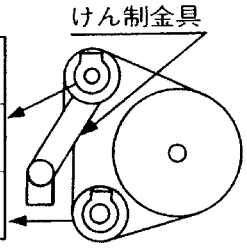
大豆に合せて出荷されています。

そばへの切換えは次の手順で行なってください。

❶選別ベルト回転方向の切換え



大　豆	そ　ば	クラッチ
OFF (引く)	ON (押す)	白　色
ON (押す)	OFF (引く)	赤　色



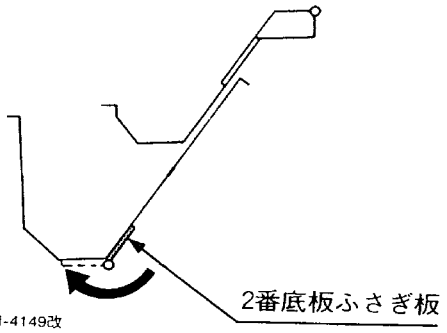
●切換え手順(大豆→そば)

①赤色のクラッチをOFF(引く)にします。

②けん制金具を反対側に倒します。

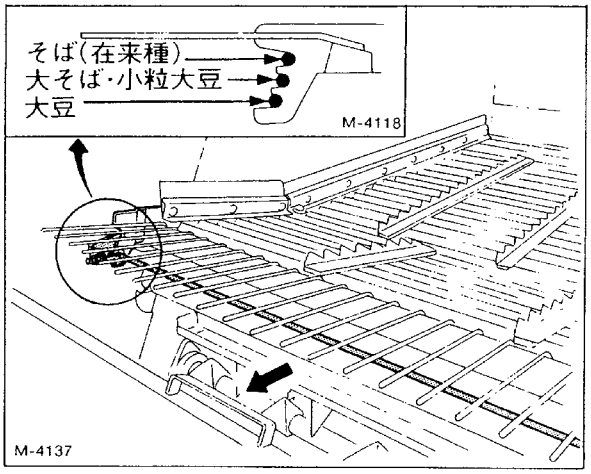
③白色のクラッチをON(押す)にします。

❷2番スクリュ部の切換え



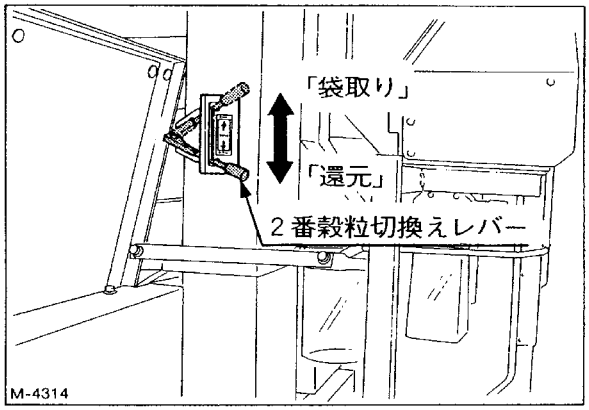
①2番底板のふさぎ板を閉じる。

❸チャフシーブの切換え



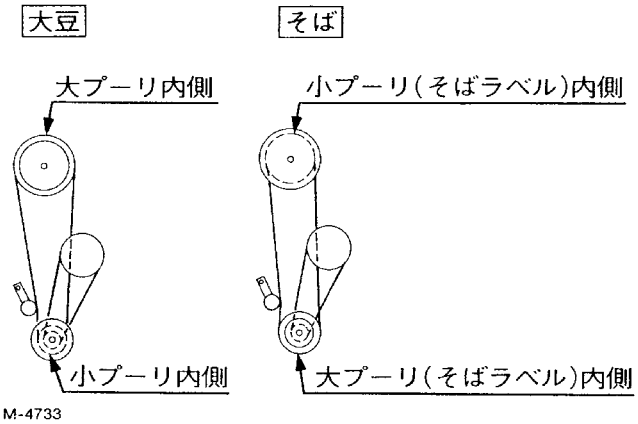
❹2番穀粒の切換え

そばは還元で使ってください。



❺プーリの組替え

脱こくロータ軸の回転数を上げるためプーリを組替えます。



■走行部の操作のしかた

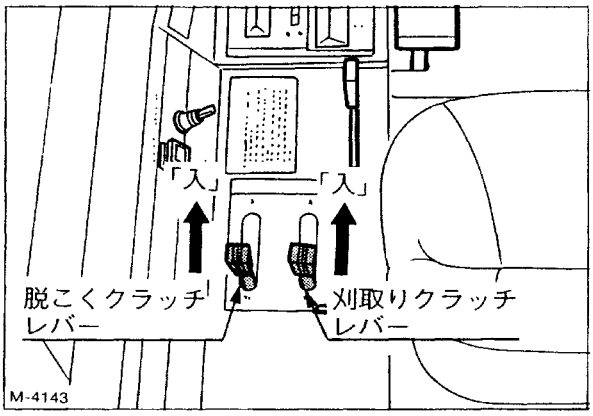
◆作業機部分の回転

❶脱こくクラッチレバーを「入」にします。

……脱こく機とカッタ部が回転する。

❷刈取りクラッチレバーを「入」にし，主変速レバーを「前進」側に倒します。

……刈取り部が回転する。



◆走行速度の調整

❶作物やほ場の条件に合せて，副変速レバーの位置を選びます。
(20ページ参照)

❷主変速レバーを操作して，前進，後進の速度を調整し，最適速度で作業してください。

注意

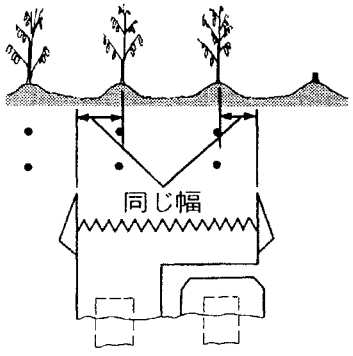
●副変速レバー「高速」位置での刈取り作業は，トラブルの原因になりますので使用しないでください。

◆植付け状態に沿った方向制御

作物に合せて上手に刈取るために，パワーステアリングレバーを小刻みに操作して，植付け状態に沿って前進します。

■刈取り部の条合せのしかた

刈取り幅はふり分けに合せてください。

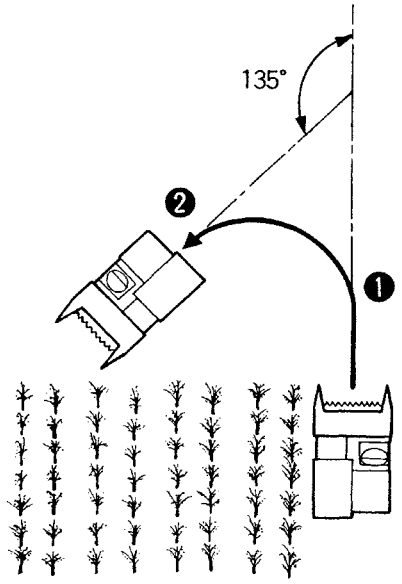


M-4145

■ほ場内での回行のしかた

❶刈終ると，前進しながら刈取り部を少し上げます。
(早く上げすぎないように注意してください)

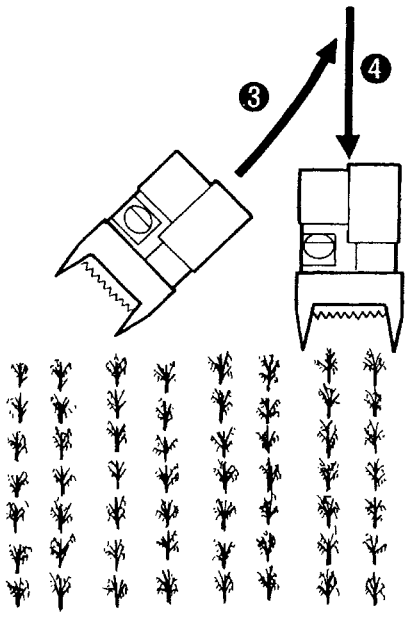
❷パワーステアリングレバーを左に一杯倒し，135度くらい回行した位置でストップします。



M-4150

❸主変速レバーを「後進」側に入れ，バックしながらパワーステアリングレバーを右に一杯倒し，次に刈る方向にまっすぐに合せます。

❹刈取り部を下げ，前進します。



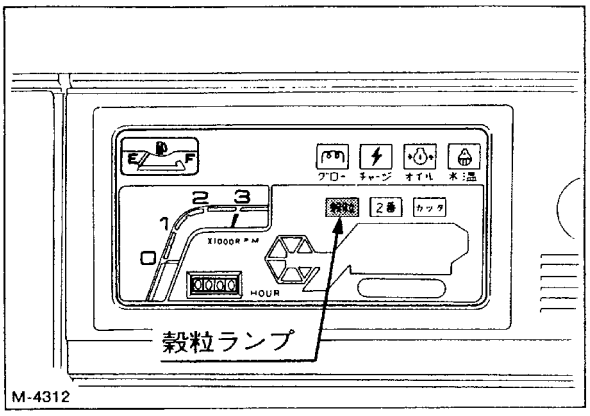
M-4151

注意

●回行するときは必ず刈取り部を上げてください。

■刈取り作業中の注意事項

ホッパがいっぱいになるとイージーチェッカの「穀粒」ランプが点滅し，警報ブザーが断続して鳴ります。このときは直ちに刈取り作業を中止し，穀粒を排出してください。



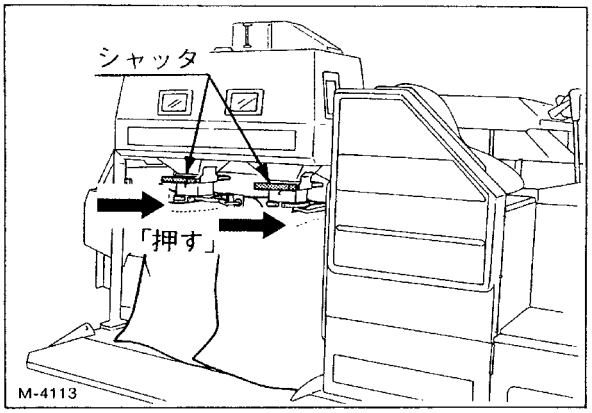
注意

(1)警報ブザーが鳴った後も刈取りを続けると，穀粒があふれたり詰まったりして，故障の原因になります。

(2)回行中はエンジン回転を下げないでください。下げると「選別を悪くしたり」「詰まりの原因」になります。

■穀粒の排出方法

シャッタを矢印の方向に押して閉じてからもみ袋を取出してください。

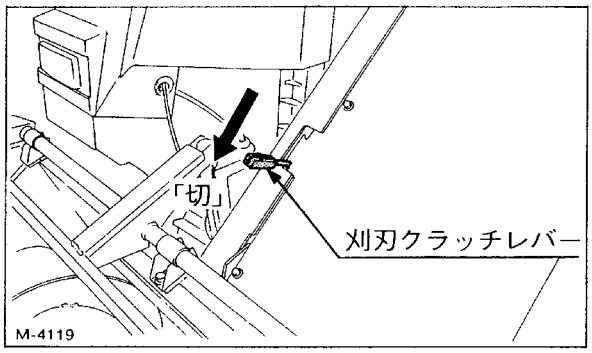


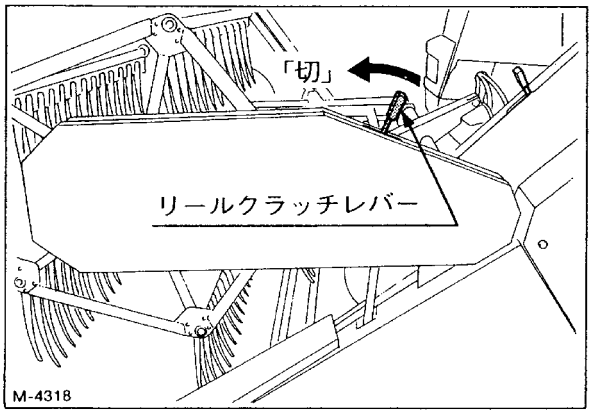
■枕刈りの脱こくのしかた

安全ポイント

(1)刈刃クラッチを「切」にしてください。
(2)リールクラッチを「切」にしてください。
(3)刈取り部降下防止のため昇降ロックレバーを必ず「ロック」の位置にしてください。

枕脱こく作業時は安全のため必ず刈刃クラッチとリールクラッチを「切」にしてください。

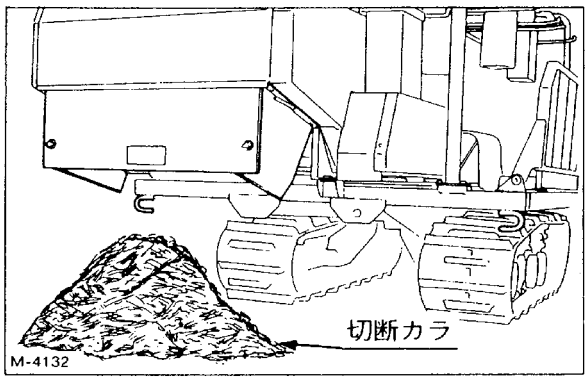




注意

(1)枕脱こくは一度に多量の供給をしないでください。

(2)1ヵ所で多量の枕脱こくをする場合，カッタの下に切断カラの堆積が原因で，カッタなどが詰まることがありますから，機体を移動させるか堆積カラを取除いて作業してください。



(3)切断カラがカッタ排出口に詰まった場合は，必ずエンジンを止めてください。

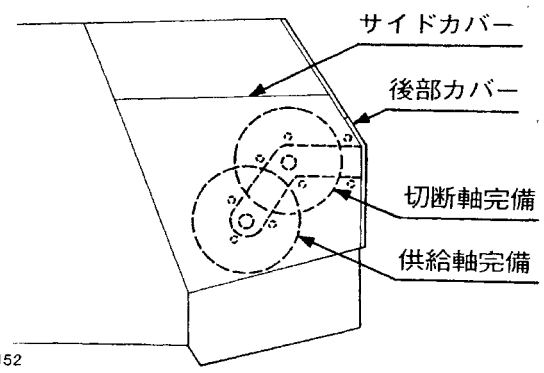
カッタ刃の交換

安全ポイント

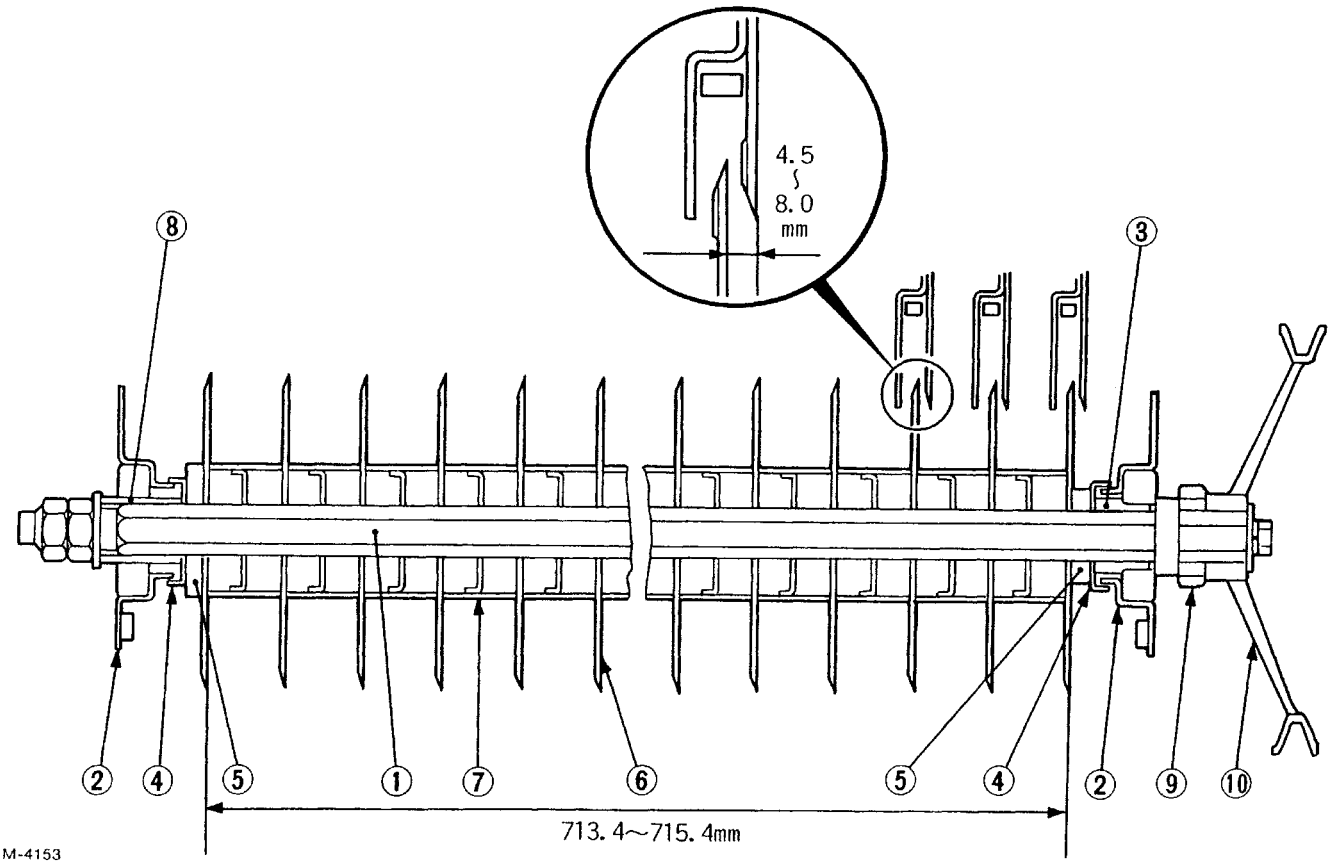
●必ずエンジンを停止してから作業してください。

❶両サイドカバーと後部カバーを外します。
❷両サイドの軸受ブラケットのボルトを外します。
❸後部に切断軸完備で抜取ります。
❹スクレーパ止めロッドを抜きます。
❺後部に供給軸完備で抜取ります。
❻軸アッシを安定した所に置き，順に分解します。
（順序よく並べておいてください。）
❼新しい刃と交換しながら並べた順に組立てます。

切断軸完備構成は下図のとおりです。



M-4152



M-4153

図番	品　番	品　名	個数
①	51161-8421-0	セツダンジク	1
②	57412-2116-0	ジクウケ	2
③	57613-1218-0	ベアリングカラー1	1
④	57613-1226-2	キャップ	2
⑤	51161-8422-0	10－65オサエザガネ	2

図番	品　番	品　名	個数
⑥	57613-1229-0	150セツダンバ	20
⑦	57759-2120-0	36パイプカンビ	19
⑧	57613-1219-0	ベアリングカラー2	1
⑨	57531-1121-0	14ギヤー	1
⑩	57613-1111-0	φ205プーリ	1

コンバインの簡単な手入れと処置

各部の点検と交換

安全ポイント

(1)オイル・冷却水の点検・交換と各部への注油，及びバッテリの取扱いについては，必ずエンジンを停止してから行なってください。
(2)オイル交換中は火気厳禁。
(3)刈取り部は上げたまま長時間経過すると下降することがありますので注意してください。

■点検・給油(水)一覧表

○：点検・補給 △：交換

項目＼時期		毎作業前	アワーメータ表示時間 35	50	100	200	300	350	400	500	600	650	700	800	900	1000	参照ページ
エンジン部	燃料	○															———
	冷却水	○	作業毎に点検，2年毎に交換 冬期停止時は排出又は不凍液(35%)を入れること														28
	エンジンオイル	○	△			△			△		△			△			29
走行部	トランスミッションケースのオイル			△				△				△				△	30
	油圧オイルタンクのオイル			△				△			△				△	△	30
	刈取一方クラッチのグリース		分解時に給油														30
	バッテリ液		作業シーズンの前・後に点検，補給														31
	水平制御アーム支点軸受部のグリース		長期格納前に補給														32
刈取り部	刈刃の駆動部のグリース		使用前(一日一回)にグリースアップ														32
	各チェーンの注油		定期点検時(50時間ごと)に注油														32
脱こく部	チェーンの注油		定期点検時(50時間ごと)に注油														33
	各ギヤーのグリース		定期点検時(50時間ごと)にグリース塗布														33

■冷却水の点検と交換

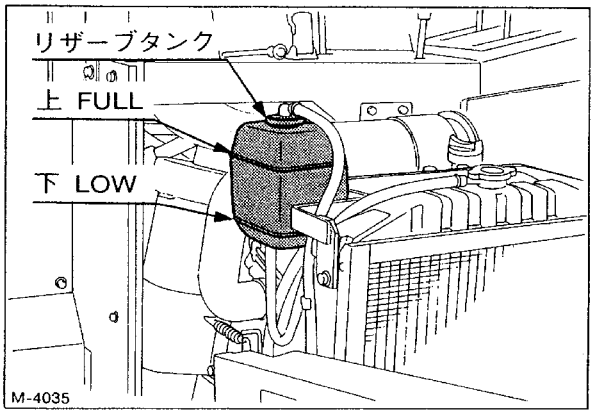
◆冷却水の補給 (ラジエータ容量 4.3ℓ リザーブタンク容量 0.6ℓ)

ラジエータにはリザーブタンクが付いており，ラジエータ内の冷却水が少なくなると，リザーブタンクから自動的に補給される構造になっています。冷却水の量はリザーブタンク内の量を点検してください。

「FULLからLOWの間」であれば正常です。

通常は補給の必要はありませんが，リザーブタンクの冷却水がLOW以下の場合は，LOWとFULLのレベルの間まで清水を補給してください。

FULL以上は入れないでください。



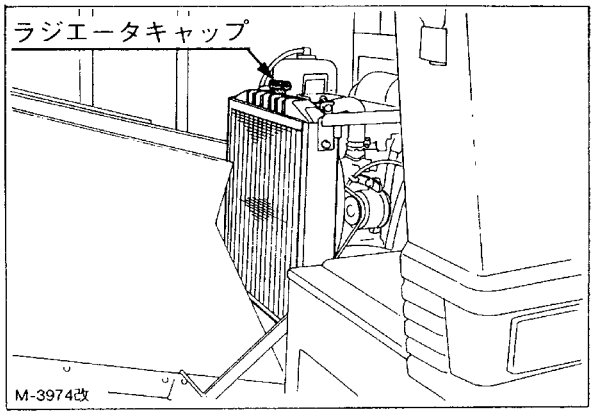
◆交換のしかた

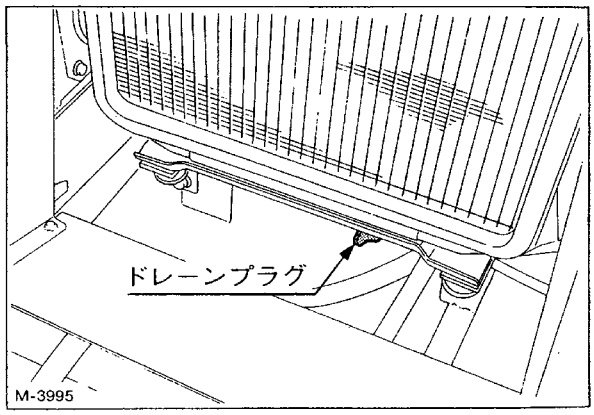
安全ポイント

- ラジエータキャップは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出することがありますので，停止後十分冷えてからにしてください。

(1)ラジエータ下部のドレーンプラグとラジエータキャップを開き，冷却水を全部出します。

リザーブタンクの排水は，ラジエータキャップのオーバフローパイプを外し排水します。





(2)排水・洗浄後，給水するときはドレーンプラグを閉め，ラジエータをいっぱいにし，リザーブタンクに適量給水してください。

◆不凍液の使い方

不凍液は水の凍結温度を下げる効果をもっており，冷却水凍結によるシリンダやラジエータの損傷を防ぎます。

冬期気温が0℃以下になるようなときは，必ず不凍液(ロングライフクーラント)を清水と混合しラジエータに給水するか，又は冷却水を完全に排水してください。

[工場出荷時は，不凍液(ロングライフクーラント)が入っています。]

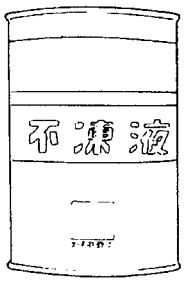
注意

(1)冷却水には，不凍液(ロングライフクーラント)を35%入れ，よく水と混ぜ合せてからお使いください。(北海道のみ50%)

(2)不凍液の混合比を誤ると，冬期には冷却水の凍結，夏期にはオーバヒートの原因になります。

(3)不凍液を使用する場合は，ラジエータ保浄剤を投入しないでください。

不凍液には防錆剤が入っていますので，保浄剤を混入するとスラッジが生成することがあり，エンジン部品に悪影響を与えます。

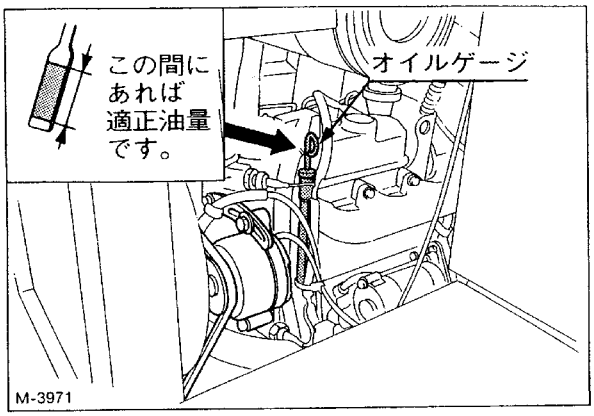


(4)クボタ不凍液ロングライフクーラントの有効使用期間は2年間です。

必ず2年で交換してください。

■エンジンオイルの点検と交換

◆点検



気　温	オイルの種類	オイル量
15℃以上のとき	クボタ純オイル ディーゼルエンジン用 D30又はD10W30	上限線 約5.1ℓ 下限線 約3.5ℓ
15℃未満のとき	クボタ純オイル ディーゼルエンジン用 D10W30	

クボタ純オイルの入手が困難な場合は，CC級以上のオイルをお使いください。
この場合は気温により下表のように使い分けてください。

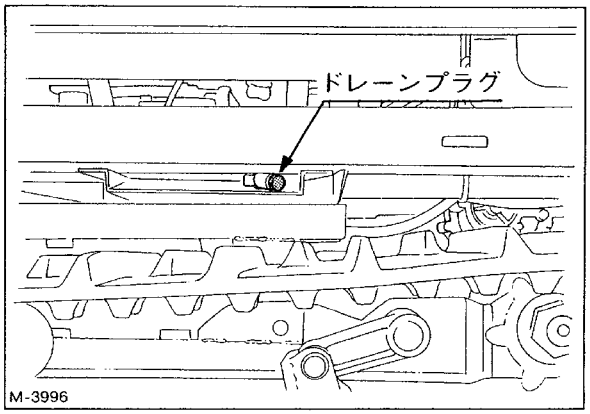
気　温	オイルの種類
0℃以下	SAE10W又は10W－30
0～25℃	SAE20又は10W－30
25℃以上	SAE30又は10W－30

10W—30はオールシーズン用です。

◆交換

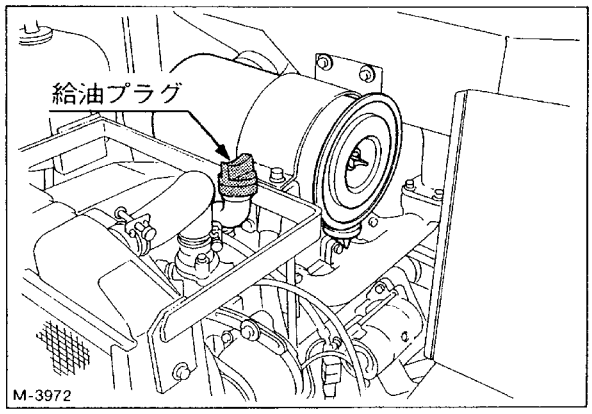
【排油のしかた】

給油プラグを外してから，ドレーンプラグを外し，オイルを排出してください。
給油プラグを閉めたままでは完全に排出できません。
エンジンの暖かいうちに排出しますと，オイルの流動性が良く早く抜取ることができます。



【給油のしかた】

ドレーンプラグを締付けて，給油口から適量給油し，給油プラグをきちんと締付けてください。
（付属のジョウゴを使用してください。）

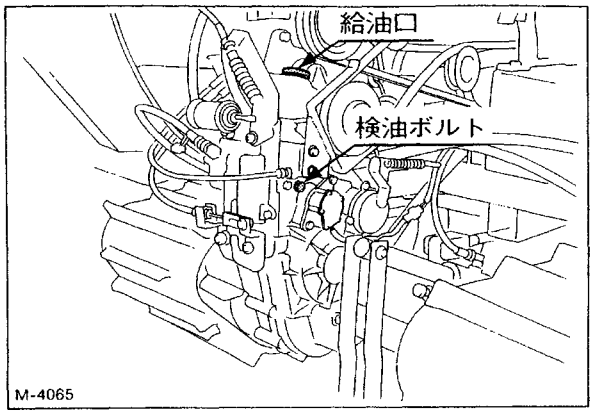


■トランスミッションケースのオイル

◆点検

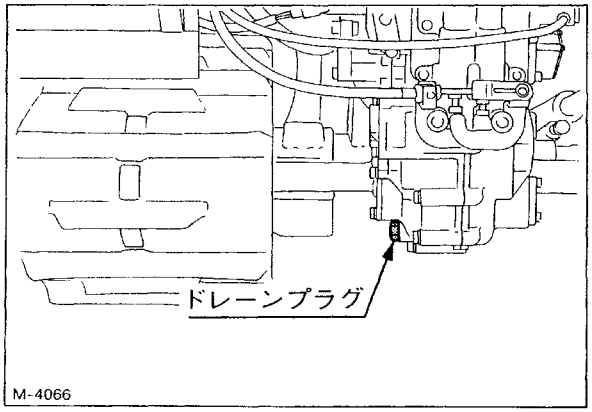
検油ボルト(M８)を外してオイルが出てくれば適正量です。

不足のときは，給油口から付属のジョウゴを使用して補給してください。



◆交換

トランスミッションケース下部のドレーンプラグを外して古いオイルを排出させ，排出後はドレーンプラグを元のように締付けてください。その後，給油口から給油してください。



オイルの種類	オイル量
クボタ純オイルUDT	6.5ℓ

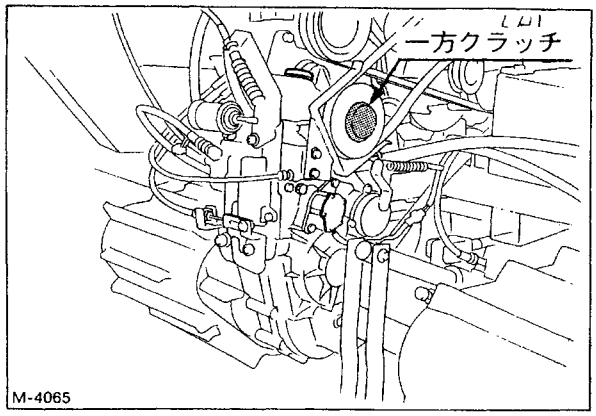
注意

(1)湿式ブレーキのオイルと共通ですので，他のオイルは使用しないでください。

(2)ミッションオイルを補給・交換するときは，給油口の回りをきれいにしてください。ミッションケース内にドロなどが混入すると故障の原因になります。

■刈取一方クラッチのグリース

分解時，一方クラッチ部にグリースを封入してください。

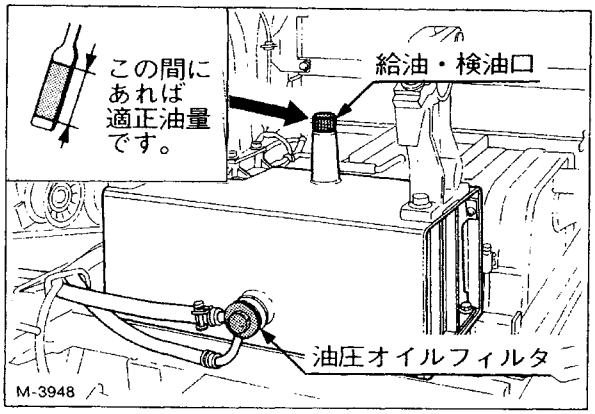


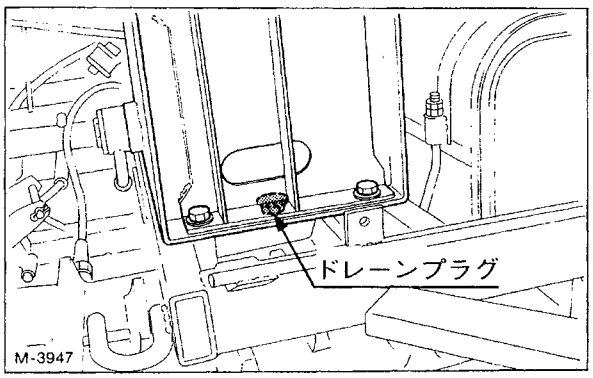
■油圧オイルタンクのオイル

◆点検

検油栓についているオイルゲージでチェックしてください。

不足のときは，給油口から付属のジョウゴを使用して補給してください。





◆交換

ケースの左下側のドレーンプラグを外し，古いオイルを排出させ，排出後はドレーンプラグを元のように締付けてください。その後，給油口から給油してください。

オイルの種類	オイル量
クボタ純オイルUDT	12ℓ

■バッテリの取扱いと保守

安全ポイント

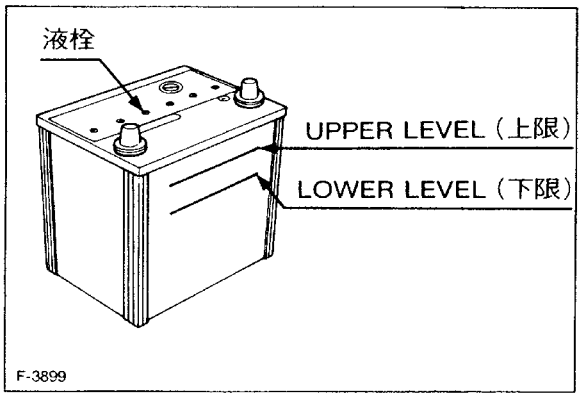
(1)バッテリ液が身体や衣服に付かないようにしてください。(バッテリ液は希硫酸ですので，衣服に穴が開きます)
もし，身体や衣服に付いたときは，すぐ水洗いしてください。

(2)バッテリに火気を近づけたり，ショートさせると爆発の危険がありますので注意してください。

(3)バッテリの点検及び取外し時には，エンジンを停止し，メインスイッチを「切」にしてください。

◆電解液について

バッテリの電解液が液面線の間にあるかどうか点検し，不足のときは精製水を補充してください。



注意

(1)電解液が不足して極板が空気中に露出しますと，バッテリの寿命は著しく短くなります。

(2)電解液を補充する場合は，必ず精製水を補充してください。希硫酸・井戸水・泥水などは絶対に入れないでください。

(3)精製水を多く入れすぎるとこぼれ出て，機体を傷めます。必ず液面線内に入れてください。

(4)エンジンの始動がしにくくなったり，ライトが暗くなってきましたら，早めに補充電をしてください。

◆充電方法

充電は必ず本体からバッテリを取外して行なってください。電装品や配線を傷めることがあります。

充電は，バッテリの⊕を充電器の⊕に，バッテリの⊖を充電器の⊖に接続して，普通充電法で行なってください。

大電流を通して短時間で充電する急速充電法を応急処置として行なったときは，作業後必ず補充電してください。

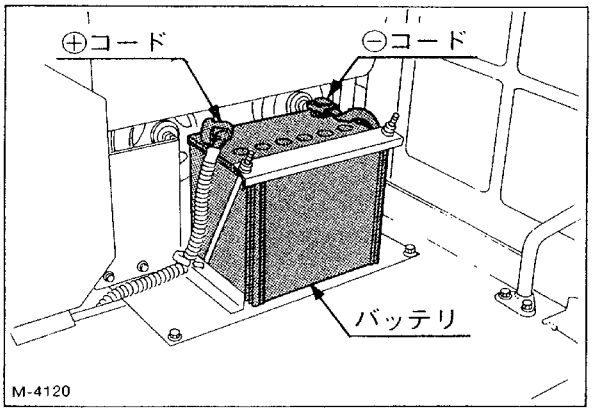
◆バッテリの取外し，取付け方法

(1)バッテリからリード線を外す場合は，必ず⊖側アース線から外してください。(逆にすると，工具などが接触したときショートします)

(2)バッテリを取付けるときは，⊕側を先に接続し，最後に⊖側を接続してください。

(3)バッテリコードを接続するときは，⊕と⊖を間違わないようにしてください。間違うと，電気系統の故障の原因になります。

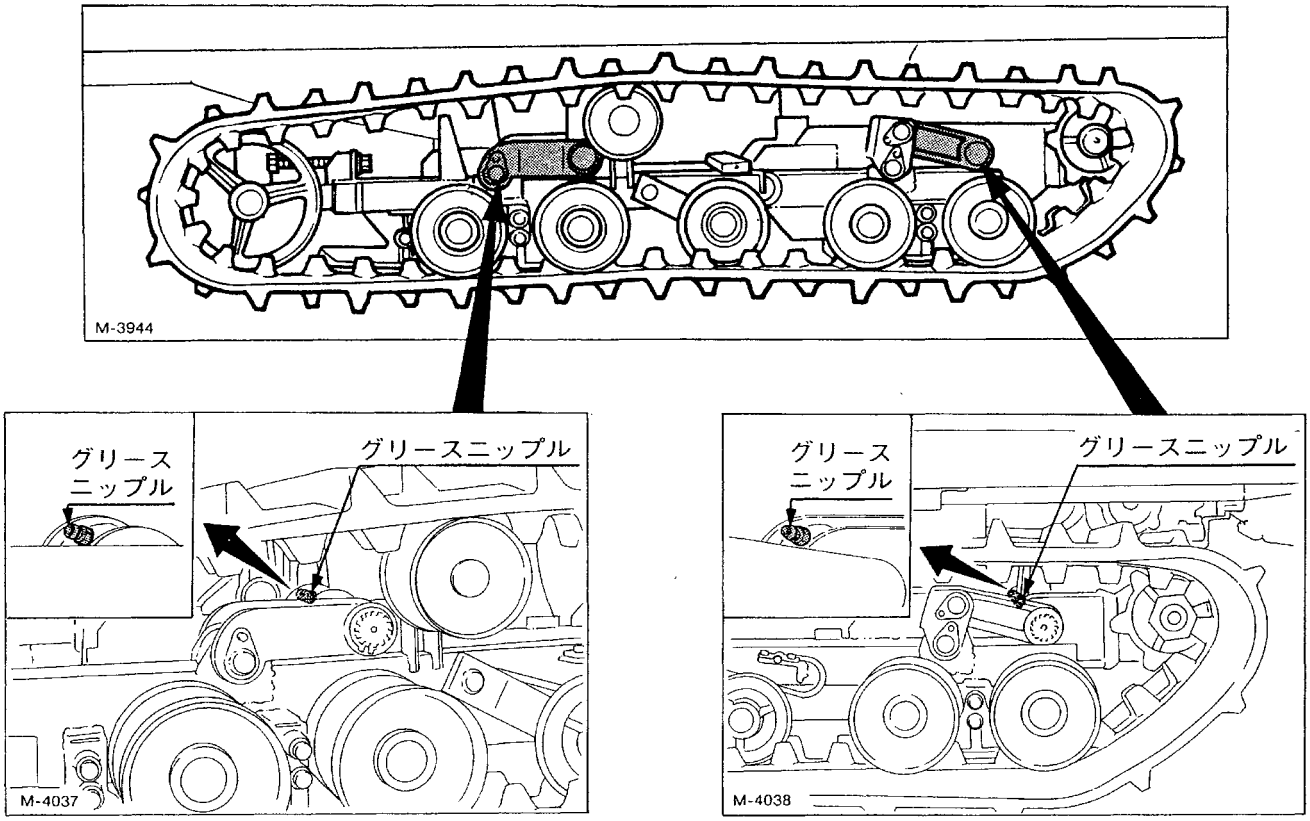
(4)使用しているバッテリの形式は「65D23L-MF」です。指定外のバッテリは使用しないでください。



(5)⊕⊖のコードを元どおりの配線にしてください。⊕コードは他部品の鋭利な角に触れないよう，確実に組付けてください。

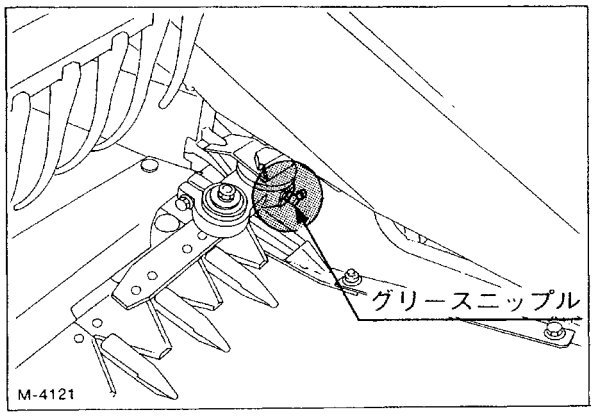
■車体水平制御アーム軸受部のグリース

長期格納前又は分解時にグリースアップしてください。(左右８ヵ所)



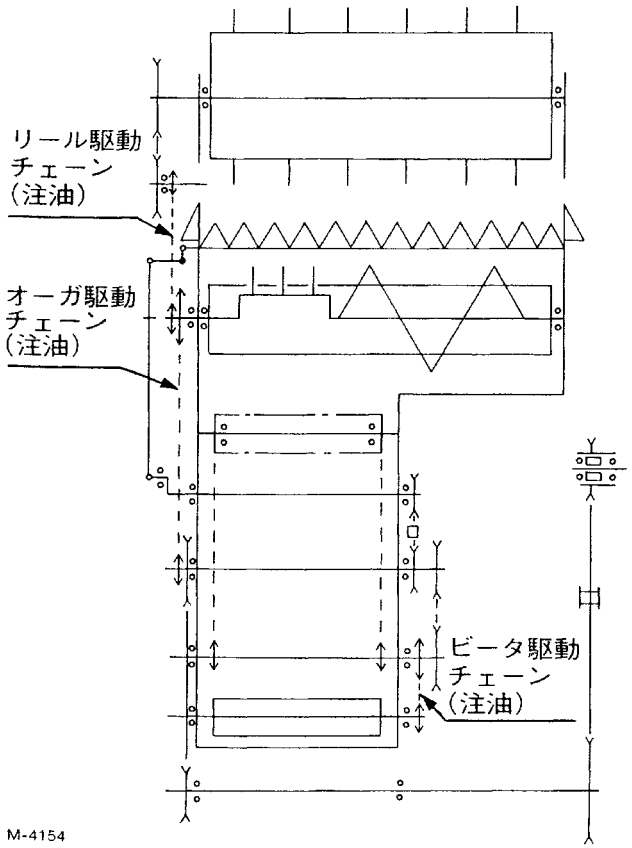
■刈刃の駆動部のグリース

駆動部の球面ブッシュは使用前(一日一回)グリースアップしてください。



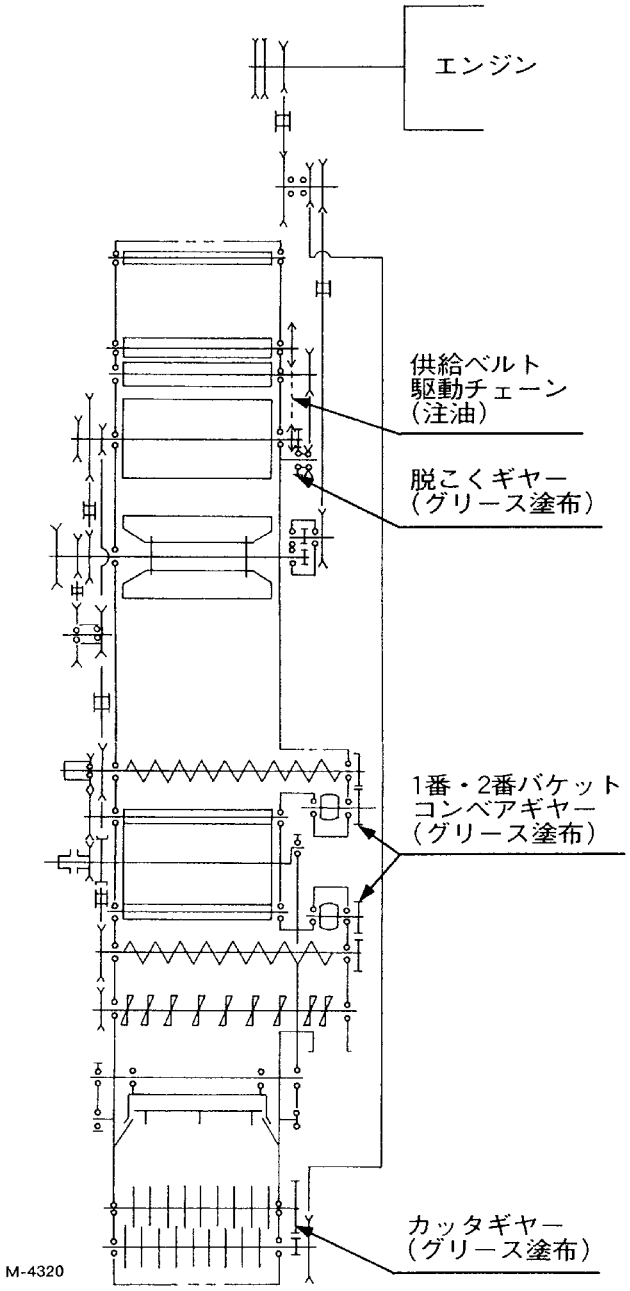
■刈取り部各チェーンの注油

定期点検時(50時間ごと)に注油してください。(３ヵ所)

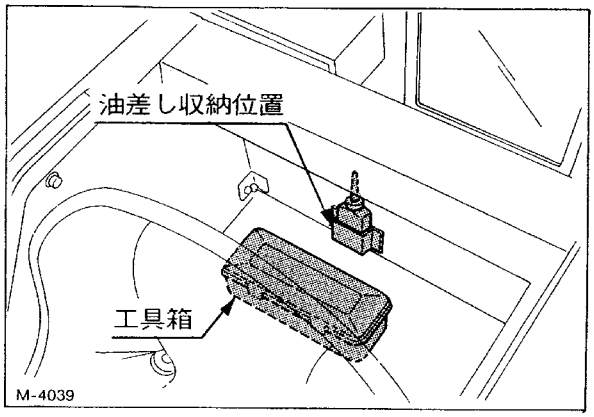


■脱こく部チェーンの注油とギヤーのグリース塗布

定期点検時(50時間ごと)に注油(１ヵ所)又はグリースを塗布してください。(３ヵ所)



◆油差し収納位置



定期点検と処置

安全ポイント

●各部の調整・点検・交換を行なうときは，必ずエンジンを停止してください。

定期点検は，下記の時間ごと(○又は△印)に整備をしてください。
定期点検一覧表は一般的な目安です。異常を感じたときはその都度，調整をしてください。
下記の項目について処置をしたら，○又は△印の中に✓印をつけてください。
○印は点検，調整，△印は交換をしてください。

■定期点検一覧表

注１：ベルト類は亀裂又は帆布のはがれたとき必ず交換してください。
２：専門的な技術や特殊な工具を必要とするときは，販売店・農協・弊社支店又は㈱クボタアグリにご相談ください。

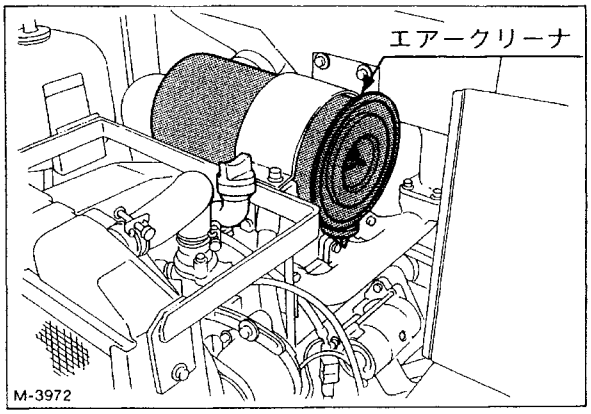
	時期 / 項目	アワーメータ表示時間																				2年	参照ページ
		20	50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	600	650	700	750	800	850	900	950	1000		
エンジン部	エアークリーナエレメントの清掃と交換		○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○	△	○	○		35
	燃料フィルタの清掃と交換			○		○		○		△		○	○		○		△		○		○		36
	フューエルフィルタアッシ２の交換					△				△			△				△				△		37
	エンジンオイルフィルタカートリッジの交換					△				△			△				△				△		36
	ラジエータの点検			○		○		○		○		○	○		○		○		○		○		37
	ラジエータホースの点検と交換					○				○			○				○				○	△	36
	燃料系ゴムホースの点検と交換				○			○			○		○			○			○			△	36
	排油チューブの点検と交換				○			△			○		△								△	△	36
	ファンベルトの点検と交換		○		○		△	○		○		△				△					△		41
	防じん網，ラジエータフィン，オイルクーラフィンの清掃		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		37，38
走行・操作部	ブレーキワイヤの調整と交換			○		○		○		○		△	○		○		○		○		△	△	38
	クラッチワイヤの調整と交換			○		○		○		○		△	○		○		○		○		△	△	38
	リリーフワイヤの調整と交換			○		○		○		○		△	○		○		○		○		△	△	38
	切換えワイヤの調整と交換			○		○		○		○		△	○		○		○		○		△	△	38
	刈取りクラッチベルトの調整と交換	○		○		○		○		○		△	○		○		○		○		△		40
	脱こくクラッチベルトの調整と交換	○		○		○		○		○		△	○		○		○		○		△		40
	ミッション駆動ベルト張り調整と交換	○		○		○		○		○		△	○		○		○		○		△		40
	クローラの張り調整と交換		○		○		○		○		○	△	○		○		○		○		△		42
	HSTオイルフィルタカートリッジの交換		△						△						△						△		37
	油圧オイルフィルタカートリッジの交換		△						△						△						△		37
	ベルトの点検と交換	○		○		○		○		○		△	○		○		○		○		△		40
	足回りシールの交換											△									△	△	42
	ワイヤハーネス，バッテリ⊕コードの点検と交換	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	39

	時期 / 項目	アワーメータ表示時間																				2年	参照ページ
		20	50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	600	650	700	750	800	850	900	950	1000		
刈取り部	カウンタ駆動ベルト	○		○		○		△		○		○	△		○		○		△		○		40
	刈刃駆動ベルト	○		○		○		△		○		○	△		○		○		△		○		40
	フィーダ駆動ベルト	○		○		○		△		○		○	△		○		○		△		○		40
	リール駆動ベルト	○		○		○		△		○		○	△		○		○		△		○		40
	オーガ駆動チェーン		○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○	△	○	○		43
	リール駆動チェーン		○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○	△	○	○		43
	ビータ駆動チェーン		○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○	△	○	○		43
	フィーダチェーン		○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○	△	○	○		43
	刈刃のすき間調節					○				○			○				○				○		42
	刈刃アッシの交換							△					△						△				42
	刈刃アーム，リンクボール取付けボルト，ナットの点検			○		○		○		○		○	○		○		○		○		○		——
脱こく部	脱こくカウンタベルト	○		○		○		△		○		○	△		○		○		△		○		40
	カッタ駆動ベルト	○		○		○		△		○		○	△		○		○		△		○		40
	供給ロール駆動ベルト	○		○		○		△		○		○	△		○		○		△		○		40
	脱こくロータ駆動ベルト	○		○		○		△		○		○	△		○		○		△		○		40
	処理部駆動ベルト	○		○		○		△		○		○	△		○		○		△		○		40
	選別駆動ベルト	○		○		○		△		○		○	△		○		○		△		○		40
	供給ベルト駆動チェーン		○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○	△	○	○		43
	供給ベルト			○		○		○		○		○	○		○		○		○		○		41
	選別ベルト			○		○		○		○		○	○		○		○		○		○		41
	1番，2番バケットコンベア			○		○		○		○		○	○		○		○		○		○		41
タカ部ッ	カッタ刃の交換				△			△			△		△			△			△				26

■エアークリーナの清掃

エレメントの清掃は，エレメントの内側から空気を吹きつけるか，又は軽く振ってゴミを取除いてください。

カーボンや油分が付着しているときは，クボタ指定の純正エレメント洗浄剤で洗浄してください。



【参考】

●エレメント洗浄剤

ND—1500(日本ドナルドソン製)

注意

(1)清掃時は必ずエレメントの注意書を参照してください。

(2)高性能サイクロン併用乾式エレメントを使用していますので，オイルを使用しないでください。

■パイプ・ホース類の点検

安全ポイント

(1)燃料系ゴムホースが破損していると燃料もれを起しますので，必ず点検してください。

▶もし怠ると…

火災など傷害事故の危険があります。

(2)運転中ラジエータホースが外れると，熱湯が吹き出して危険です。

(3)排油チューブが破損していると，エンジンが焼付を起します。

燃料系ゴムホースや排油チューブなどのゴム製品は，使わなくても劣化する消耗品です。
締付けバンドと共に２年ごと又は傷んだときに新品と交換する必要があります。
(1)パイプ・ホース類が傷んだり締付けバンドがゆるんでいないか常に注意してください。
(2)排油チューブも忘れずに点検してください。

注意

- 交換時にパイプや噴射ポンプなどにゴミが入らないように注意してください。ゴミが入ると，噴射ポンプの作動不良の原因になります。

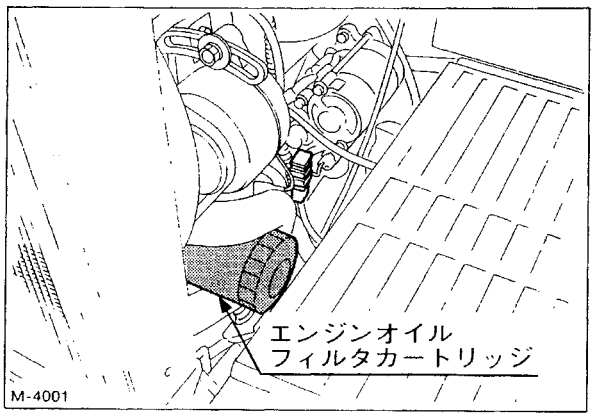
◆ラジエータホースの点検と交換

(1)ラジエータホースの締付け点検は，200時間運転ごと又は６ヵ月ごとに行なってください。
1. 締付けバンドがゆるんでいたり，水漏れのある場合はバンドを確実に締付けてください。
2. ラジエータホースが膨れたり，固くなったり，ひび割れしているときにはホースを交換し，バンドを確実に締付けてください。

(2)２年ごとにラジエータホース及びバンドを交換してください。
それ以前でもチェックしたとき，ラジエータホースが膨れたり，固くなったり，ひび割れしていれば交換してください。

■エンジンオイルフィルタ カートリッジの交換

(1)200時間ごとに販売店・農協で，専用工具で交換してください。
(2)新しいカートリッジはOリングにオイルを薄く塗布してから，十分締付けてください。

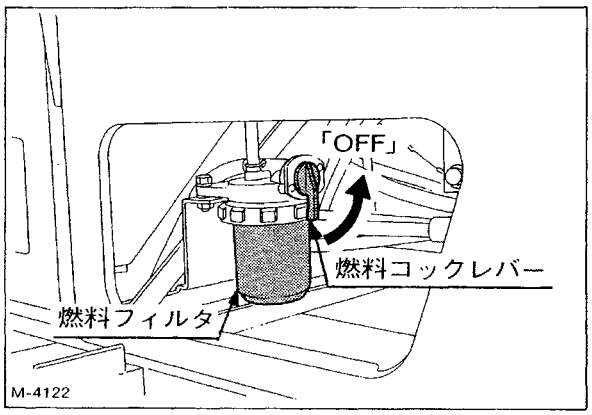


(3)カートリッジを交換すると，カートリッジに入る量だけエンジンオイルの油面が下がります。
オイルゲージの上の刻線までオイルを補給した後，５分程度エンジンを運転して各部及び油圧(オイルランプ)に異常がないことを確認してから，エンジンを止め，再度油面がオイルゲージの規定内にあることを確めておいてください。

■燃料フィルタの清掃

運転時間が約100時間ごとに，燃料こし器の洗浄を行なってください。
エンジンルームをオープンして，次の方法で洗浄を行なってください。

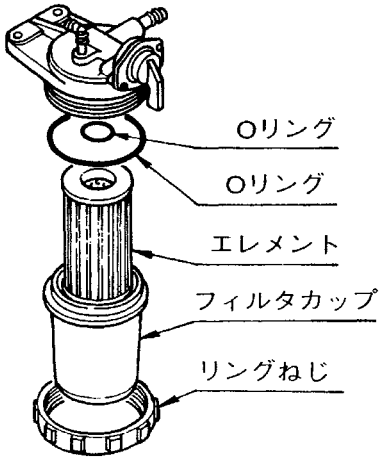
❶燃料フィルタのコックレバーを「OFF」にします。



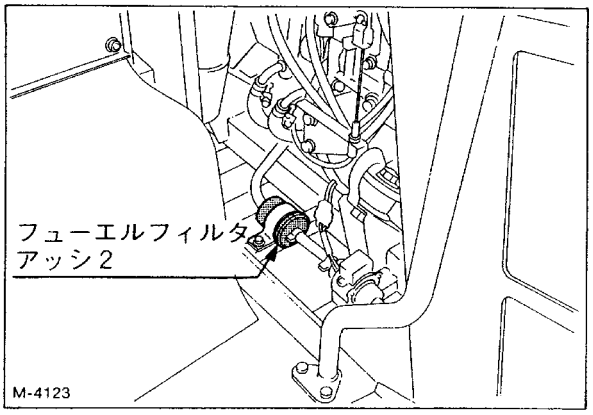
❷本体を垂直にして，燃料をこぼさないようリングねじをゆるめ，カップを外し，内部を軽油で洗浄します。

❸エレメントを取出し，軽油につけてすすぎ洗いをします。目詰まりがひどい場合は交換してください。

❹洗浄がすむと，チリやホコリがつかないようにして，元のように正しく組付けます。



❺燃料フィルタに燃料がこなくなったときは，フューエルフィルタアッシ２が目詰まりしています。新しいものと交換してください。



注意

(1)燃料内にチリやホコリなどが混入すると，燃料ポンプや噴射ノズルが摩耗します。

(2)清掃は，燃料タンクを満杯にする前に行なってください。

(3)燃料フィルタが目詰まりすると，エンジン出力が出なくなることがありますので，フィルタを交換してください。(洗浄では短時間しか効果がありません。)

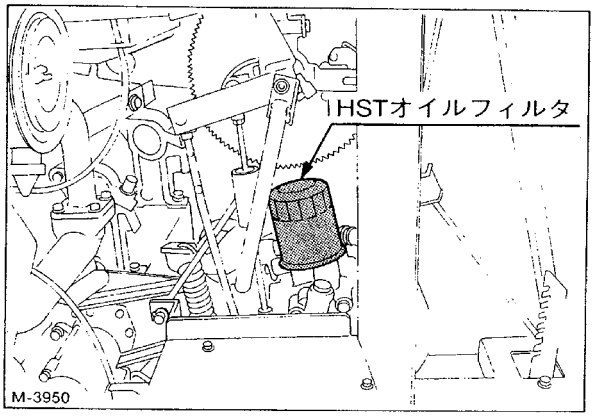
■HSTオイルフィルタ及び油圧オイルフィルタカートリッジの交換

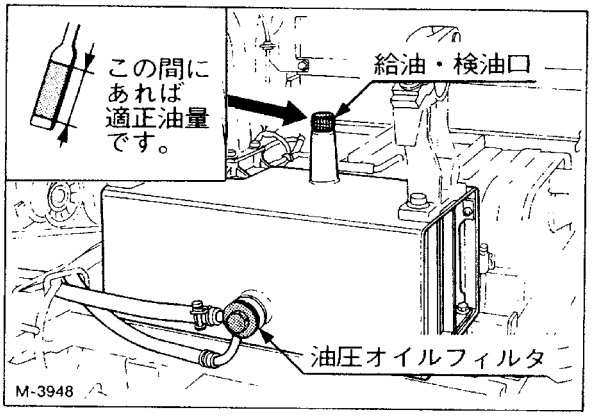
❶ドレーンプラグを抜いてタンク内のオイルを排油します。

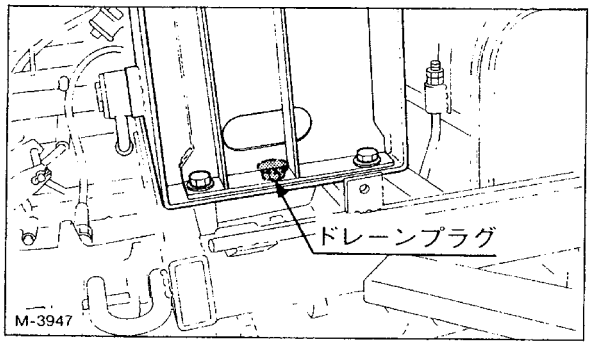
❷オイルフィルタを外します。

❸新しいカートリッジを元のように締付けます。(フィルタのガスケットにオイルを薄く塗る)

❹オイルフィルタは，最初は50時間使用後に，以後は300時間使用ごとに交換してください。





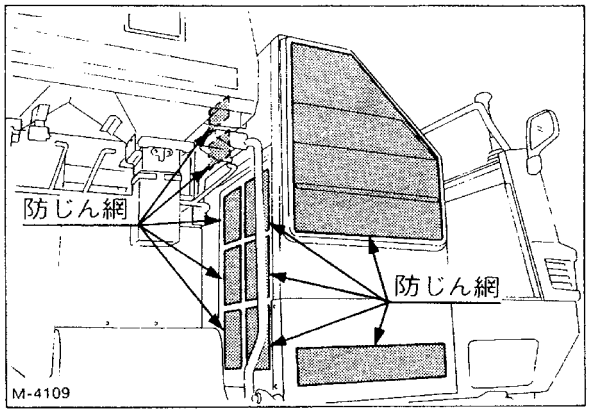


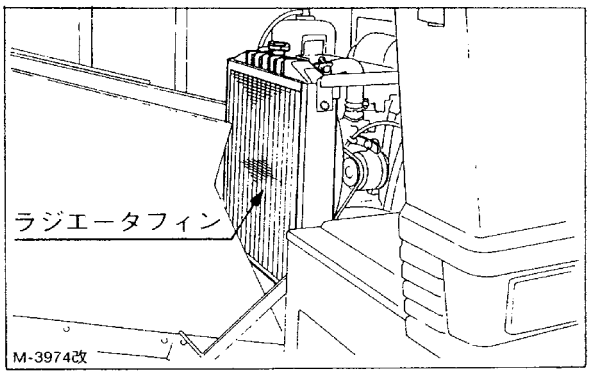
注意

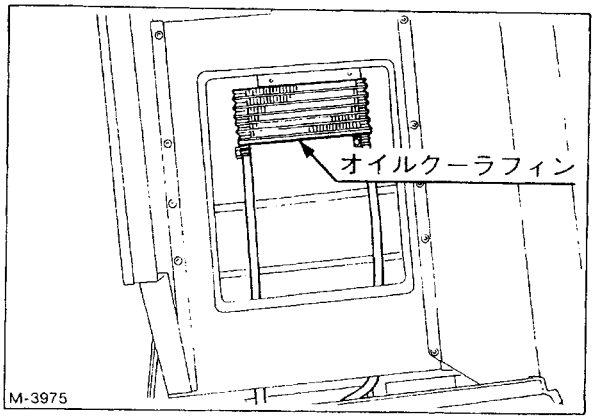
●カートリッジの交換時，オイルタンクのオイルも交換してください。(30ページ参照)

■ラジエータ吸気部の清掃

オーバヒート警報(連続ブザー)が鳴るときは，防じん網とラジエータフィン及びオイルクーラフィンがくずで詰まっていますので，圧縮空気か付属のブラシなどで清掃してください。







注意

(1)ヘラやドライバなど固いもので清掃しないでください。特殊フィンを傷め，ラジエータの機能を低下させる原因になります。

(2)エアークリーナの吸入口には絶対水をかけないでください。エンジン不調又は破損の原因となります。

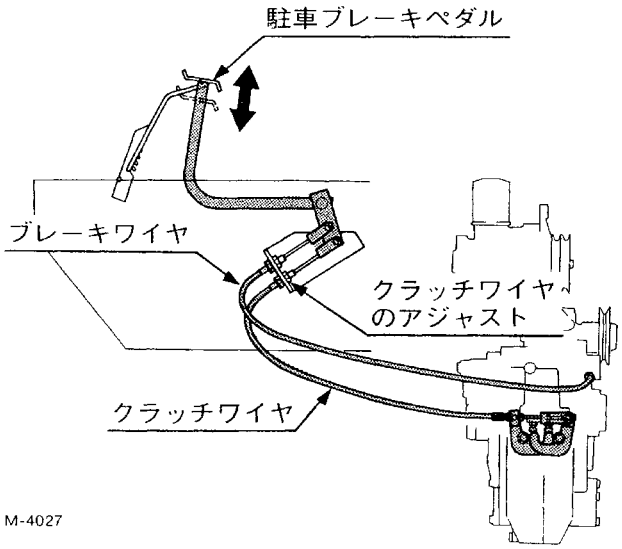
■各部ワイヤの調整

安全ポイント

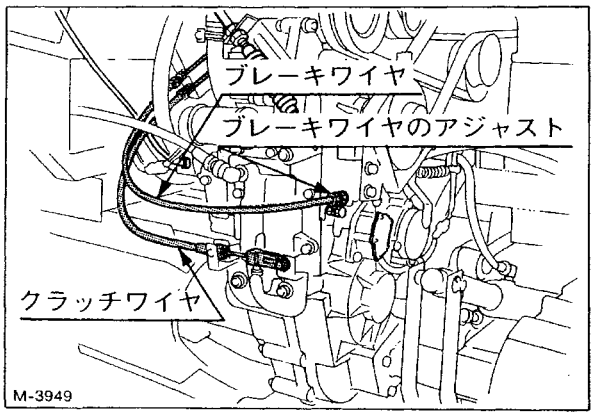
●点検・調整時は，刈取りクラッチを「切」にしてください。

◆駐車ブレーキワイヤ

(1)ブレーキワイヤの調整は，駐車ブレーキペダルの遊びが２～３㎜になるよう調整してください。



(2)クラッチワイヤの調整は，駐車ブレーキペダルの遊びが３～10㎜になるよう調整してください。



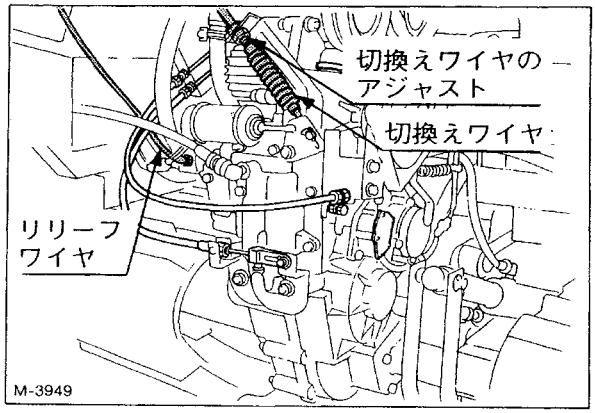
注意

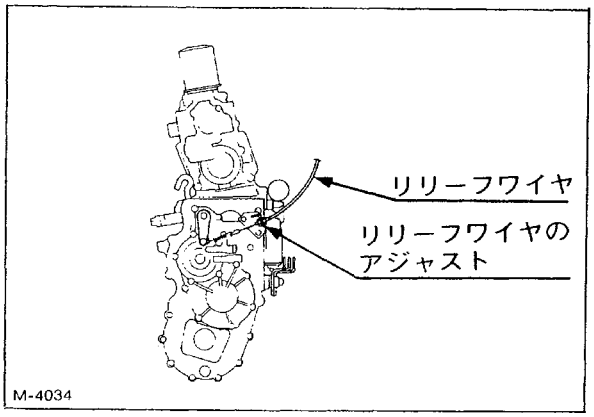
●定期交換部品ですので500時間目又は２年ごとに交換してください。

◆リリーフワイヤ，切換えワイヤ

リリーフワイヤ及び切換えワイヤにより，ブレーキを早い目にきかせたいときは，ワイヤを張る方向に調整してください。

（ただし，早くしすぎるとクラッチが切れてすぐブレーキがききますので，ショックが多くなります。適正に調整してください。）





注意

●定期交換部品ですので500時間目又は２年ごとに交換してください。

■ワイヤハーネス，バッテリ⊕コードの点検・交換

安全ポイント

●ワイヤハーネス及びバッテリ⊕コードが損傷していると，ショートを起すので必ず点検してください。
▶もし怠ると……
火災，損傷の危険があります。

ワイヤハーネス，バッテリ⊕コードの被覆は各部の角に接触，ネズミのかじりなどにより，損傷したり自然劣化することがありますので，下記の項目について定期的に点検してください。

(1)ワイヤハーネスの損傷及びクランプにゆるみがないこと。

(2)ターミナル，ブロック(ソケット)の接続部のゆるみがないこと。

(3)各スイッチが確実に作動すること。

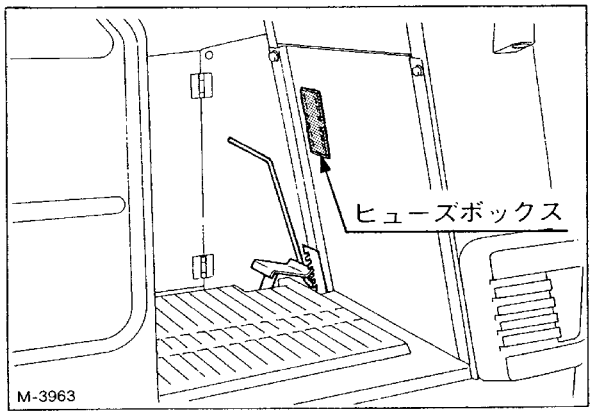
■電気配線の点検，ヒューズの交換

◆ヒューズの交換

❶ヒューズボックスのふたを外します。

❷ヒューズを外します。

❸切れたものと同容量のヒューズと交換します。



No.	容量	受けもっている回路
1	20A	直　B
2	10A	本　機
3	20A	刈　取
4	15A	ライト
5	10A	制御ボックス
6	20A	ソレノイド

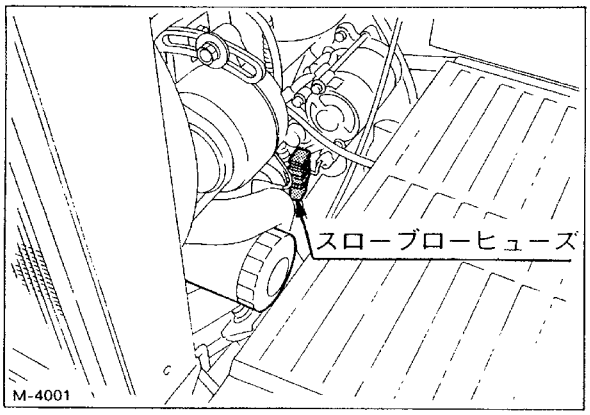
●予備ヒューズは，10A 1本，15A 1本，20A 2本が入っております。

注意

●ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は，針金や銀紙などで代用せず，販売店か農協で点検・修理してください。

◆スローブローヒューズの交換

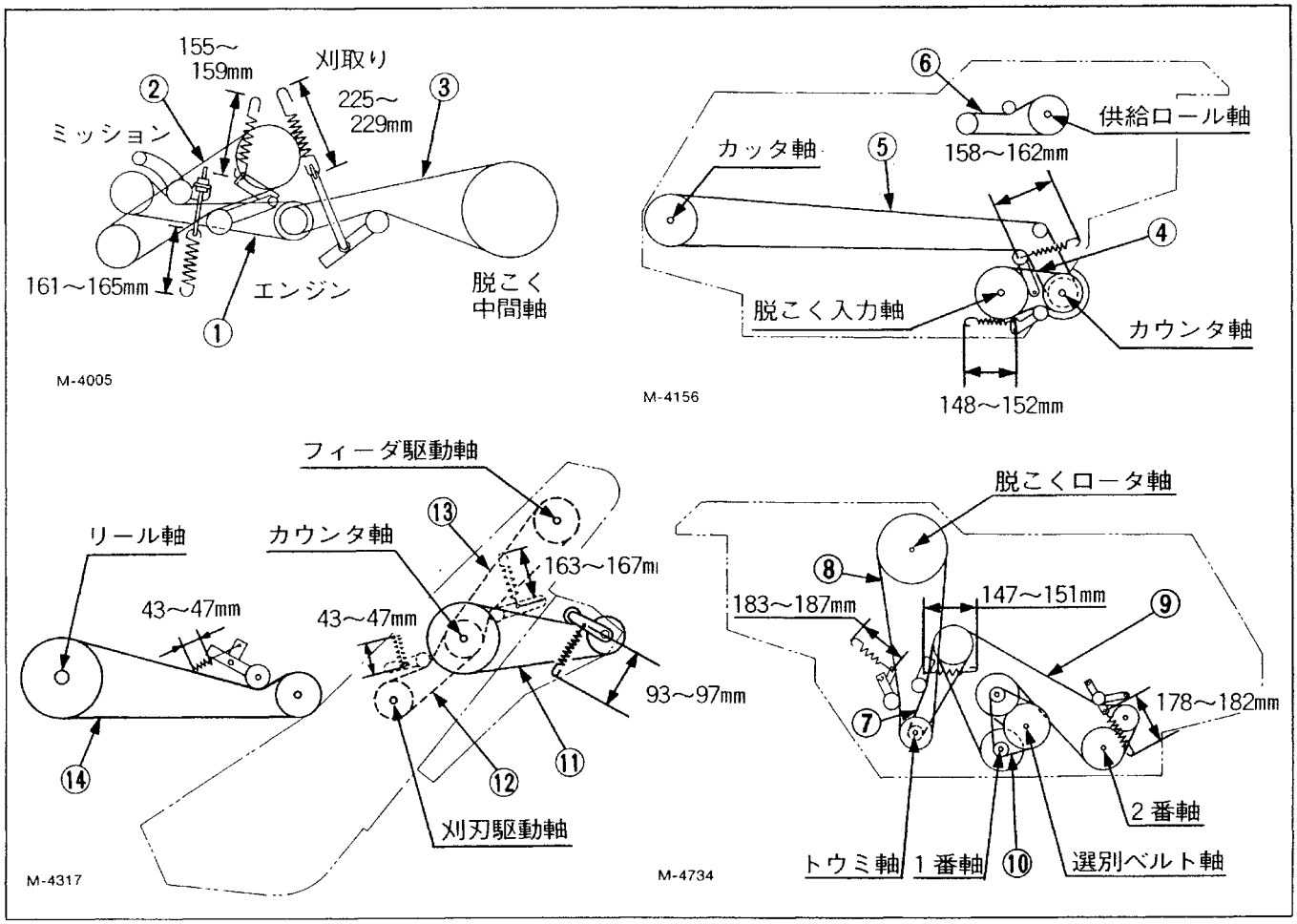
スローブローヒューズは配線を保護するためのものです。他の部品と当らないようにしてください。もし切れた場合は，必ず切れた原因を調べ，決して代用品を使用せず，純正部品を使用してください。



■各部ベルトの張り調整

◆各部のベルトサイズ

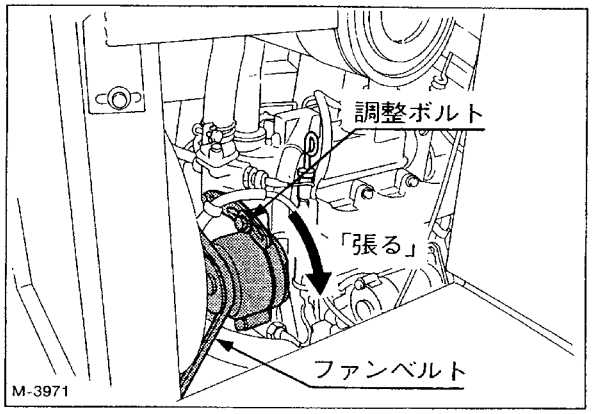
No.		ベルトの名称	サ　イ　ズ	スプリング取付け長さ（寸法はフック内側間）
エンジン周辺部	①	ミッション駆動ベルト（２本掛）	B-52	161～165mm
	②	刈取りクラッチベルト	B-73	155～159mm
	③	脱こくクラッチベルト	C-57	225～229mm
脱こく部	④	脱こくカウンタベルト	特C-37	148～152mm
	⑤	カッタ駆動ベルト	特B-150	158～162mm
	⑥	供給ロール駆動ベルト	特A-31	——
	⑦	処理部カウンタ駆動ベルト	特B-45	147～151mm
	⑧	脱こくロータ駆動ベルト	特C-80	183～187mm
	⑨	処理部駆動ベルト	特B-114	178～182mm
	⑩	選別駆動ベルト	特A-33	——
刈取り部	⑪	カウンタ駆動ベルト	LB-65	93～97mm
	⑫	刈刃駆動ベルト	LB-40	43～47mm
	⑬	フィーダ駆動ベルト	LB-59	163～167mm
	⑭	リール駆動ベルト	LB-90	43～47mm



◆ファンベルト

ダイナモの取付けボルトをゆるめ，ダイナモを手で引張りながら，取付けボルトを締付けます。

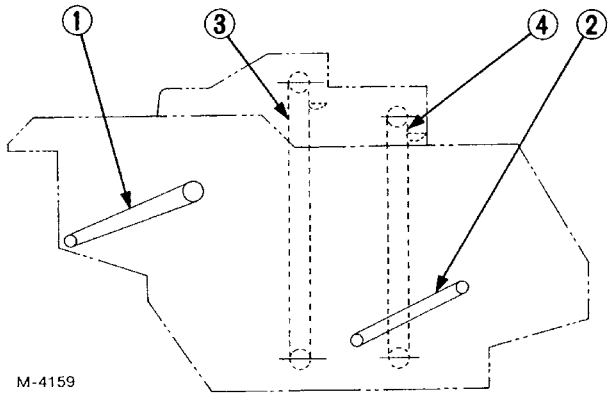
ベルト中央部のたわみ	5～10mm



■特殊ベルトの張り調整

◆ベルトサイズ

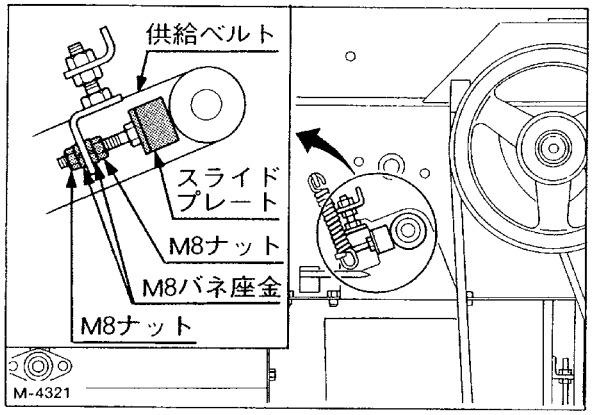
No.	ベルトの名称	サ イ ズ
①	供給ベルト	巾626mm 長さ1222mm
②	選別ベルト	巾778mm 長さ1092mm
③	1番バケットコンベア	巾75mm 長さ2430mm
④	2番バケットコンベア	巾75mm 長さ2120mm

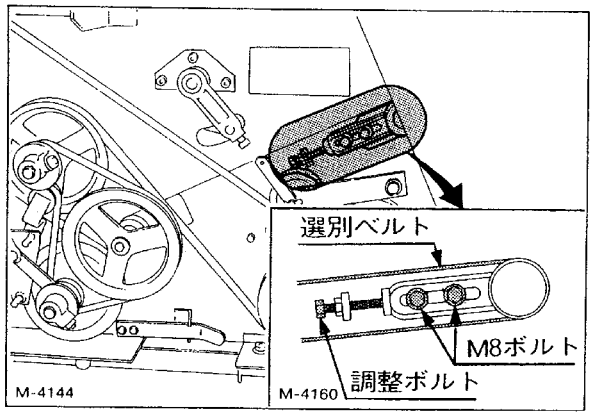


◆①供給ベルト ②選別ベルト } の張り調整

両側のM８ボルトをゆるめ，調整ボルトで調整してください。(左右均等に張ってください。)

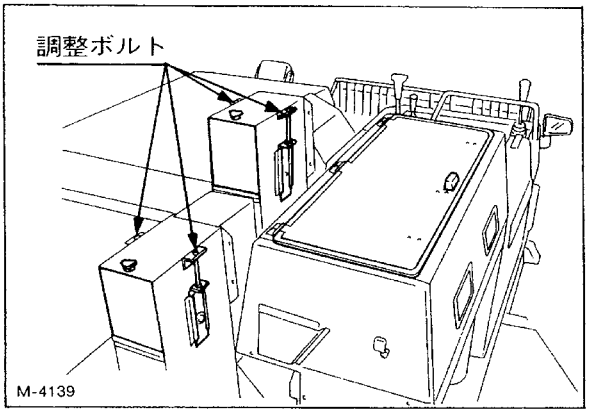
(ベルトの中間部分を指で押し，５～10mmぐらいくぼむ程度)





◆③1番バケットコンベア ④2番バケットコンベア } の張り調整

調整ボルトで調整してください。



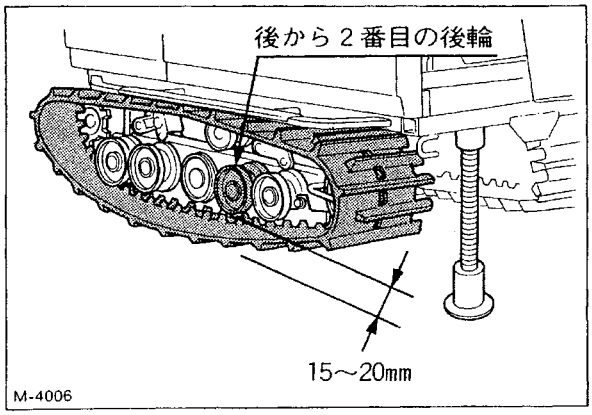
■クローラの張り調整

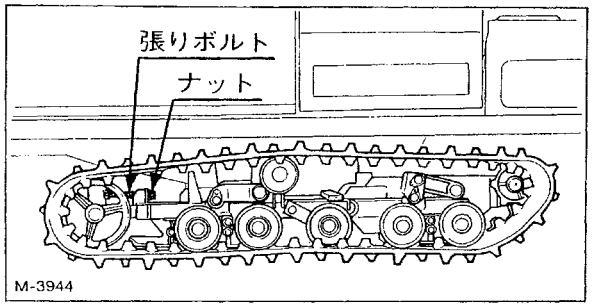
❶クローラ張り用ナットをゆるめて，張りボルトを締めます。

❷バックして停止し，フレーム後部をジャッキアップし，後から２番目の転輪とクローラのすき間を15～20㎜になるように調整します。

❸左右同じ張り具合になっているか確認してください。

２番目の転輪と クローラとのすき間	15～20㎜以内



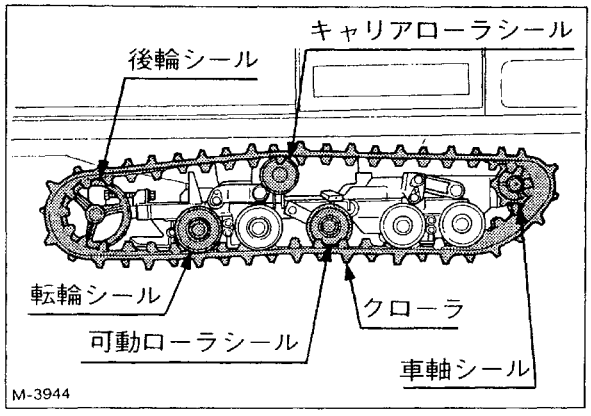


■足回りシールの定期交換

(1)足回りの軸受シールは500時間目又は２年ごとに交換してください。

(2)交換箇所

- 車軸シール
- 後輪シール
- 転輪シール
- 可動ローラシール
- キャリアローラシール



■刈刃の調整・交換

安全ポイント

(1)刃部に手を掛けないでください。不用意に刃が動くと危険です。

(2)危険ですので，手袋を使用してください。

◆ナイフクリップの調整

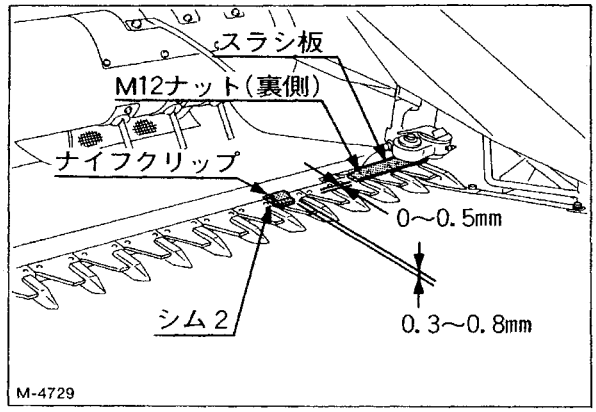
出荷時は刈刃とのすき間を0.3～0.8㎜にセットしてありますが，すき間が多くなったときはシム２を抜いて調整してください。

◆スラシ板の調整

出荷時はナイフバーとのすき間を０～0.5㎜にセットしてありますが，すき間が多くなったとき(１㎜以上)は，M12ナットをゆるめて調整してください。

注意

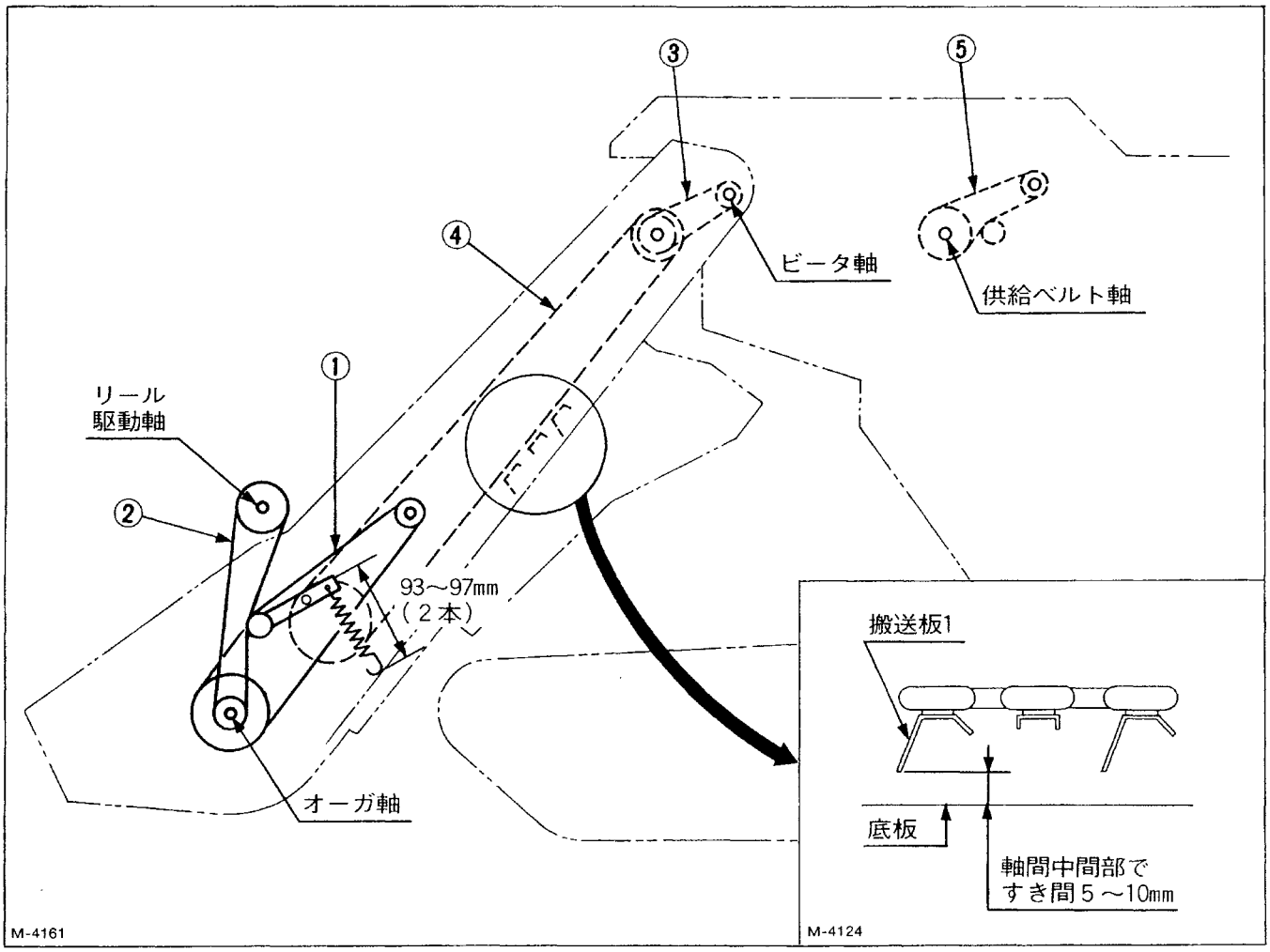
●調整するときは，刈刃の往復運動の中間の位置で行なってください。



■各部チェーンの張り調整

◆各部のチェーンサイズ

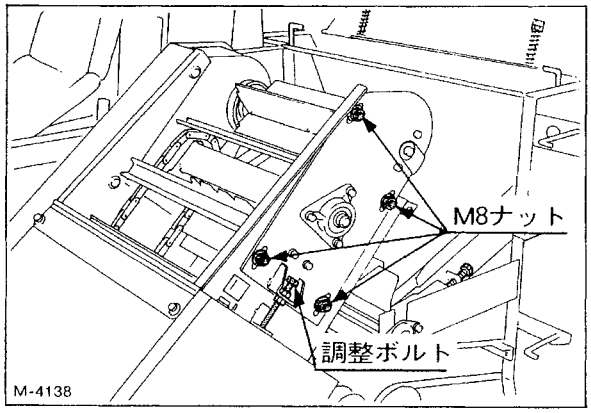
No.		名　　称	サ　イ　ズ	スプリング取付け長さ （寸法はフック内側間）
刈取り部	①	オーガ駆動チェーン	415S(170リンク)	93～97mm
	②	リール駆動チェーン	415S(95リンク)	93～97mm
	③	ビータ駆動チェーン	415S(46リンク)	——
	④	フィーダチェーン	(87リンク)	別　記
脱こく部	⑤	供給ベルト駆動チェーン	415S(59リンク)	——



◆フィーダチェーンの張り調整

❶両側Ｍ８ナットをゆるめます。

❷調整ボルトで搬送板１と底板とのすき間が軸間中間部で５～10mm程度になるように張ります。



各部開閉のしかた

「刈取り部の脱着」「エンジンルームのフルオープン」その他各部の開閉が容易にできますので，機械内部の点検整備・掃除がやりやすいです。

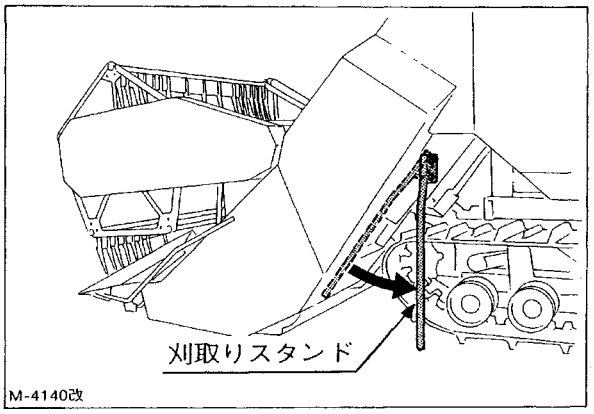
安全ポイント

●各部の開閉を行なうときは，必ずエンジンを停止してから行なってください。

■刈取り部の脱着

(技術を要しますので販売店・農協に依頼してください。)

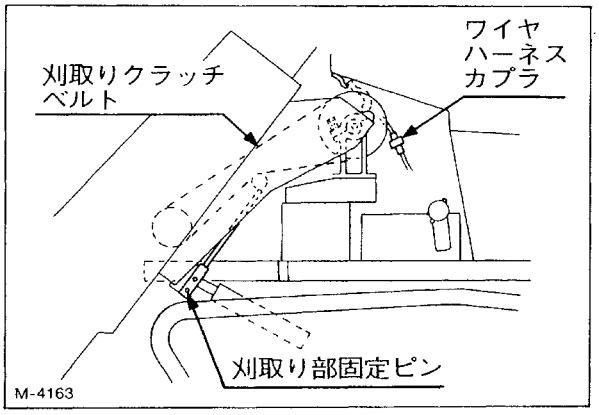
❶自動車体水平制御(モンロー)で機体を高くしてから刈取りスタンドを立てます。



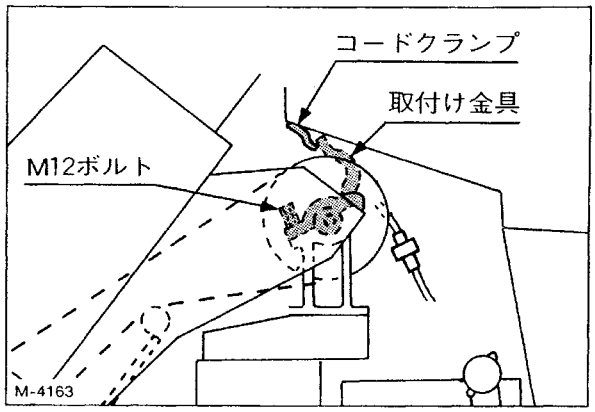
❷刈取りクラッチベルトを外します。

❸ワイヤハーネスカプラを外します。

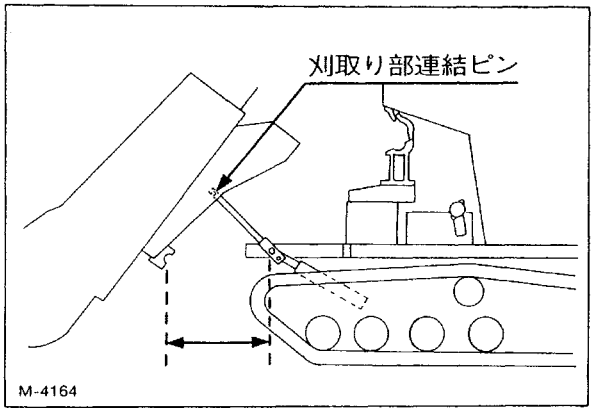
❹刈取り部固定ピン(下側)を外します。



❺刈取り部回動支点部のM12ボルト２本を外し，刈取り軸受の「取付け金具」を開き，脱こく部のコードクランプでとめます。



❻エンジンをかけゆっくり後進し，少し切りはなした所でエンジンを止め，刈取り部連結ピンを外します。



❼再び刈取り部を装着するときは，逆の手順でゆっくり取付けてください。

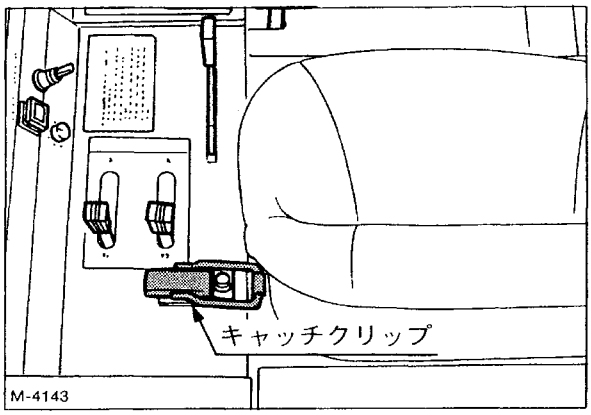
注意

(1)エンジン回転は2000回転／分以上とし，副変速は「倒伏」にして，シフトレバーは最低速で行なってください。

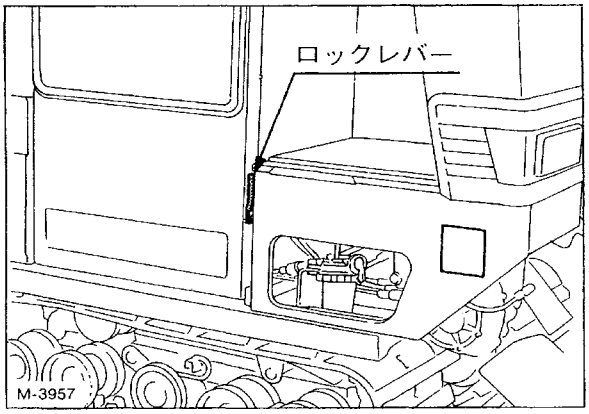
(2)平たんなコンクリートの上で作業してください。

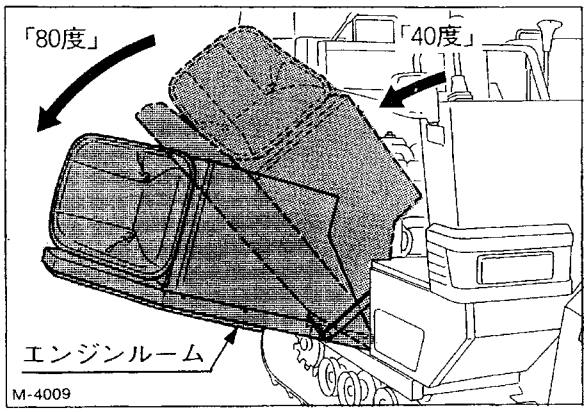
■エンジンルームのフルオープン

❶シートフレーム部のキャッチクリップを外します。



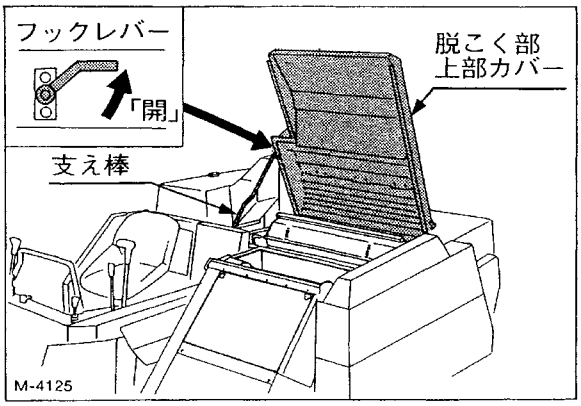
❷ロックレバーを上にあげ，エンジンルームを外側に倒して，エンジンルームを開放します。
エンジンルームは安全のため，40度開放で一度止まります。さらに80度までオープンするためには，ロックレバーを再度，上に上げると開きます。





■脱こく部上部カバーの開閉

フックレバーを起し，上部カバーを開きます。

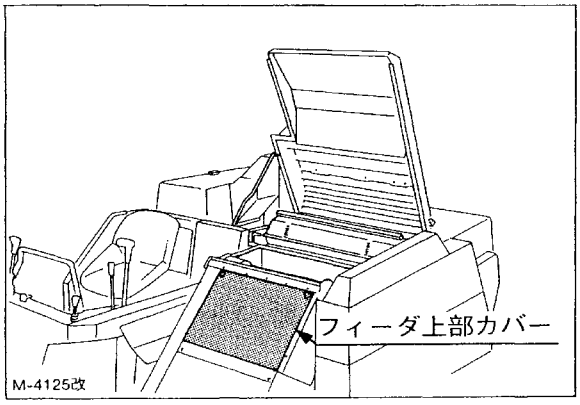


注意

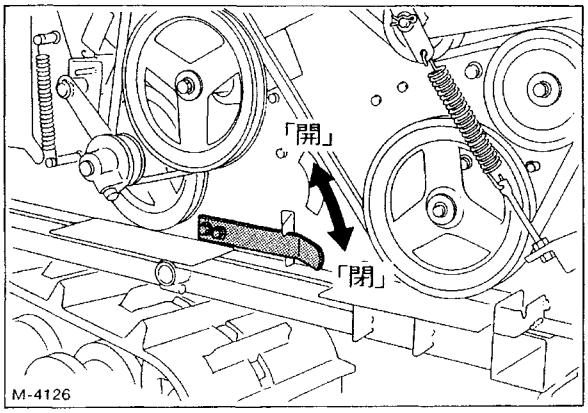
(1)開いたとき，支え棒は確実に穴に通してください。
(2)上部カバーを閉じたとき，フックが完全にきいている事を確認してください。

■フィーダ上部カバー

フィーダ部の確認は，フィーダ上部カバーを外して行なってください。

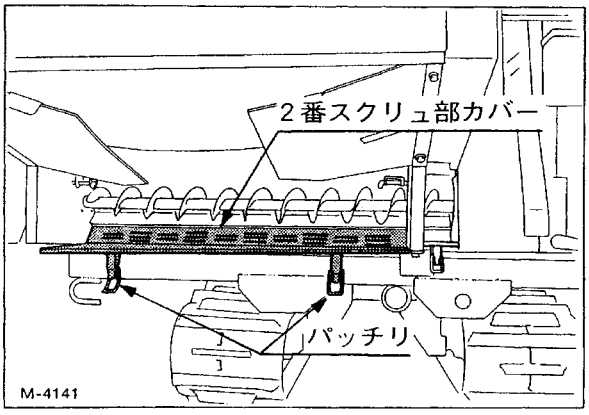


■1番スクリュ底板



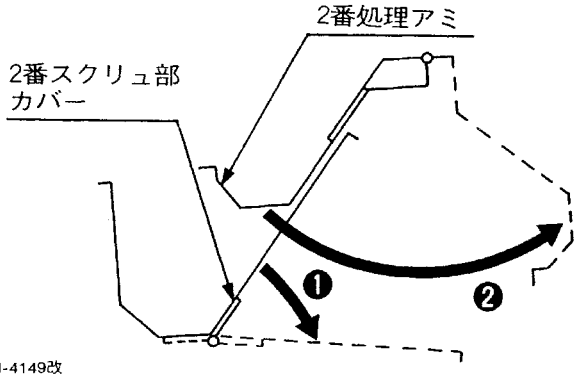
■２番スクリュ部カバー

カッタ下部奥のパッチリを外して開きます。



■２番処理アミの開閉

掃除のときに開きます。

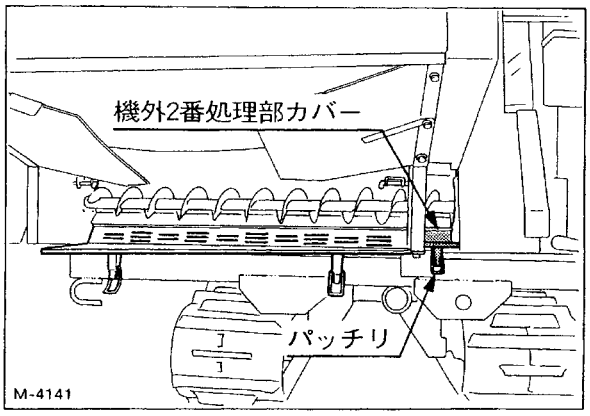


❶２番スクリュ部カバーを開きます。

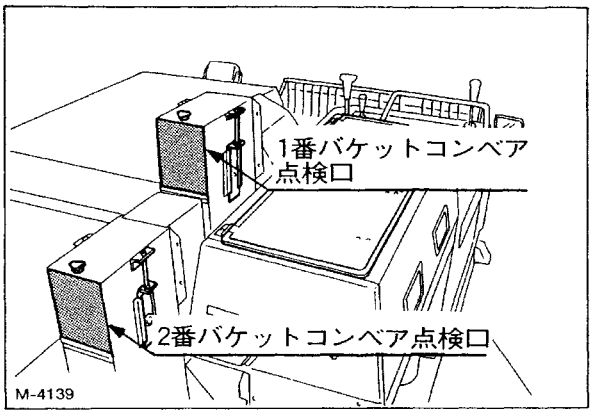
❷両サイドの止めピンを抜いて後方に開きます。

■機外２番処理部カバー

パッチリを外して開きます。

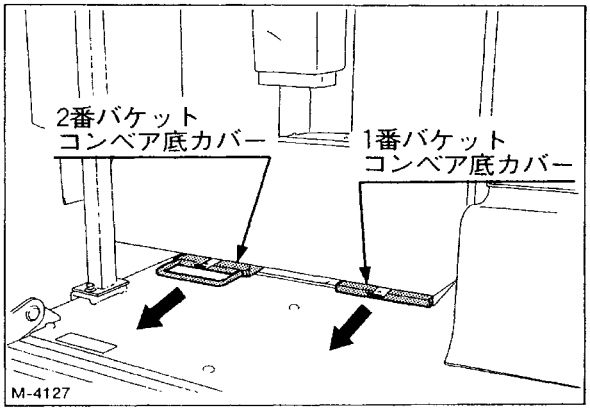


■1番･2番バケットコンベア点検口



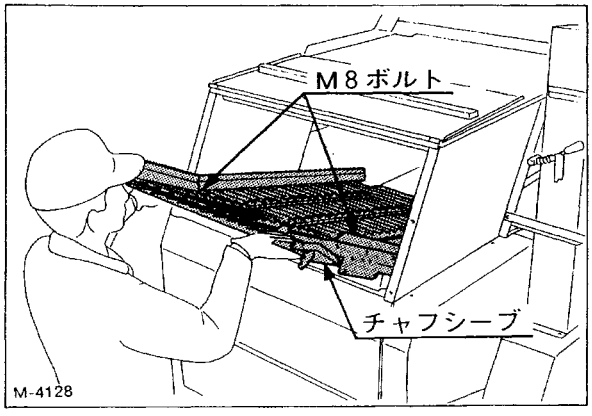
■1番･2番バケットコンベア底カバーの開閉

１番側は穴抜き板，２番側は平板で取手があります。



■チャフシーブの脱着

Ｍ８ボルト２本を外し，やや持上げて後方に引き出します。



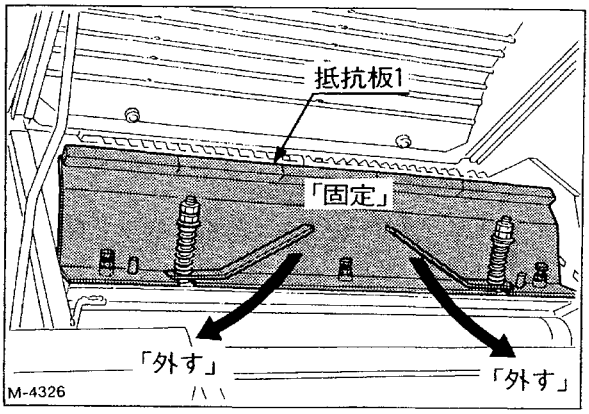
注意

(1)カッタ刃に触れないように注意してください。

(2)抜き取るときは２人で作業してください。

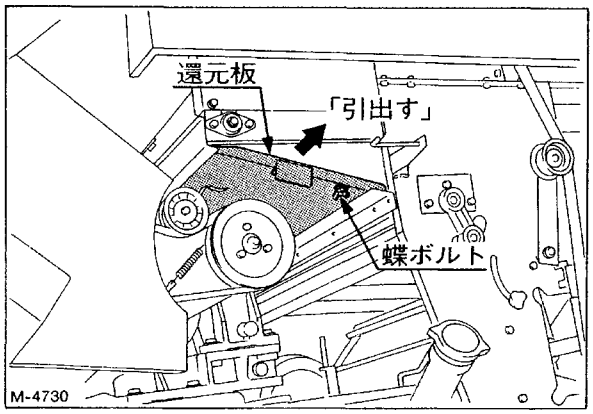
■抵抗板１の脱着

左右のレバーを前方に回し持上げます。



■還元板の脱着

蝶ボルトを外し，還元板を手前に引出します。



機内の掃除のしかた

大豆は特に機内の清掃が大事です。毎日作業が終ったら掃除をしてください。刈取り品種が変わるときは特に入念に実施してください。

安全ポイント

(1)各部の調整．点検・交換や部品の取外し・取付け，手による掃除は必ず脱こくクラッチを切り，必ずエンジンを停止してから行なってください。

(2)空運転するときには，下向き以外のカバーは閉じてください。各部安全カバーも必ず取付けてください。

❶下向きカバーを開きます。

１番スクリュ底板	(45ページ参照)
２番スクリュ部カバー	(46ページ参照)
２番処理アミ	(46ページ参照)
１番バケットコンベア底板	(46ページ参照)
２番バケットコンベア底板	(46ページ参照)

❷３分間空運転します。

❸その他の開口部を開きます。

脱こく部上部カバー	(45ページ参照)
フィーダ上部カバー	(45ページ参照)
機外２番処理部カバー	(46ページ参照)
１・２番バケットコンベア点検口	(46ページ参照)

❹チャフシーブを外します。(46ページ参照)

❺抵抗板１を外します。(47ページ参照)

❻還元板を外します。(47ページ参照)

お手持ちの動力散布機やコンプレッサ，ブロワを使って上部の方からきれいに掃除してください。

穀粒の流れ通路は，布をしめらせてふきとるようにしてください。

ホッパの中，１番・２番バケットコンベアのバケットもふいてください。

長期格納のしかた

(1)各部に付着した泥などの汚れをきれいに水洗いし，乾いた布で水分をふき取ってください。

(2)各回転部分や切刃部・ベルト・チェーンなどに巻付いた雑草やくずを，完全に取除いてください。

(3)各回転部分や摩擦しゅう動部分には，十分注油し，さびないよう配慮してください。

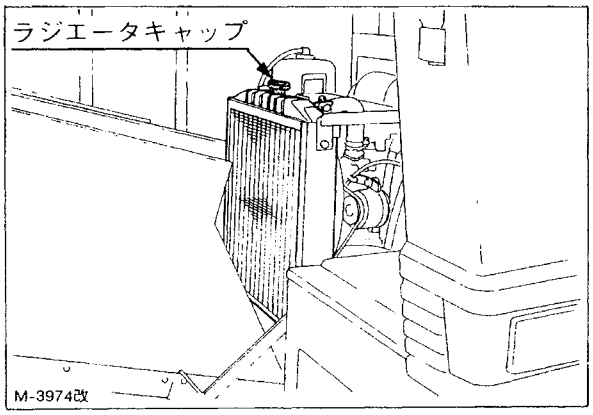
(4)各チェーンにも十分注油して，さびないよう配慮してください。

(5)各部に穀粒やくずが残っていると，ネズミの巣になったり配線部をかじられて，次の年の作業にさしつかえますからきれいに取除いてください。
特に供給平ベルトと選別平ベルトの高価部品の被害が散発していますのでご注意ください。
（クボタ純正部品ラットガードを配線にスプレーすると効果的です。(59ページ参照)）

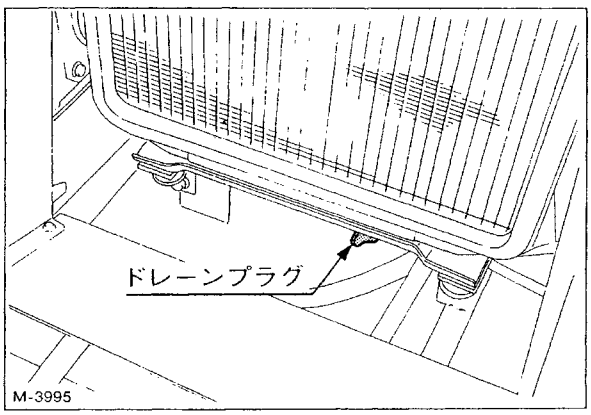
(6)塗料のはげた所には補修塗料を塗って，さびがでないようにしてください。

(7)ラジエータの冷却水は冬期の凍結割れ防止のため，排水するか，不凍液(ロングライフクーラント)を水に混ぜて入れてください。
冷却水を抜取るときは，次の要領で行なってください。

❶ラジエータのキャップを開きます。



❷排水用ドレーンプラグを開きます。



❸ドレーンプラグは開いたままにし，キャップに「水なし」と書いた札をかけておきます。

(8)エンジンは，必ずアクセルレバーをいっぱい戻して止めておいてください。

(9)メインスイッチのキーは，必ず抜取って保管してください。

(10)バッテリは機体から取外して，液を規定量にしてから充電し，直射日光の当たらない乾燥したところに保存してください。
バッテリは保存中でも自然放電するので，夏は1カ月に1回，冬は2カ月に1回補充電する必要があります。また本機に取付けたまま保管するときは必ずアース側(⊖側)を外してください。

(11)刈取りクラッチレバー・脱こくクラッチレバーは「切」にしておいてください。

(12)戸外に置く場合は，雨水がかからないようにシートでおおっておいてください。

(13)マフラ，エンジンが冷えてからシートをかけてください。

注意

- 機体を洗う場合は，電装部品に水がかからないようにしてください。

コンバインの不調と処置

次のようなトラブルが起ったら！

ページ

水温ランプが点滅しブザーが鳴った 50

エンジンがかからない 51

作物を刈取らずに押倒していく 52

ピーピーと断続ブザーが鳴る 52

ピーピーと断続ブザーが鳴りエンジンが停止する 53

こぎ残りがでる 53

穀粒の飛散が多い 54

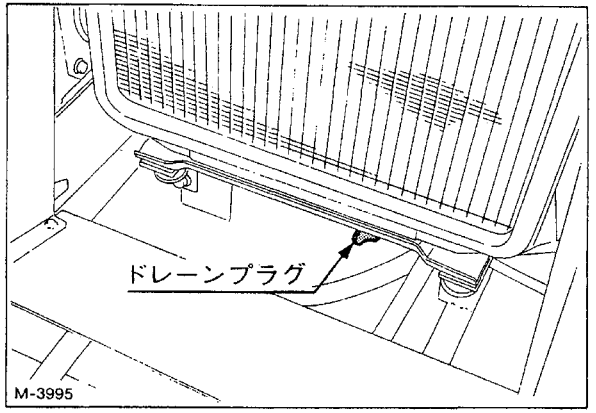
選別が悪くなった 54

損傷粒が多い 55

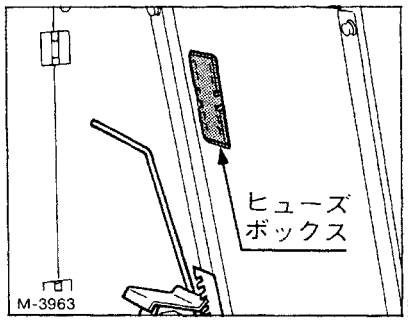
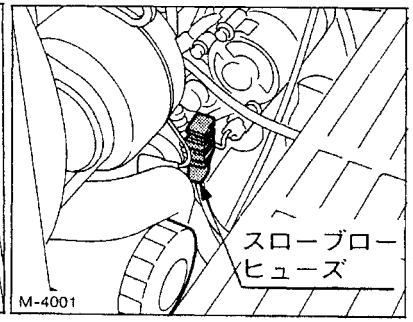
汚粒が出る 55

水温ランプが点滅しブザーが鳴った

●エンジンがオーバヒート(過熱)している。

すぐにすること	原　因	点検箇所	処　置	参照ページ
●刈取り作業を中止して，エンジンを止める。	防じん網，又はラジエータフィンがくずなどで目詰まりしている。	防じん網	●防じん網をブラシなどで清掃する。	37ページ
		ラジエータフィン	●圧縮空気か水道水で，フィンを傷つけないように清掃する。	37ページ
	冷却水が不足している。	ラジエータ リザーブタンク	●清水をラジエータ給水口まで補給する。 (ラジエータが熱いときは危険です。 30分程度冷やしてキャップを開けてください。) ●清水をリザーブタンクの「FULL」まで補給する。 ●ドレーンプラグから洩れていないか点検する。  	28ページ
	エンジンオイルが不足している。	オイルゲージ	●上限近くまで，補給する。	29ページ
		エンジンオイル フィルタカートリッジ	●エンジンオイルフィルタカートリッジの交換時期になっていれば交換してください。	36ページ
	ファンベルトがゆるんでいる。	ファンベルトのたわみ	●ダイナモの取付けボルトをゆるめ，ダイナモを手で引張りながらベルトの増張りを行なう。 ●ベルトが損傷しているときは新品と交換する。	41ページ

エンジンがかからない

すぐにすること	原因		点検箇所	処置	参照ページ
●メインスイッチを「切」の位置にする。	セルモータは回る	燃料がない。	燃料ゲージ	●燃料があるか点検し，ない場合は補給する。(火気厳禁)	8ページ
		燃料フィルタ	燃料フィルタ	●燃料フィルタの目詰まりがないか点検し，洗浄する。 ●燃料パイプの折れ，破損を点検し，異常があれば交換する。	36ページ
		燃料の種類	燃料の種類	●ディーゼル軽油，又はクボタディーゼル重油を補給する。	8ページ
	セルモータが回らない	主変速レバーが「停止」になっていない。	主変速レバー	●主変速レバーを「停止」にする。 (主変速レバーを「停止」にしないと安全スイッチが作動してエンジンは始動しない構造になっています。)	10ページ
		バッテリが上がっている。	バッテリ (ホーンの音が小さい)	●補充電する。 ●バッテリ液を点検し，不足の場合は市販のバッテリ精製水を補給する。	31ページ
		ヒューズ・スローブローヒューズが切れている。	ヒューズボックス スローブローヒューズ	●点検し，切れている場合は予備ヒューズと取替える。(アンペア数に注意) (スローブローヒューズはエンジンルームのオイルゲージ付近にあります。)  	39ページ
	エンジンが始動してもすぐ止まる。	カッタ安全カバーが正しくセットされていない。	カッタ後カバー カッタ安全カバー	正しく取付ける。	7ページ

作物を刈取らずに押倒していく

すぐにすること	原　因	点検箇所	処　置	参照ページ
●刈取り作業を中止して，刈取りクラッチレバーを切る。 ●必ずエンジンを止める。	刈刃や搬送部に根・株・泥・石や木片などの異物がかみ込んでいる。	刈刃部	●異物を取除き，刈刃部を点検する。	——
		搬送部	●異物を取除き，周辺を点検する。	——
	刈取りクラッチベルトがスリップしている。	刈取りクラッチベルトテンションスプリング	●テンションスプリングを張る。	40ページ

ビービーと断続ブザーが鳴る

すぐにすること		原　因	点検箇所	処　置	参照ページ
●刈取り作業を中止して，イージーチェッカをみる。 **注意** ●ブザーが鳴ったままで作業を続けるとトラブルの原因になります。	穀粒ランプが点滅している。	ホッパが満杯。	ホッパ	●もみ袋を交換する。	18ページ

ビービーと断続ブザーが鳴り，エンジンが停止する

すぐにすること		原　因	点検箇所	処　置	参照ページ
●刈取り作業を中止して，イージーチェッカをみる。	2番ランプが点滅している。	2番昇降ベルト部の詰まり。	●2番バケットコンベアの内部	●内部を点検，詰まりを取除く。	46ページ
			●2番還元口部	●周辺を点検，詰まりを取除く。	46ページ
			●2番袋が満杯	●もみ袋を交換する。	18ページ
			●2番スクリュー終端部	●周辺を点検，詰まりを取除く。	46ページ
		2番処理部の詰まり	●2番処理部	●2番底板ふさぎ板を開いて点検，詰まりを取除く。	46ページ
				●2番処理部カバーを開いて点検，詰まりを取除く。	46ページ

こぎ残りがでる

すぐにすること	原　因	点検箇所	処　置	参照ページ
●刈取り作業を中止し，搬送部にある作物を流しきる。	刈取り適期が早い。	作物成熟度	葉が完全に落ちて莢をふるとカラカラと乾いた音がする時期までのばす。	16ページ
	刈取り時間が早い。	作物の乾燥度	莢水分20％前後，指でさわってベトつかない時間までのばす。	16ページ
	エンジン回転数が低い。	回転計	回転計を見ながら，アクセルレバーで正規回転にする。	21ページ

穀粒の飛散が多い

すぐにすること	原　因	点検箇所	処　置	参照ページ
●刈取り作業を中止して，搬送部にある作物を流しきる。	脱こく回転数が高い。	回転計	●回転計をみながら，アクセルレバーで正規回転にする。	21ページ
	トウミ風力調節が強すぎる。	トウミ風力調節	●トウミ風力調節を「弱」の方に調節する。	22ページ

選別が悪くなった

現　象	原　因	点検箇所	処　置	参照ページ
莢からや，茎ぎれが入っている。	エンジン回転数が低い。	回転計	回転計を見ながらアクセルレバーで正規回転にする。	21ページ
	トウミ風力調節が弱い。	トウミ風力調節	トウミ風力調節を「強」の方に調節する。	22ページ
	チャフシーブのすき間が広すぎる。	チャフシーブの切換え	チャフシーブの目合を一段おとす。	22ページ

損傷粒が多い

現　　象	原　　因	点　検　箇　所	処　　置	参照ページ
破砕粒や皮切れ粒が多い。	エンジン回転数が高い。	回転計	回転計を見ながら，アクセルレバーで正規回転にする。	21ページ

汚粒がでる

現　　象	原　　因	点　検　箇　所	処　　置	参照ページ
大豆に黒い斑点が付く。	刈取り適期が早い。	作物成熟度	葉が完全に落ちて莢をふるとカラカラと乾いた音がする時期までのばす。	16ページ
	刈取り時間が早い。	作物の乾燥度	莢水分20％前後，指でさわってベトつかない時間までのばす。	16ページ
	雑草や青立が多い。	ほ場管理	雑草や青立茎は完全に取除く。	16ページ
	土が入った。	自動車体水平制御の自動切換えスイッチ	自動車体水平制御のスイッチを「自動」にする。 一度，土をかみ込んだら完全に取り除いてから作業を始めてください。	6ページ
	2番粒を袋取りしていない。	2番穀粒切換え	2番穀粒切換えを「袋取り」にしてください。	22ページ

付表

主要諸元表

商品名			DC−1
機体寸法	全長(mm)		4270
	全幅(mm)		1695
	全高(mm)		1895
重量(乾燥)(kg)			1650
エンジン	名称		クボタ　D1005-C
	形式		水冷4サイクル3気筒立形ディーゼル
	総排気量(cc)		1001
	出力/回転速度(PS/rpm)		21/3000
	使用燃料		ディーゼル軽油，又はクボタディーゼル重油
	燃料タンク容量(ℓ)		28
	始動方式		セルスタータ
走行部	クローラ(幅×接地長)(mm)		350×1200
	クローラ中心距離(mm)		885
	平均接地圧(kgf/cm²)		0.196
	変速方式		HST
	走行速度(m/秒)	前進	倒伏：0〜0.53，標準：0〜0.86，高速：0〜1.82
		後進	
	特殊機能		自動車体水平制御付
刈取り部	刈取り方式		リール(車速同調式)
	刈幅(mm)		1400
	刃幅(mm)		1372(フィンガ式)
	刈高さ範囲(mm)		−50〜610(刈刃先端)
脱こく部	脱こく方式		コーンケーブレスアンダブロウ方式
	ロータ	径×幅(mm)	300×800
		回転数(rpm)	590(大豆)　1070(そば)
	選別方式		揺動，傾斜ベルト，風選
	ホッパ	こく粒取出し方式	2口　袋詰方式
		容量(ℓ)	60
	カッタ		標準装備
能率(a/h)			15〜25
適用作物			大豆，そば

●この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

付属部品

次の部品が付属していますのでお調べください。

●サービスブック（保証書・愛用者カード）	1
●納入品安全説明書	1
●安全注意ポスタ	1
●取扱説明書	1
●取扱いビデオ	1
●純正部品表	1
●シートカバー	1
●もみ袋	3

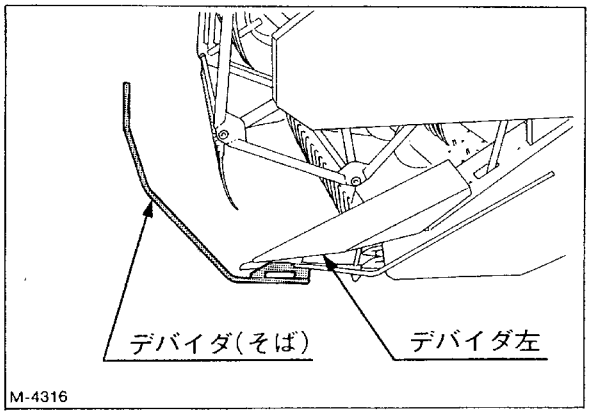
●工具	
10－12スパナ	1
12－14スパナ	1
14－17スパナ	1
19－22スパナ	1
ドライバ(＋，－)	1
プライヤ	1
油差し	1
ジョウゴ	1
給油パイプ	1
延長パイプ	1
ブラシ	1

特別付属品(別売)

■デバイダ(そば)アッシ

そばの刈取り作業に使用し，左側デバイダに取付けます。そば穀稈がデバイダにからみつかずスムーズに作業ができます。

品　番	品　名
51161-9910-0	デバイダ(そば)アッシ



クボタ純オイル

■オイルはクボタ純オイルをお使いください。

オイルはコンバインの開発研究から生まれたクボタ純オイルを，必ずお使いください。市販のオイルをご使用になりますと，あなたの大切なコンバインの寿命を縮めることがあります。

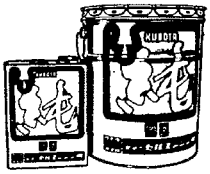
お買求めは，販売店・農協又はコスモ石油，日本石油，共同石油，昭和シェル石油のスタンドにご用命ください。

●エンジンには……

■クボタ純オイル

D30又はD10W30(４ℓ・20ℓ)

（ディーゼルエンジン用）



Z-1002

■クボタ純オイル

M80B

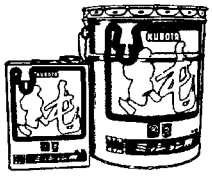
（各ギヤーケース用）

Z-1003

■クボタ純オイル

M90(４ℓ・20ℓ)

（各ギヤーケース用）

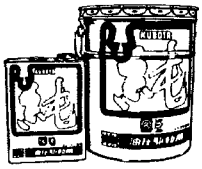


Z-1004

■クボタ純オイル

UDT

（ミッション・油圧兼用）



Z-1003

●グリースアップには……

■クボタスペアグリース

60・100・400

Z-1005

ラットガード

ラットガード クボタ純正品
ネズミよけスプレー塗料

品　番	品　名
07909-24590	ラットガード

■ネズミよけ塗料は…
- 機械の配線コード，ベルト，管，ホースなどへ
- ネズミの巣となりそうなところへ
- かじられたくないものを保管するカバー・袋・箱・ケースなどへ
- 家具・建具・調度品などへ

■ネズミよけ塗料の効果的なご使用は…
- ネズミが物を噛じる場合の習性は，かどの部分から噛じり始めます。決して平面部分から噛じり始めることはありませんので，かどの部分を重点的にネズミよけ塗料を塗布してください。
- 電線・管等の断面積の円形のもの，又は細いものは２～３cmの距離からノズルを軽く押えながら全体的に塗布してください。
- ネズミの通路を防ぐ場合は，ウエス・紙などでフタをし，その上からネズミよけ塗料で塗布してください。
- ネズミの巣となりそうなところへは，その周辺から中心に向って，厚めにネズミよけ塗料を塗布してください。

■ネズミよけ塗料の適用範囲は…
- ネズミはもちろんのこと，モグラ，イタチ，ウサギ，鹿などの動物にも効果があります。

■塗布後の有効期間は…
- 塗布する厚み，場所などの条件により有効期間は異なりますが，容器に表示の量（１カンで2.8m²）を使用した場合，次の効果があります。

	条件の良いところ	標　準	条件の悪いところ
味覚効果	1.5年～2年	1年～1.5年	6ヵ月～1年
臭気効果	8ヵ月～1年	6～8ヵ月	3～6ヵ月

※条件の悪いところは，
直射日光の当るところ。風雨にさらされやすいところ。湿気の多いところなどです。

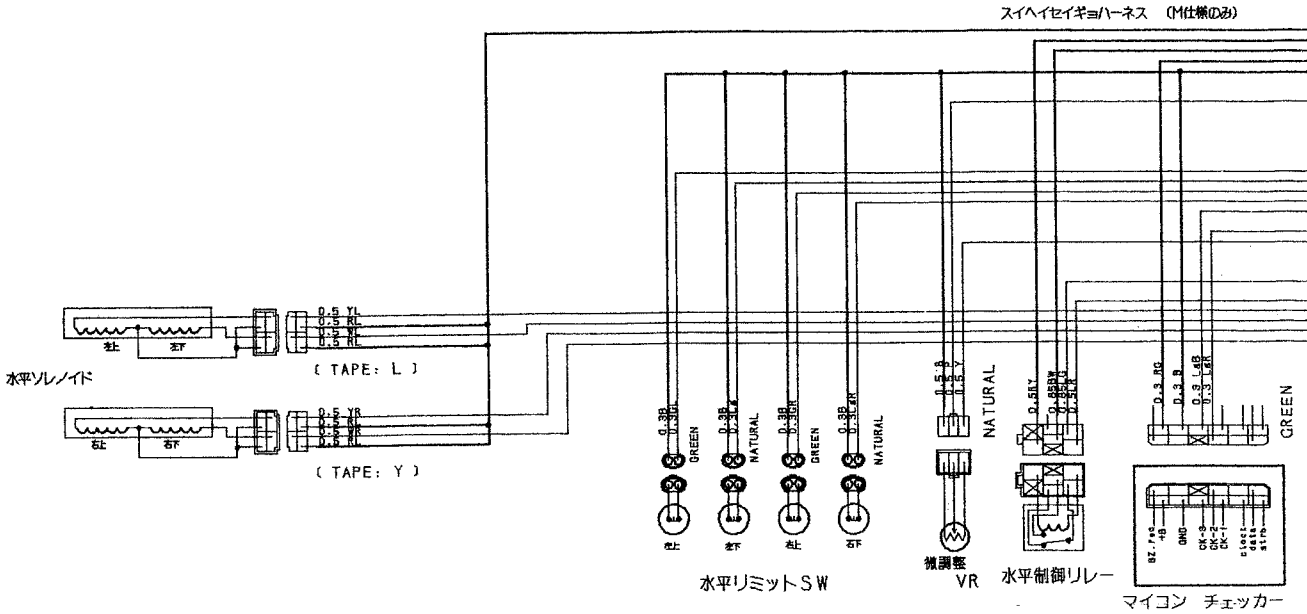
※条件の悪いところでは，容器に表示の量より厚めに塗布してください。有効期間が長くなります。

M-1027　420mℓ

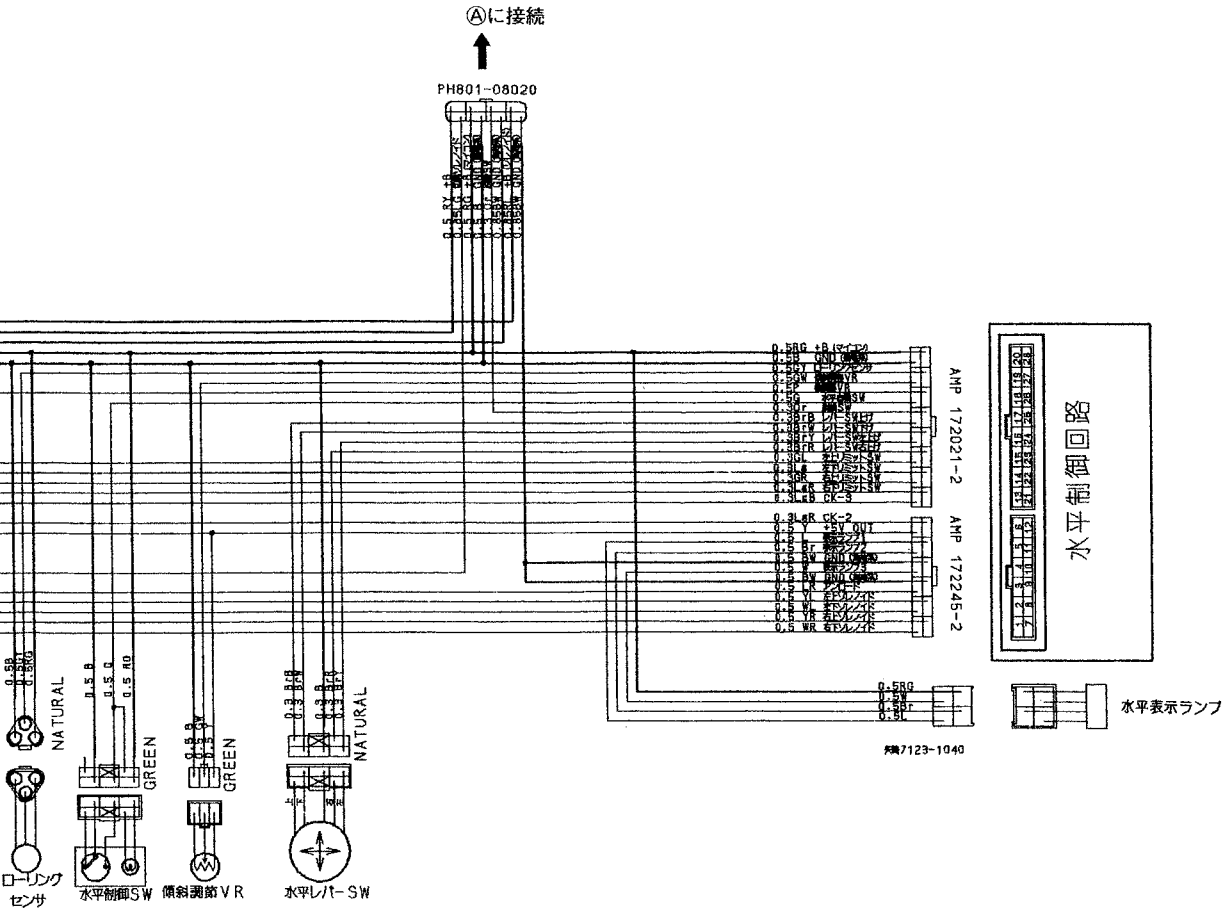
注意

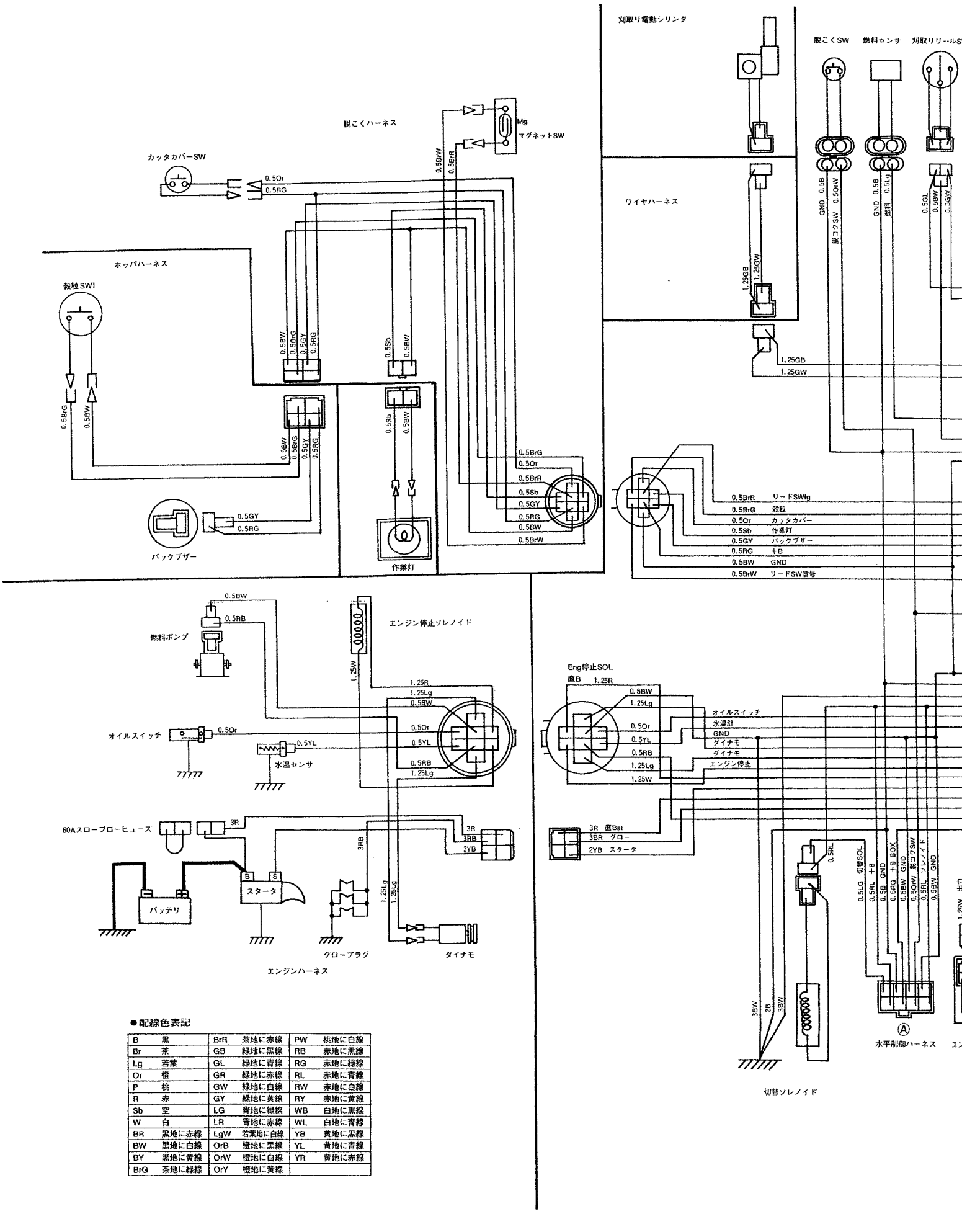
(1)ネズミよけ塗料は，殺鼠剤ではありません。ネズミにかじられそうなところへ塗布することにより，ネズミの害から守るための製品です。

(2)ご使用に際しては，製品に記載の注意事項を守ってください。



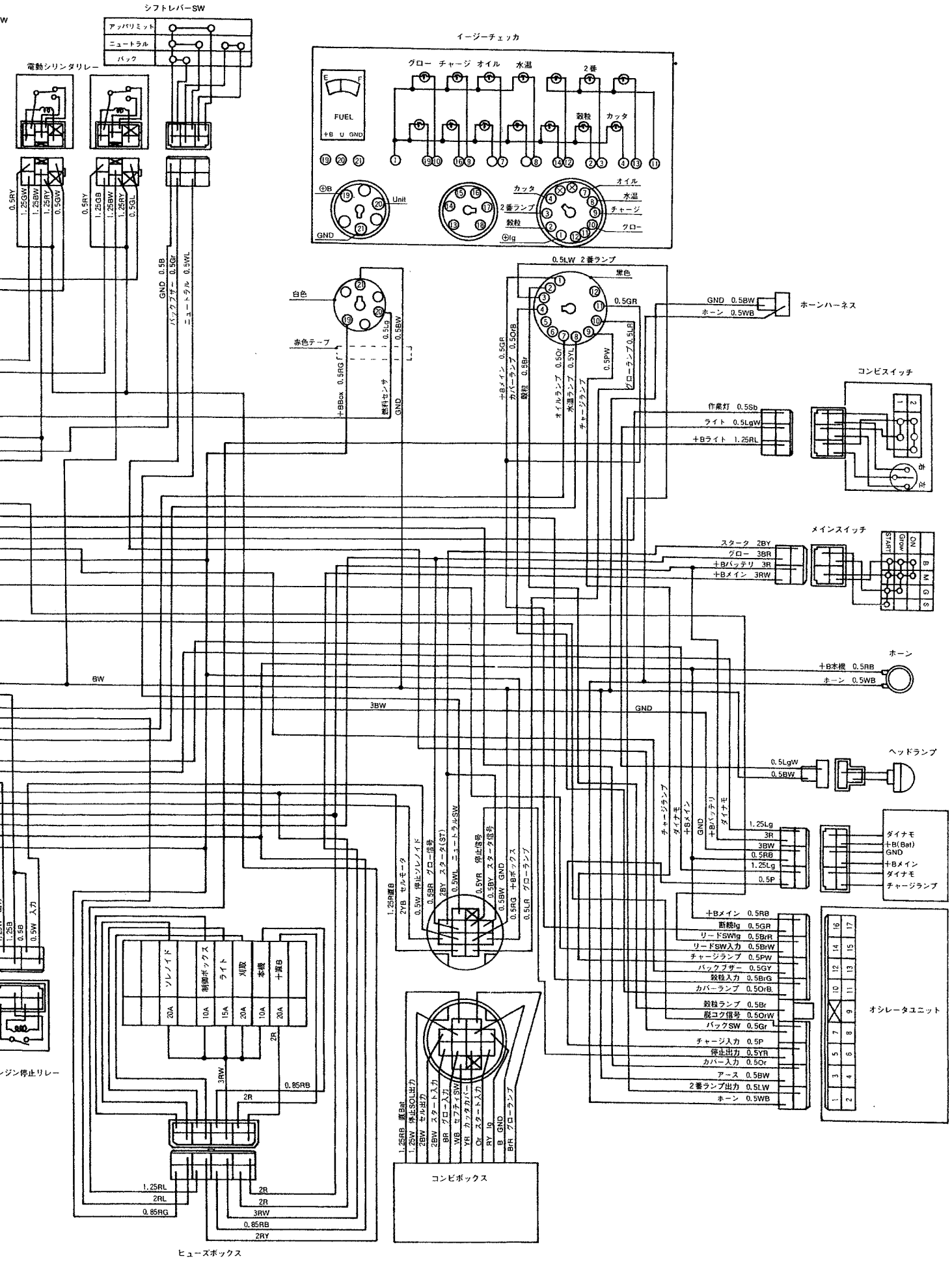
51161-9111-2(折)☆★一番後ろに入れる★☆


Ⓐに接続
PH801-08020
AMP 172021-2
AMP 172245-2
水平制御回路
水平表示ランプ
NATURAL
GREEN
GREEN
NATURAL
ローリング
センサ
水平制御SW
傾斜調節VR
水平レバーSW



●配線色表記

B	黒	BrR	茶地に赤線	PW	桃地に白線
Br	茶	GB	緑地に黒線	RB	赤地に黒線
Lg	若葉	GL	緑地に青線	RG	赤地に緑線
Or	橙	GR	緑地に赤線	RL	赤地に青線
P	桃	GW	緑地に白線	RW	赤地に白線
R	赤	GY	緑地に黄線	RY	赤地に黄線
Sb	空	LG	青地に緑線	WB	白地に黒線
W	白	LR	青地に赤線	WL	白地に青線
BR	黒地に赤線	LgW	若葉地に白線	YB	黄地に黒線
BW	黒地に白線	OrB	橙地に黒線	YL	黄地に青線
BY	黒地に黄線	OrW	橙地に白線	YR	黄地に赤線
BrG	茶地に緑線	OrY	橙地に黄線		


シフトレバーSW
アッパリミット
ニュートラル
バック
電動シリンダリレー
イージーチェッカ
FUEL
+B U GND
グロー チャージ オイル 水温 2番
穀粒 カッタ
⊕B
Unit
GND
⊕Ig
2番ランプ
0.5LW 2番ランプ
黒色
白色
赤色テープ
0.5GR
GND 0.5BW
ホーン 0.5WB
ホーンハーネス
コンビスイッチ
作業灯 0.5Sb
ライト 0.5LgW
+Bライト 1.25RL
メインスイッチ
スタータ 2BY
グロー 3BR
+Bバッテリ 3R
+Bメイン 3RW
START
ON
Glow
B
M
G
S
ホーン
+B本機 0.5RB
ホーン 0.5WB
ヘッドランプ
0.5LgW
0.5BW
BW
3BW
GND
ダイナモ
+B(Bat)
GND
+Bメイン
ダイナモ
チャージランプ
オシレータユニット
ソレノイド
制御ボックス
ライト
刈取
本機
十値B
20A
10A
15A
20A
10A
20A
ヒューズボックス
コンビボックス
ジン停止リレー

補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限(期間)は、製造打ち切り後９年といたします。
ただし、供給年限内であっても、特殊部品につきましては、納期等についてご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

純正部品を使いましょう

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。
市販類似品をお使いになりますと、機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

純正アタッチメントを使いましょう

純正アタッチメントは、一番よくマッチするように研究され、徹底した品質管理のもとで生産・出荷していますので、安心して使っていただけます。
市販類似品をお使いになりますと、作業能率の低下や機械の寿命を短くする原因になります。

株式会社クボタ

本社	大阪市浪速区敷津東１丁目２番47号	〒556-91	電(06)	648-2111
東京本社	東京都中央区日本橋室町３丁目１番３号	〒103	電(03)	3245-3111
北海道支社	札幌市中央区北３条西３丁目１番地44(札幌富士ビル)	〒060	電(011)	214-3111
東北支社	仙台市青葉区本町２丁目15番11号	〒980	電(022)	267-9000
中部支社	名古屋市中村区名駅３丁目22番８号(大東海ビル)	〒450	電(052)	564-5111
九州支社	福岡市博多区博多駅前３丁目２番８号(住友生命博多ビル)	〒812	電(092)	473-2401
札幌支店	札幌市西区手稲東３北３丁目２番地２	〒063	電(011)	662-2121
仙台支店	名取市田高字原182番地の１	〒981-12	電(022)	384-5151
東京支店	浦和市西堀５丁目２番36号	〒338	電(048)	862-1121
大阪支店	大阪市浪速区敷津東１丁目２番47号	〒556-91	電(06)	648-2111
岡山支店	岡山市宍甘275番地	〒703	電(0862)	79-4511
福岡支店	福岡市東区和白丘２丁目２番76号	〒811-02	電(092)	606-3161
堺製造所	堺市石津北町64番地	〒590	電(0722)	41-1121
宇都宮工場	宇都宮市平出工業団地22番地２	〒321	電(0286)	61-1111
筑波工場	茨城県筑波郡谷和原村字坂野新田10番地	〒300-22	電(029752)	5112
枚方製造所	枚方市中宮大池１丁目１番１号	〒573	電(0720)	40-1121
堺部品センター	堺市築港新町３丁８番	〒592	電(0722)	45-8601
宇都宮部品センター	宇都宮市平出工業団地38-16	〒321	電(0286)	63-6336
北海道部品センター	北海道札幌郡広島町字大曲186-37	〒061-12	電(011)	376-2335
筑波部品センター	茨城県筑波郡谷和原村字坂野新田10番地	〒300-22	電(029752)	2293
枚方部品センター	枚方市中宮大池１丁目１番１号	〒573	電(0720)	40-1797

株式会社クボタアグリ東北

秋田事業所	秋田市寺内字大小路207-54	〒011	電(0188)	45-1601
仙台事業所	宮城県名取市田高字原182-１	〒981-12	電(022)	384-5151

株式会社クボタアグリ東京

東京事業所	浦和市西堀５-２-36	〒338	電(048)	862-1121
新潟事業所	新潟市上所上１-14-15	〒950	電(025)	285-1261

株式会社クボタアグリ大阪

金沢事業所	石川県松任市下柏野町956-１	〒924	電(0762)	75-1121
名古屋事業所	愛知県一宮市観音町１-１	〒491	電(0586)	24-5111
大阪事業所	大阪市浪速区敷津東１-２-47	〒556-91	電(06)	648-2111

株式会社クボタアグリ中四国

米子事業所	米子市米原570	〒683	電(0859)	33-5011
岡山事業所	岡山市宍甘275	〒703	電(0862)	79-4511
高松事業所	香川県綾歌郡国分寺町国分字向647-３	〒769-01	電(0878)	74-5091

株式会社クボタアグリ九州

福岡事業所	福岡市東区和白丘２-２-76	〒811-02	電(092)	606-3161
熊本事業所	熊本県下益城郡富合町大字廻江846-１	〒861-41	電(096)	357-6181

品番 51161－9111－2